

成蹊教養カリキュラム

22/2/25 17 時 20 分

※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名		スポーツと科学											
教員名		田原 麗衣											
科目No.	120630010	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2022 前期						
〔テーマ・概要〕													
<p>本科目では、運動・スポーツとくにそのパフォーマンスに着目し、自然科学的なアプローチをすることで、より理解を深めることを主たる目的とする。スポーツパフォーマンスを構成する・支える要素は、「スキル・フィットネス・モチベーション」といわれ、日本でも古来から「心・技・体」といわれるよう、世界共通である。また、近年注目されるようになってきた「戦術・戦略」などの要素がある。これらの要素をもとに、スポーツパフォーマンスを支える科学について授業を展開、検証する。</p> <p>運動・スポーツを題材とし、それぞれの要素を科学的に検証し、要素還元論的な考察をする過程を通して、合目的的に活動するための教養を高めてもらいたい。</p>													
〔到達目標〕													
<p>①スポーツ・運動に関する科学的根拠を理解でき、スポーツ関連諸科学の学問内容や方法が理解できる。</p> <p>②自己やスポーツ・運動を客観的に把握・分析し、論理的に説明できる。さらに、様々な知識、原理原則等を活用できるようになる。</p> <p>上記を到達目標とし、DP2（教養の習得）、DP3（課題の発見と解決）の実現を目指す。</p>													
〔授業の計画と準備学修〕													
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）			準備学修の目安（分）						
第1回	ガイダンス： シラバスの内容、授業の進め方、評価基準等について把握する。			シラバスからあらかじめ授業内容を把握し、授業の全体像や進め方、評価基準について確認する。			60						
第2回	スポーツパフォーマンスを構成する要素： スポーツパフォーマンスを構成する要素や体力トレーニングの理論について把握する。			<p>【予習】スポーツパフォーマンスに影響を及ぼしている要素を考えてみる。 【復習】自身の体力向上のためのトレーニング計画を立ててみる。</p>			60						
第3回	スポーツと体力科学： ピリオダイゼーション（期分け）とトレーニングプログラミングについて把握する。			<p>【予習】トレーニング計画を立てる上で注意すべき事項について考えておく。 【復習】スポーツにおけるピリオダイゼーション（期分け）について、各期の課題を説明できるようにする。</p>			60						
第4回	スポーツと体力科学： 各機能を高めるためのトレーニング方法についての理論や方法を理解する。			<p>【予習】現在（過去）行っている練習で高められる機能には、どのような要素があるか考えてみる。 【復習】目的に応じたトレーニングの方法を説明できるようにする。</p>			60						
第5回	スポーツと体力科学： ウォーミングアップやクールダウンの意義や正しい方法を理解する。			<p>【予習】ウォーミングアップやクールダウンの意義を考えてみる。 【復習】自分が行うウォーミングアップやクールダウンの計画を立ててみる。</p>			60						
第6回	スポーツと技術の科学： 運動やスポーツにおける技術の定義や技術における動作の局面構造と運動協調について把握する。			<p>【予習】運動・スポーツにおける技術的な上手さ（巧さ）とはどのような状態を指すか考えておく。 【復習】技術における動作の局面構造を説明できるようにする。</p>			60						
第7回	スポーツと技術の科学： スポーツの技術に関する能力段階と技術トレーニングについて理解する。			<p>【予習】運動学習の段階について調べておく。 【復習】技術に関する能力段階に応じた、技術トレーニングについて計画を立ててみる。</p>			60						
第8回	スポーツと心理学： メンタルトレーニングの基礎理論とアセスメントについて把握する。			<p>【予習】スポーツにおいて用いられているメンタルトレーニングについて調べておく。 【復習】自身のメンタルアセスメントを元に、自身の状況を分析してみる。</p>			60						
第9回	スポーツと心理学： スポーツにおけるリラクセーションや様々なメンタルトレーニングプログラムについて把握する。			<p>【予習】メンタルトレーニングプログラムについて調べておく。 【復習】授業で扱ったリラクセーション法やメンタルトレーニングプログラムを実践してみる。</p>			60						
第10回	コンディショニングの科学： スポーツにおけるコンディショニングについて把握する。			<p>【予習】最大限のパフォーマンス発揮のために必要な要素について考えておく。 【復習】自身の重要な場面（スポーツに限らなくても良い）に向けたコンディショニングについて考えてみる。</p>			60						
第11回	スポーツと戦術・戦略の科学： スポーツにおける戦術・戦略、作戦について基本的な理論を把握する。			<p>【予習】スポーツにおいて、戦術・戦略がどのように活用されているか調べてみる。 【復習】戦術・戦略や作戦について具体的に説明できるようにする。</p>			60						
第12回	スポーツと戦術・戦略の科学： スポーツにおけるゲーム分析やデータの活用について把握する。			<p>【予習】スポーツにおけるゲーム分析やデータの活用について、具体例を調べておく。 【復習】より有効にデータを活用し、戦術・戦略を立てる方法を考えてみる。</p>			60						
第13回	スポーツとデータの活用と展開：スポーツにおけるデータの活用と展開について考察する。			<p>【予習】データを活用している身近な例を考えておく。 【復習】今後のスポーツにおけるデータの活用と展開について考察する。</p>			60						
第14回	講義のまとめ： これまでに行った学修内容をまとめ、学修内容を確認する。（到達度確認テストを実施する場合もある）			<p>【予習】これまでの回で学んだ内容を確認しておく。 【復習】レポート作成を通して自身の理解度を確認し、理解度が足りない点は復習する。</p>			90						
〔授業の方法〕													
<p>各回のテーマに則した資料（スライド、動画資料、配布資料）を用いて講義形式で授業を展開する。必要に応じて測定機器を使用した演習形式の授業、グループによるディスカッション・発表という形式の授業も行う。</p> <p>授業内課題レポートを課すので、そのレポートを利用して受講生とのコミュニケーションを図り、出来る限り双方向の授業を展開する。</p>													

ただし、授業の進捗状況等によって、内容を一部変更する場合がある。

〔成績評価の方法〕

課題提出状況 60%、平常点（授業への参加状況を含む）40% により総合的に評価する。
履修者数などの状況によっては最終週に到達度確認テストを実施する場合がある。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.
上記、到達目標の達成度にもとづいて評価する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

予備知識や先修科目は特に必要としない。
関連科目として、健康・スポーツ科目的「健康と科学」、「スポーツと社会」、「スポーツと文化」の講義科目、「健康・スポーツ演習A」、「健康・スポーツ演習B」の実技科目がある。

〔テキスト〕

特になし。必要な資料は授業内に配布・掲示する。

〔参考書〕

参考書は授業中に適宜指示する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

授業終了後に、実施場所にて受け付ける。
その他の質問・相談方法はポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

成蹊教養カリキュラム

22/2/25 17 時 20 分

※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	スポーツと文化												
教員名	有元 健												
科目No.	120640010	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2022 後期						
〔テーマ・概要〕													
この授業では、スポーツという文化現象がどのように社会の中に位置づけられてきたかを、歴史的な視点および社会学的な視点から考察していく。スポーツ史、ジェンダー論、人種論、ナショナリズム論、メディア論といった側面からスポーツを読み解いていく。													
〔到達目標〕													
DP2（教養の習得）、DP3（課題の発見と解決）を実現するため、以下を到達目標とする。 ① スポーツが固有にもつ意義の背景について、具体的な現象・経験と社会的背景の関連から考えることができる。 ② スポーツの文化的特質について、学問的知識にもとづいて論理的に考察および表現することができる。													
〔授業の計画と準備学修〕													
回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）			準備学修の目安（分）								
第1回	ガイダンス：このコースの流れと評価基準の提示。さらにスポーツとはどんな現象かをディスカッション。	復習（配布資料を読み返す）			60分								
第2回	スポーツと文明化	復習（配布資料を読み返す）			60分								
第3回	スポーツと地域社会	復習（配布資料を読み返す）			60分								
第4回	スポーツと人種差別(1)：ミルウォールFCの事例	復習（配布資料を読み返す）			60分								
第5回	スポーツと人種差別(2)：ユーロ2020の事例	復習（配布資料を読み返す）			60分								
第6回	スポーツとジェンダー	復習（配布資料を読み返す）			60分								
第7回	スポーツとセクシュアリティ	復習（配布資料を読み返す）			60分								
第8回	スポーツとメディア(1)：スポーツメディアとイデオロギー	復習（配布資料を読み返す）			60分								
第9回	スポーツとメディア(2)：メディアコンテンツとしてのスポーツ	復習（配布資料を読み返す）			60分								
第10回	スポーツとメディア(3)：スポーツメディアと情動	復習（配布資料を読み返す）			60分								
第11回	日本代表論(1)：サッカー日本代表を中心に	復習（配布資料を読み返す）			60分								
第12回	日本代表論(2)：日本代表とはどんな現象なのか？	復習（配布資料を読み返す）			60分								
第13回	東京オリンピック論	復習（配布資料を読み返す）			60分								
第14回	ポストスポーツ論	復習（配布資料を読み返す）			60分								
〔授業の方法〕													
講義形式です。ただし授業中にディスカッションを行うことがありますので、積極的に発言することが望されます。													
〔成績評価の方法〕													
平常点（授業への参加状況やコメントのクオリティ）60%、期末レポート（40%）													
〔成績評価の基準〕													

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特にありません。

〔テキスト〕
購入の必要なし。

〔参考書〕
『日本代表論』有元健・山本敦久編、せりか書房、3,000円 (可能であれば購入してください)

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

成蹊教養カリキュラム

22/2/25 17 時 20 分

※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	スポーツと社会												
教員名	岡田 光弘												
科目No.	120650010	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2022 前期						
〔テーマ・概要〕													
<p>本科目は、運動・スポーツと社会との関わりについて理解を深めることを主な目的とする。 運動・スポーツ、および社会構造について、概念的な理解を深めることで、運動・スポーツを実践し、享受し、支えることの社会的な意義を理解し、自らその環境を活用するための教養を高めることを目指す。</p>													
〔到達目標〕													
<p>①スポーツの社会的側面について理解でき、関連する諸科学分野の学問内容や方法を理解できる。 ②スポーツに関する政治・経済などの社会の仕組みと動きを理解し、その活用について考えることができる。 上記2点を到達目標とし、DP2（教養の修得）、DC3（課題の発見と解決）の実現を目指す。</p>													
〔授業の計画と準備学修〕													
回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）			準備学修の目安（分）								
第1回	ガイダンス	シラバスを読み、あらかじめ授業内容や全体像、進め方、評価基準等について確認する。			60								
第2回	スポーツについて概念的に把握する。	スポーツ・ゲーム・プレイについて、具体例を挙げられるようにしておく。 具体例について、講義で学んだ概念や用語と結びつけて理解する。			60								
第3回	社会学について、概念的に把握する。	全体社会や社会構造について、具体例を挙げられるようにしておく。 具体例について、講義で学んだ概念や用語と結びつけて理解する。			60								
第4回	質的な社会学について、概念的に把握する。	社会の中のスポーツ実践について、具体例を挙げられるようにしておく。 具体例を講義で学んだ概念や用語と結びつけ理解する。			60								
第5回	近代スポーツの成立と発展について、概念的・歴史的に把握する。	近代スポーツの成立と発展について、具体例を挙げられるようにしておく。 具体例を講義で学んだ概念や用語と結びつけ理解する。			60								
第6回	メディア化するスポーツについて、概念的に把握し、若干の例示を行う。	メディア化するスポーツについて、具体例を挙げられるようにしておく。 具体例を講義で学んだ概念や用語と結びつけ理解する。			60								
第7回	消費文化としてのスポーツについて、概念的に把握し、若干の例示を行う。	消費文化としてのスポーツについて、具体例を挙げられるようにしておく。 具体例を講義で学んだ概念や用語と結びつけ理解する。			60								
第8回	スポーツと政治・権力について、概念的に把握し、若干の例示を行う。	スポーツと政治・権力について、具体例を挙げられるようにしておく。 具体例を講義で学んだ概念や用語と結びつけ理解する。			60								
第9回	スポーツとジェンダーについて、概念的に把握し、若干の例示を行う。	スポーツとジェンダーについて、具体例を挙げられるようにしておく。 具体例を講義で学んだ概念や用語と結びつけ理解する。			60								
第10回	スポーツする身体について、概念的に把握し、若干の例示を行う。	スポーツする身体について、具体例を挙げられるようにしておく。 具体例を講義で学んだ概念や用語と結びつけ理解する。			60								
第11回	スポーツと教育について、概念的に把握し、若干の例示を行う。	スポーツと教育について、具体例を挙げられるようにしておく。 具体例を講義で学んだ概念や用語と結びつけ理解する。			60								
第12回	スポーツと地域社会について、概念的に把握し、若干の例示を行う。	スポーツと地域社会について、具体例を挙げられるようにしておく。 具体例を講義で学んだ概念や用語と結びつけ理解する。			60								
第13回	職業としてのスポーツや視聴者としての消費について、概念的に把握し、若干の例示を行う。	職業としてのスポーツや視聴者としての消費について、具体例を挙げられるようにしておく。 具体例を講義で学んだ概念や用語と結びつけ理解する。			60								
第14回	まとめの講義	これまでの学修を総合的に振り返る。			60								
〔授業の方法〕													
<ul style="list-style-type: none"> 各回のテーマに即した資料（スライド、動画資料、配布資料）を用いながら講義形式で授業を進める。 毎回授業内でレポートを課す。 授業の進捗によって、予習内容について報告（プレゼンテーション）を求めるなど、内容を一部変更する場合がある。 													
〔成績評価の方法〕													
<p>「学期末試験」「期末レポート」は実施しない。 各回のレポート（受講状況を含む）40%、 最終回まとめのレポート60%をもとに、総合的に評価する。</p>													
〔成績評価の基準〕													

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。

Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

また、次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ・毎回の授業のテーマと内容について基本的な理解ができているか。
- ・キーワードを用いて学習した内容を論理的に説明できるか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

関連科目として、健康・スポーツ科目的「健康と科学」、「スポーツと科学」、「スポーツと文化」の講義科目、「健康・スポーツ演習A」、「健康・スポーツ演習B」の演習科目がある。

〔テキスト〕

改訂版『よくわかる スポーツ文化論』、井上俊・菊幸一編著、ミネルヴァ書房、2500円

〔参考書〕

『現代メディアスポーツ論』、橋本純一編、世界思想社、2300円

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

授業終了後に、教室で受け付けます。

〔特記事項〕

成蹊教養カリキュラム

22/2/25 17 時 20 分

※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名		健康と科学					
教員名		境 広志					
科目No.	120660010	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2022 前期
〔テーマ・概要〕							
本科目では、健康の維持・増進や疾病の予防を目的とした運動やスポーツを安全かつ効果的に実施するために必要な知識と理論について学ぶ。具体的なテーマは、骨格筋や神経、呼吸・循環器系、ホメオスタシス、栄養・エネルギー、トレーニングの理論、生活習慣病、運動処方、応急手当などである。							
〔到達目標〕							
① 科学的根拠に基づいた運動・スポーツの実践の必要性を認識し、社会での取り組みを理解し、それらを自己の健康実現と結びつけて考えることができる。 ② 健康の維持・増進や疾病の予防を目的とした運動やスポーツを安全かつ効果的に実践するための方法を科学的に説明できる。 上記2点を到達目標とし、DP2(教養の修得)、DP2(課題の発見と解決)の実現を目指す。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容		準備学修（予習・復習等）			準備学修の目安（分）	
第1回	イントロダクション ・ 授業の全体像、進め方、予習・復習の仕方、評価基準の説明 ・ 講義内容に関するクイズの実施		【予習・復習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。授業の全体像や進め方、評価基準等について確認する。			60	
第2回	運動器のしくみ～骨格筋～ ・ 関節のしくみ ・ 筋収縮の様式 ・ 筋の構造 ・ 筋収縮のメカニズムとエネルギー ・ 筋線維のタイプ		【予習】『事前学習しておくべき用語』に挙げているキーワードを調べる。 【復習】キーワードを用いて学習した内容を要約する。			60	
第3回	運動器のしくみ～神経系～ ・ 運動単位 ・ 運動のコントロール ・ 小脳による調整 ・ 力の種類とトレーニング		【予習】『事前学習しておくべき用語』に挙げているキーワードを調べる。 【復習】キーワードを用いて学習した内容を要約する。			60	
第4回	運動と心肺機能～呼吸器系～ ・ 呼吸の調節 ・ ガス交換 ・ 酸素借と酸素負債 ・ 運動強度と最大酸素摂取量 ・ トレーニングによる呼吸機能の向上		【予習】『事前学習しておくべき用語』に挙げているキーワードを調べる。 【復習】キーワードを用いて学習した内容を要約する。			60	
第5回	運動と心肺機能～循環器系～ ・ 心臓の拍動 ・ 心拍動の調節 ・ 4つのポンプ機能 ・ 運動と血圧・血流分配		【予習】『事前学習しておくべき用語』に挙げているキーワードを調べる。 【復習】キーワードを用いて学習した内容を要約する。			60	
第6回	運動とホメオスタシス～体液～ ・ 身体の内部環境 ・ 体液量と組成 ・ 水分量の調節と腎臓 ・ 運動とホメオスタシス ・ 脱水		【予習】『事前学習しておくべき用語』に挙げているキーワードを調べる。 【復習】キーワードを用いて学習した内容を要約する。			60	
第7回	運動とホメオスタシス～体温～ ・ 体液のpHの調節 ・ 体温のホメオスタシス ・ 熱の产生と放散 ・ 体温調節 ・ 運動と体温調節 ・ 热障害		【予習】『事前学習しておくべき用語』に挙げているキーワードを調べる。 【復習】キーワードを用いて学習した内容を要約する。			60	
第8回	運動と栄養素 ・ 食品の栄養素 ・ 栄養素の働きと運動 ・ 糖質と脂質の利用 ・ グリコーゲンの補給 ・ タンパク質の働き		【予習】『事前学習しておくべき用語』に挙げているキーワードを調べる。 【復習】キーワードを用いて学習した内容を要約する。			60	
第9回	トレーニングと栄養 ・ ミネラル・ビタミン・水 ・ 食事摂取基準 ・ エネルギー消費量 ・ 食事への展開 ・ グリコーゲン・ローディング		【予習】『事前学習しておくべき用語』に挙げているキーワードを調べる。 【復習】キーワードを用いて学習した内容を要約する。			60	
第10回	トレーニングの理論～全身持久力～ ・ トレーニングとは ・ トレーニングの原理・原則 ・ 全身持久力のトレーニング(カルボーネン法) ・ 高地トレーニング		【予習】『事前学習しておくべき用語』に挙げているキーワードを調べる。 【復習】キーワードを用いて学習した内容を要約する。			60	
第11回	トレーニングの理論～筋力トレーニング～ ・ 筋力のトレーニング ・ スキルのトレーニング		【予習】『事前学習しておくべき用語』に挙げているキーワードを調べる。 【復習】キーワードを用いて学習した内容を要約する。			60	

	<ul style="list-style-type: none"> ウォームアップとクールダウン トレーニングと休息 		
第12回	運動と生活習慣病 <ul style="list-style-type: none"> 運動の種類と生理的変化 運動と肥満 運動と糖尿病 運動と脂質代謝 運動と高血圧 運動と骨粗鬆症 	<p>【予習】『事前学習しておくべき用語』に挙げているキーワードを調べる。</p> <p>【復習】キーワードを用いて学習した内容を要約する。</p>	60
第13回	健康の維持・増進～運動処方～ <ul style="list-style-type: none"> 運動処方は、トレーニングの原理 メディカルチェック、 運動処方の構成要素 運動プログラムの進め方 課題レポートについて 	<p>【予習】『事前学習しておくべき用語』に挙げているキーワードを調べる。</p> <p>【復習】キーワードを用いて学習した内容を要約する。</p>	60
第14回	応急手当と健康 <ul style="list-style-type: none"> 命を救う応急手当 日常的な応急手当 	<p>【予習】『事前学習しておくべき用語』に挙げているキーワードを調べる。</p> <p>【復習】キーワードを用いて学習した内容を要約する。期末レポートの提出準備をする</p>	120
〔授業の方法〕			
基本的には講義形式で行う。授業の最初にレジュメを配布する。また、必要に応じてDVD教材を用いる。毎時の終わりにふりかえりを作成することで学習内容の整理と理解度を確認する。			
〔成績評価の方法〕			
以下の基準で総合的に評価する。 <ul style="list-style-type: none"> 授業への参加・取組状況など(ふりかえりを含む): 40% 期末レポート: 60% 			
〔成績評価の基準〕			
成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。 次の点に着目し、その達成度により評価する。 <ul style="list-style-type: none"> 毎回の授業のテーマと内容について基本的な理解ができているか。 キーワードを用いて学習した内容を論理的に説明できるか。 			
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕			
関連科目として、健康・スポーツ科目の「スポーツと科学」、「スポーツと社会」、「スポーツと文化」がある。また、法学部生は、学部開講の「健康政策論」を併せて履修することが望ましい。			
〔テキスト〕			
テキストは特にない。必要資料等は授業内に配布する。授業内で下記の視聴覚資料(DVD)を使用する。 『目で見る運動生理学・第2版』全6巻(医学映像教育センター)※この視聴覚資料は成蹊大学図書館にて閲覧が可能である。			
〔参考書〕			
参考書は授業中に適宜指示する。			
〔質問・相談方法等(オフィス・アワー)〕			
ポータルサイトで周知する。			
〔特記事項〕			

成蹊教養カリキュラム

22/2/25 17 時 20 分

※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名		現代社会と哲学												
教員名		関口 浩												
科目No.	120710310	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2022 後期							
〔テーマ・概要〕														
<p>私たちにとって自分の人間性あるいは個性はとても大切なものはです。しかしながら、現代社会のなかで私たちがそのような自分の人間性を円満に向上させてゆくことは、そう簡単なことではないようです。現代の労働者の多くが、大きな組織の中の一つの歯車にすぎないものになってしまいます。壊れたら、いくらでも代りのあるもの、そういう個性のない部品のようなものを見なされてしまう。このようなことを、現代哲学の用語では「人間疎外」と言いますが、この講義ではそのような人間疎外の問題を中心に、今日の精神的状況に対して哲学がどのように答えうるか、ということを考えてゆきたいと思います。(DP1-1, 1-2, 旧 DP6)</p>														
〔到達目標〕														
<p>現代という時代のいちばん深いところを洞察しようとする根本的な思索について、それを単に知識として学習するのではなく、むしろ履修者各自が自分自身の精神のなかでそうした思想家たちの<事柄>を共に経験してもらいたい。</p> <p>さらに、履修者各々もまた、自分自身でそのようなく事柄>を思索できるようになってもらいたいと思います。</p>														
〔授業の計画と準備学修〕														
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）								
第1回	アイデンティティへの問い合わせ(1) 『臨済録』における殺仏殺祖説			復習として、配布された資料をあらためて熟読すること。		60分								
第2回	アイデンティティへの問い合わせ(2) 『十牛図』における自己の問題			復習として、配布された資料をあらためて熟読すること。		60分								
第3回	アイデンティティへの問い合わせ(3) 『十牛図』における自己の問題、前回の続き。			復習として、配布された資料をあらためて熟読すること。 またこれまでの3回の授業を通じて問題となっていた自己的問題を、自分自身の事柄として考えてもらいたい。		60分								
第4回	大衆社会の問題(1) S. キルケゴー『現代の批判』			復習として、配布された資料をあらためて熟読すること。 とくに資料の最後の抜粋についてよく考えてみてください。		60分								
第5回	大衆社会の問題(2) ドストエフスキイ『カラマゾフの兄弟』から「大審問官」、現代人にとっての自由の問題			復習として、配布された資料をあらためて熟読すること。		60分								
第6回	「精神なき専門人、心情なき享楽人」、M・ウェーバーの現代批判			復習として、配布された資料をあらためて熟読すること。		60分								
第7回	官僚制の問題(1) M・ウェーバー『官僚制』、遺稿「経済と社会」より			復習として、配布された資料をあらためて熟読すること。		60分								
第8回	官僚制の問題(2) M・ウェーバー『官僚制』の続き—社会政策学会での発言を参照して—			復習として、配布された資料をあらためて熟読すること。 また、これまでの3回の授業を通じて、ウェーバーが現代について考えていたことをまとめること。		60分								
第9回	官僚制の問題(3) H・アーレント『イエルサレムのアイヒマン』			復習として、配布された資料をあらためて熟読すること。		60分								
第10回	官僚制の問題(4) 杉原千畝と官僚の倫理			復習として、配布された資料をあらためて熟読すること。 官僚の在り方として、アイヒマンのそれと比較検討すること。		60分								
第11回	官僚制の問題(5) G・リッツァ『マクドナルド化する社会』			復習として、配布された資料をあらためて熟読すること。		60分								
第12回	M・ウェーバーの価値自由説			復習として、配布された資料をあらためて熟読すること。		60分								
第13回	エド・マローを例として、ジャーナリズムの役割			復習として、配布された資料をあらためて熟読すること。 また、ウェーバーの価値自由説と比較検討すること。		60分								
第14回	今学期の講義全体について再確認。			予習として、今学期の講義全体を回想すること。		60分								
〔授業の方法〕														
絵画や写真、映画などヴィジュアルな資料も必要に応じて使っていきたいと思っています。														
〔成績評価の方法〕														
<p>課題についてのレポート。</p> <p>課題とされた事柄について、各受講者が自分自身でどれほど哲学的に思索できたかを評価する。</p>														
〔成績評価の基準〕														

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

いかなる予備知識も求めません。

関連科目は「哲学の基礎」。

〔テキスト〕

とくに定めない。（毎回、資料を配布する）

〔参考書〕

M・ウェーバー『権力と支配』（講談社学術文庫）濱嶋朗 訳、1,155円、ISBN-13: 978-4062920919

左近司祥子『西洋哲学の10冊』、岩波書店、819円、ISBN-13: 978-4005006137

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

質問の方法は最初の講義のときに指示します。

〔特記事項〕

成蹊教養カリキュラム

22/2/25 17 時 20 分

※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	現代社会と倫理学						
教員名	佐藤 雅男						
科目No.	120710410	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2022 後期

[テーマ・概要]

[テーマ] 必須

混乱状況からの出発

[概要]

近・現代の日本の思想家や文学者の言葉を、倫理学の観角から取り上げて、その意味を考えてみよう。

例えは近代日本を先導した福沢諭吉は、『文明論之概略』「緒言」で、日本人は、異常な過度期を生き抜かざるを得ない理由で、自らの過去の経験によって、新たに学び知った文明を照らすことが出来るという意味のことを述べた。そこには、眼前的否定的な混乱状況を、逆に、「今の一世を過ぐれば、決して再び得べからざる」ような「好機」と見なす楽観的な精神構造の一種がある。

こうした事柄は、現代社会にも具体的に存続し、私達はそうした混乱の渦中で、自己の生活経験を論理的に整序する必要がある。そこに根本的に問題になるのが、人間性の意味であり、倫理学の根源は、「如何に生きるべきか」である。近・現代の日本を先導した人物達の倫理思想を学びながら、現代社会を生きる人間の問題を考えてみたい。

[到達目標]

[到達目標] 必須

- ・日本の近・現代を先導した思想家の文章を読みながら、その意味を考えることで、今を生きる私達の指針を形成する。
- ・物事を多角的にとらえる発想を身につける。

[授業の計画と準備学修]

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第 1 回	授業のガイダンス。 近代日本の特質。	授業のテーマと全体像をつかむ。	60
第 2 回	明治維新と文明開化。	歴史的な時代背景と国際情勢をつかむ。	60
第 3 回	啓蒙思想－福沢諭吉。	「独立の気力」という言葉について考える。	60
第 4 回	自由民権思想－中江兆民。	「東洋のルソー」と言われた人物像をつかむ。	60
第 5 回	キリスト教－内村鑑三。	「無教会主義」の意味をつかむ。	60
第 6 回	国民道徳－教育勅語。	中味の再検討をする。	60
第 7 回	東洋の美－岡倉天心。	「自我の顕現」の意味をつかむ。	60
第 8 回	浪漫主義－北村透谷。	「内部生命」の意味をつかむ。	60
第 9 回	自然主義－田山花袋と島崎藤村。	私小説の意味をつかむ。	60
第 10 回	夏目漱石の文明論。 下田歌子の歌と思想。	「内発的開化」の意味をつかむ。	60
第 11 回	森鷗外の文明論。 与謝野晶子の歌と思想。	「利他的個人主義」や「貞操論」の意味をつかむ。	60
第 12 回	西田幾多郎の哲学。	「純粹経験」の意味をつかむ。	60
第 13 回	和辻哲郎の倫理学。 レポートの書き方	「間柄的存在」の意味をつかむ。	60
第 14 回	小林秀雄の批評。 レポートの書き方。	「宿命の人間学」の意味をつかむ。	60

[授業の方法]

毎回の授業に、資料を配布する。それを基に授業を進める。

[成績評価の方法]

最終回の到達度の確認レポートで評価する。授業中に配布した資料を引用して、1200 字程度のレポートを書いてもらう。書き方に関しては、一回目の授業で概略を言うが、年末年始の頃の授業で、より詳しく説明する。
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特になし。
〔テキスト〕 資料を配布する。
〔参考書〕 『述語集Ⅰ』『述語集Ⅱ』（中村雄二郎、岩波新書） 『日本の思想』（丸山真男、岩波新書） 『堕落論』（坂口安吾、新潮文庫）
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 授業終了後に教室で受け付けます。
〔特記事項〕

科目名		芸術への招待／<1>					
教員名		西釋 英里香					
科目No.	120710610	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2022 前期
〔テーマ・概要〕							
本講義では、西洋芸術音楽（クラシック音楽）、とくにヨハン・セバスチャン・バッハ（Johann Sebastian Bach, 1685-1750）とルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン（Ludwig van Beethoven, 1770-1827）の音楽を通して、音楽分析の基礎を学ぶ。							
〔到達目標〕							
DP2-1（教養の修得）を実現するため、次の3点を到達目標とする。 ・西洋芸術音楽（クラシック音楽）について基礎的な知識を修得する。 ・音楽に関する多様な問題について自分で考え、説明することができる。 ・音楽作品を分析的な観点から理解し、説明することができる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）			準備学修の目安（分）
第1回	導入：西洋音楽史概観 西洋音楽史における時代区分とその音楽様式を概観する。			授業で学んだ事項やキーワードを確認する。			60
第2回	J. S. バッハの《平均律クラヴィーア曲集》(1)：調 《平均律クラヴィーア曲集》について概観する。この曲集は第1巻、第2巻とともに、「前奏曲」と「フーガ」を組み合わせた24曲から構成されている。 今回は、この24曲の構成方法の核となる「調」について学ぶ。			授業内容を確認しながら、CD等を鑑賞する。			60
第3回	J. S. バッハの《平均律クラヴィーア曲集》(2)：和声 《平均律クラヴィーア曲集》のいくつかの前奏曲を題材に、和声（和音の進行の仕組み）について学ぶ。			授業内容を確認しながら、CD等を鑑賞する。			60
第4回	J. S. バッハの《平均律クラヴィーア曲集》(3)：フーガ 《平均律クラヴィーア曲集》のいくつかのフーガを題材に、フーガ書法について学ぶ。			授業内容を確認しながら、CD等を鑑賞する。			60
第5回	J. S. バッハの影響(1) これまで鑑賞したバッハの《平均律クラヴィーア曲集》の影響を受けた作品を概観する。 そののち、セザール・フランク（César Franck, 1822-90）の大曲《前奏曲、コラールとフーガ》を分析的に鑑賞する。			授業内容を確認しながら、CD等を鑑賞する。			60
第6回	J. S. バッハの影響(2) 前回に引き続き、フランクの《前奏曲、コラールとフーガ》を分析的に鑑賞する。あわせて、フランク独自の工夫についても学ぶ。			授業内容を確認しながら、CD等を鑑賞する。			60
第7回	音楽の形式&ソナタ形式(1) 音楽における「形式」概念について整理したあと、さまざまな楽曲形式について概観する。 そののち、ベートーヴェンのピアノ・ソナタ、弦楽四重奏曲、交響曲を教材として、ソナタ形式について学ぶ。			授業内容を確認しながら、CD等を鑑賞する。			60
第8回	ソナタ形式(2) ヴォルフガング・アマデウス・モーツアルト（Wolfgang Amadeus Mozart, 1756-91）の協奏曲におけるソナタ形式を中心学ぶ。			授業内容を確認しながら、CD等を鑑賞する。			60
第9回	ソナタ形式(3) フ朗ツ・リスト（Franz Liszt, 1811-86）の《ピアノ・ソナタ 口短調》などの複雑なソナタ形式について学ぶ。			授業内容を確認しながら、CD等を鑑賞する。			60
第10回	変奏曲形式(1) 変奏曲形式の種類を整理する。 そののち、ベートーヴェンの《ディアベリのワルツによる33の変奏曲》を中心教材として、変奏技法について学ぶ。			授業内容を確認しながら、CD等を鑑賞する。			60
第11回	変奏曲形式(2) 前回に引き続き、ベートーヴェンの《ディアベリのワルツによる33の変奏曲》を中心教材として、変奏技法について学ぶ。			授業内容を確認しながら、CD等を鑑賞する。			60
第12回	ベートーヴェンの《ピアノ・ソナタ第32番》(1) ベートーヴェンのピアノ・ソナタ全32曲について概観する。 そののち、これまで学んだソナタ形式の知識をふまえて、ベートーヴェンの最後のピアノ・ソナタである《ピアノ・ソナタ第32番》の第1楽章を分析的に聴く。			授業内容を確認しながら、CD等を鑑賞する。			60
第13回	ベートーヴェンの《ピアノ・ソナタ第32番》(2) これまで学んだ変奏曲形式の知識をふまえて、ベートーヴェンの《ピアノ・ソナタ第32番》の第2楽章を分析的に聴く。 それとともに、ベートーヴェンのピアノ・ソナタにおける最終到達地点となったこの第32番の意味について考える。			授業内容を確認しながら、CD等を鑑賞する。			60
第14回	まとめ これまでの授業を総括し、分析の意味について考える。			これまでの授業内容を整理し、重要な事項やキーワードについてまとめる。			60
〔授業の方法〕							

- ・配布プリントをもとに、講義を行う。簡単な実習（楽曲分析）をまじえることもある。
- ・授業でとりあげる音楽作品のCDも鑑賞する。ただし、授業では作品の一部しか鑑賞することができないので、自分でも積極的に作品に触れる努力をしてほしい。
- ・授業の終わりに、その日の授業内容をふまえたテスト（レポート）を実施することもある（授業回数の3分の2程度）。実施日は事前に告知しない。内容はきわめて簡単なもの。
- ・学期末レポートにおいては、授業内でとりあげた音楽作品をひとつ、あるいは複数について論じてもらう予定である。
- ・授業の進捗によって、内容を一部変更する場合がある。

〔成績評価の方法〕

平常点（授業内レポートもしくはテストの提出状況、実習への参加状況）50%及び学期末レポートの成績50%により評価する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ・授業でとりあげた作曲家とその作品について基礎的な知識を修得し、分析的な観点から明確に説明することができる。
- ・音楽について自分なりの興味を深め、自由に論じることができる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

楽譜を読めることが望ましいが、もちろん読めなくても履修可。

西洋芸術音楽（クラシック音楽）、とくに鍵盤楽器のための作品を中心に扱うことを了承されたい。

〔テキスト〕

特になし。

〔参考書〕

授業中に適宜紹介するが、購入の必要なし。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

授業終了後に教室で受け付ける。

〔特記事項〕

成蹊教養カリキュラム

22/2/25 17 時 20 分

※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名		芸術への招待／<2>											
教員名		人見 伸子											
科目No.	120710620	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2022 前期						
〔テーマ・概要〕													
古来、芸術家たちはパトロンや注文を求めて、あるいは修業や制作のために都市に集まつた。中には都市に魅了され、その景観を描く画家も多数存在した。多くの芸術家が集まる場所では、雑多な人間関係の中で切磋琢磨が行われ、都市が彼らを育ててきたともいえるだろう。この授業では「都市の肖像」というテーマで、芸術家たちが生み出した主要都市のイメージを様々な角度から分析し、都市の歴史の明暗とともにイメージの変遷を考察していく。コロナ禍で從来から変化しつつある現代の都市のあり方についても、思いを巡らせてほしい。													
〔到達目標〕													
① 各都市の歴史や文化の基礎知識を身につけるとともに、現代の都市がかかえる問題について考える。 ② 開催中の展覧会を訪れて、実際の作品に触れる機会をつくる。													
〔授業の計画と準備学修〕													
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）			準備学修の目安（分）						
第1回	授業の概要・古代都市 ・今後の授業計画の説明 ・旧約・新約聖書に記された古代都市について学ぶ。			シラバスをよく読み、授業計画や概要を理解しておく。			60分						
第2回	ローマ：都市の栄枯盛衰 ・古代ローマ帝国・盛期ルネサンスの中心地であったローマについて、その歴史や文化の変遷について知る。			画集やインターネットを利用して、さまざまな事例を確認するとともに、参考図書を読んで知識や視野を広める。			60分						
第3回	フィレンツェ：ルネサンスの都 ・ルネサンスの中心地となつたフィレンツェについて、建物や美術作品を中心に学ぶ。			画集やインターネットを利用して、さまざまな事例を確認するとともに、参考図書を読んで知識や視野を広める。			60分						
第4回	ヴェネツィア：沈み行く水の都 ・古くから貿易港として繁栄した国際都市ヴェネツィア。その歴史と文化を学ぶとともに、現代の町がかかえる問題について考察する。			画集やインターネットを利用して、さまざまな事例を確認するとともに、参考図書を読んで知識や視野を広める。			60分						
第5回	ベルギーの各都市 ・中世以降、ヨーロッパの経済・文化の先進地域だったベルギーの各都市ブリュージュ、アントワープ、ブリュッセルについて、時代に即した多様性を学ぶ。			画集やインターネットを利用して、さまざまな事例を確認するとともに、参考図書を読んで知識や視野を広める。			60分						
第6回	オランダの各都市 ・17世紀にスペインから独立し、黄金時代を築いたオランダについて、デルフトやアムステルダムを中心に、各都市の歴史や文化を知る。			画集やインターネットを利用して、さまざまな事例を確認するとともに、参考図書を読んで知識や視野を広める。			60分						
第7回	ドレスデン ・中世以降、ザクセンの都として繁栄したドレスデンについて、建築や美術作品を軸に理解を深める。			画集やインターネットを利用して、さまざまな事例を確認するとともに、参考図書を読んで知識や視野を広める。			60分						
第8回	ロンドン ・古代ローマ時代から現代に至るまで、ヨーロッパの中心都市のひとつであったロンドンの歴史と文化を多方面から考察する。			画集やインターネットを利用して、さまざまな事例を確認するとともに、参考図書を読んで知識や視野を広める。			60分						
第9回	パリ（1） ・19世紀後半の第二帝政期に実施されたオスマンによる都市改造成計画に注目し、美術作品に表現された変化を知る。			画集やインターネットを利用して、さまざまな事例を確認するとともに、参考図書を読んで知識や視野を広める。			60分						
第10回	パリ（2） ・19世紀後半、中産階級のパリ市民たちが余暇を過ごした場所に焦点をあて、印象派の作品を中心に学ぶ。			画集やインターネットを利用して、さまざまな事例を確認するとともに、参考図書を読んで知識や視野を広める。			60分						
第11回	ウィーン ・中世以降、東西をつなぐ国際都市として繁栄したウィーン。とくに19世紀後半の都市改造に注目して、建築や美術作品の理解を深める。			画集やインターネットを利用して、さまざまな事例を確認するとともに、参考図書を読んで知識や視野を広める。			60分						
第12回	ヘルシンキ ・長い間、大国の支配下にあったフィンランドが独立を目指した19世紀から20世紀、変貌する首都ヘルシンキの歴史や文化について学ぶ。			画集やインターネットを利用して、さまざまな事例を確認するとともに、参考図書を読んで知識や視野を広める。			60分						
第13回	ニューヨーク ・オランダ人の入植から始まったニューヨークは20世紀に大躍進を遂げ、世界の政治・経済・芸術の中心地となる。その当時建設された多くの建物や美術作品を取り上げる。			画集やインターネットを利用して、さまざまな事例を確認するとともに、参考図書を読んで知識や視野を広める。			60分						
第14回	江戸から東京へ ・江戸時代に数多く描かれた名所絵をひもとき、江戸から東京へと変貌する巨大都市と文化について考察する。			画集やインターネットを利用して、さまざまな事例を確認するとともに、参考図書を読んで知識や視野を広める。			60分						
〔授業の方法〕													
Course Powerを利用して毎回の授業のレジュメを配信し、講義形式で授業を進める。授業終了後には内容に関するアンケートに回答。最新の展覧会情報を提供するので、実際の作品を鑑賞する機会を作り、報告レポートを提出してもらう。期末には課題レポートの提出が必要。													
〔成績評価の方法〕													

毎回のアンケートに基づく平常点（20%）、中間の報告レポート（30%）、期末の課題レポート（50%）を総合して評価する。
単位認定には、3分の2以上の出席と2回のレポート提出が必須で条件である。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

特になし

〔テキスト〕

特になし

〔参考書〕

授業時に随時、紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

成蹊教養カリキュラム

22/2/25 17 時 20 分

※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	芸術への招待／<3>						
教員名	人見 伸子						
科目No.	120710630	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2022 後期

[テーマ・概要]

古くから美術作品の誕生には、実制作者としての芸術家のみならず、注文あるいはパトロンが重要な役割を果たしてきた。ルネサンス期にはフィレンツェのメディチ家、ローマ教皇ユリウス2世などが芸術活動を奨励し、優れた芸術家たちを育ててきた。近代以降になると、王侯貴族や教会に代わって、財界などの個人コレクターが自分の美意識に従って作品を蒐集し、ユニークなコレクションが輩出した。そして現代では、芸術活動に関心のある企業や地域社会の中に、そうした役割を担うものが育ちつつある。

この授業では、ルネサンス以降の世界の優れたコレクターとその収蔵品、美術館を紹介しながら、コレクション形成の過程を検証するとともに、企業の芸術支援や現代美術を活かした地域の活動についても考察する。美術館はコレクションを収蔵・展示するための単なる箱ではない。来館者に知的な刺激を与え、再び訪れたいと思われる魅力的な美術館とはどうあるべきか、考えていくことにしよう。

[到達目標]

- ① 海外や日本の代表的な美術館について、その成り立ちや所蔵作品について基礎知識を学ぶ。
- ② 芸術と企業あるいは地域社会との関係を知り、アフター・コロナを見据えた今後のあるべき姿について考察する。
- ③ 開催中の展覧会を訪れて、実際の作品に触れる機会をつくる。

[授業の計画と準備学修]

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第1回	授業の概要 / 芸術家とパトロン ・芸術家を支えてきたパトロンやコレクターについて学ぶ。	シラバスをよく読み、授業計画や概要を理解しておく。	60分
第2回	ウフィツィ美術館 ・イタリア・ルネサンスの中心地のひとつであったフィレンツェで、メディチ家の個人コレクションから出発したウフィツィ美術館を取り上げる。	画集やインターネットを利用して、さまざまな事例を確認するとともに、参考図書を読んで知識や視野を広める。	60分
第3回	ロンドン・ナショナル・ギャラリー ・「ショットからセザンヌに至る」優れた西洋絵画のコレクションを誇る美術館について、基礎知識を得る。	画集やインターネットを利用して、さまざまな事例を確認するとともに、参考図書を読んで知識や視野を広める。	60分
第4回	メトロポリタン美術館 ・ニューヨーク五番街に位置し、世界でも有数の所蔵品をもつ美術館は、日本を含めた世界各国の傑作を集めている。	画集やインターネットを利用して、さまざまな事例を確認するとともに、参考図書を読んで知識や視野を広める。	60分
第5回	ポール・ゲティ美術館 ・アメリカの石油王ゲティが設立した財團が運営する美術館について、その多彩なコレクションの一端を紹介する。	画集やインターネットを利用して、さまざまな事例を確認するとともに、参考図書を読んで知識や視野を広める。	60分
第6回	クレラー=ミュラー美術館 ・オランダのクレラー=ミュラー夫妻が設立した美術館は、隣接する彫刻庭園も含めて、きわめて個性的な特徴を有する。	画集やインターネットを利用して、さまざまな事例を確認するとともに、参考図書を読んで知識や視野を広める。	60分
第7回	オスロ国立美術館 ・ノルウェーを代表する画家ムンクを中心に、オスロ国立美術館およびムンク美術館の設立と所蔵作品について学ぶ。	画集やインターネットを利用して、さまざまな事例を確認するとともに、参考図書を読んで知識や視野を広める。	60分
第8回	アーティゾン美術館 ・2020年にリニューアル・オープンしたアーティゾン美術館。設立時から所蔵する明治や近代西欧絵画のみならず、現代美術のコレクションを充実させつつある。	画集やインターネットを利用して、さまざまな事例を確認するとともに、参考図書を読んで知識や視野を広める。	60分
第9回	サントリー美術館 ・「生活の中の美」を掲げて、日本美術やガラス器など充実したコレクションを有する美術館を紹介する。	画集やインターネットを利用して、さまざまな事例を確認するとともに、参考図書を読んで知識や視野を広める。	60分
第10回	大山崎山荘美術館 ・1930年代、京都府大山崎町に建てられた山荘を本館とするユニークな美術館。柳宗悦の「民藝」運動を反映したコレクションとその美学について学ぶ。	画集やインターネットを利用して、さまざまな事例を確認するとともに、参考図書を読んで知識や視野を広める。	60分
第11回	ボーラ美術館 ・箱根仙石原にある美術館は「自然と美術の共生」を目指し、印象派や20世紀西欧絵画の優れた作品を有する。	画集やインターネットを利用して、さまざまな事例を確認するとともに、参考図書を読んで知識や視野を広める。	60分
第12回	DIC川村記念美術館 ・千葉県佐倉市にあり、広大な敷地に立つ美術館は、とくに現代美術のコレクションが充実している。	画集やインターネットを利用して、さまざまな事例を確認するとともに、参考図書を読んで知識や視野を広める。	60分
第13回	芸術と企業 / 地域社会 ・芸術文化を支援する企業の活動や現代美術を利用した地域活性化の試みについて学び、身近な例を検証する。	画集やインターネットを利用して、さまざまな事例を確認するとともに、参考図書を読んで知識や視野を広める。	60分
第14回	国際芸術祭 ・世界各地あるいは日本全国で展開する芸術祭について、コロナ禍の現状と今後の方向性について考察する。	画集やインターネットを利用して、さまざまな事例を確認するとともに、参考図書を読んで知識や視野を広める。	60分

[授業の方法]

Course Power を利用して毎回の授業のレジュメを配信し、講義形式で授業を進める。授業終了後には内容に関するアンケートに回答。最新の展覧会情報を提供するので、実際の作品を鑑賞する機会を作り、報告レポートを提出してもらう。期末には課題レポートの提出が必要。

[成績評価の方法]

毎回のアンケートに基づく平常点（20%）、中間の報告レポート（30%）、期末の課題レポート（50%）を総合して評価する。
単位認定には、3分の2以上の出席と2回のレポート提出が必須で条件である。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

特になし

〔テキスト〕

特になし

〔参考書〕

授業時に随時、紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

成蹊教養カリキュラム

22/2/25 17 時 20 分

※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名		カルチュラル・スタディーズ／<1>					
教員名		清水 均					
科目No.	120710710	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2022 前期
〔テーマ・概要〕							
<p>「カルチュラル・スタディーズ=文化研究」はその根底に「文化を特定の歴史や社会状況における構築物としてとらえる問題意識」を持つ（本橋哲也『カルチュラル・スタディーズへの招待』大修館書店 2002年2月）。即ち、「文化」というものを静態的なもの（あるいは権威的なもの）として捉えるのではなく、時代や人間の営みのダイナミズムの中で生成する動態的なものとして捉えるということである。それゆえ、私たちは「文化」を特定の作品（名作）や高尚な趣味（エリートによる高級文化）に限定するのではなく、人々の「生活様式の総体=私たちが日々暮らしている生活のあり方そのもの」として捉える考え方が必要とされる。</p> <p>かつては「サブカルチャー」とみなされ、文字通り「サブ」扱いされていた（ポジティブにもネガティブにも）アニメやマンガといった文化領域が、メインカルチャーあるいはポップカルチャーとして「日本を代表する文化」という扱い方をされるようになって久しい。「文化」は私たちにとって何らかの価値や意味があるとされるが、特に、私たちの日々の営みと地続きに存在する「サブカルチャー/ポップカルチャー」は、意識的にも無意識的にも、あるいは好きでも嫌いでも、私たちの生活様式や生活感情そのものに価値や意味をもたらすものであるといえ、私たちは嫌でもその強い影響下にあるといえる。そうした文化環境にあって、「文学」は「活字離れ」という一括りの元でその地盤沈下がたびたび指摘されるが、では、現代の「文学」は「サブカルチャー/ポップカルチャー」から疎外された存在（=無関係）でいられるのであろうか？</p> <p>本講座では、「サブカルチャー/ポップカルチャー」を中心とする現代の文化状況を「カルチュラル・スタディーズ」の視点から俯瞰すると同時に、こうした文化状況における「文学」の立ち位置を、主に村上春樹において検証することとする。</p>							
〔到達目標〕							
<p>DP2（教養の修得）並びにDP3（課題の発見と解決）を実現するために以下の点を到達目標とする。</p> <p>①日本の現在の文化環境についての概要を知ることによって、現代人である私たちが、今どのような世界に存在しているのかを把握できる。</p> <p>②現代社会が戦後、特に高度経済成長期とバブル期を経てどのように形成されてきたかについて、主に「文化」の視点によってその歴史観を説明することができる。</p> <p>③私たちが生きる現代にあって、自らが他者や社会とどのように関わりながら生きていけるのかということのヒントを得ることができる。</p> <p>④</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）			準備学修の目安（分）		
第1回	序、授業ガイダンス及びイントロダクション 1. 授業ガイダンス ：授業内容、授業の進め方、成績評価等、この授業の概要を説明する。 2. イントロダクションー1 ・カルチュラル・スタディーズとは（文化を研究するとは）。	(予習) ・授業概要、授業計画について、事前にシラバスを確認しておく。 ※授業で使用する資料等を記載した詳細なコマシラバスを「第1回」の授業開始前に提示するので内容を確認しておく。 (復習) ・「コメントペーパー」の提出。 ・今日の授業の重要なポイントをまとめておき、「到達度確認レポート①」の作成をする。				60分～90分	
第2回	3. イントロダクションー2 ①前提知識1：高度経済成長とその終焉 ②前提知識2：バブルとその崩壊ー1	(予習) ・Course Powerに掲示された授業資料を読んでおく。 (復習) ・「コメントペーパー」の提出。 ・今日の授業の重要なポイントをまとめておき、「到達度確認レポート①」の作成をする。				60分～90分	
第3回	3. イントロダクションー2 ③前提知識2：バブルとその崩壊ー2	(予習) ・Course Powerに掲示された授業資料を読んでおく。 (復習) ・「コメントペーパー」の提出。 ・今日の授業の重要なポイントをまとめておき、「到達度確認レポート①」の作成をする。				60分～90分	
第4回	I : CM表現と時代性 ①キヤッチャコピーの変遷 ②テレビCMの表現	(予習) ・Course Powerに掲示された授業資料を読んでおく。 (復習) ・「コメントペーパー」の提出。 ・今日の授業の重要なポイントをまとめておき、「到達度確認レポート①」の作成をする。				60分～90分	
第5回	II、流行歌（ポピュラー音楽）の歌詞と時代性-1 ①戦後～1960年代における流行歌の変遷概観 ②高度経済成長期前後におけるフォークソングの歌詞の変容	(予習) ・Course Powerに掲示された授業資料を読んでおく。 (復習) ・「コメントペーパー」の提出。 ・今日の授業の重要なポイントをまとめておき、「到達度確認レポート①」の作成をする。				60分～90分	
第6回	II、流行歌（ポピュラー音楽）の歌詞と時代性-1 ③「個」という価値観の強化 ・ウォーカーマンの登場 ・マンガ『タッチ』に見る＜異化作用＞ ・村上春樹『風の歌を聴け』	(予習) ・Course Powerに掲示された授業資料を読んでおく。 (復習) ・「コメントペーパー」の提出。 ・今日の授業の重要なポイントをまとめておき、「到達度確認レポート①」の作成をする。				60分～90分	
第7回	II、流行歌（ポピュラー音楽）の歌詞と時代性-2 ①バブル崩壊後の流行歌の諸相…村上春樹との関連で ・「詩的（人生訓的）フレーズ」の流行	(予習) ・Course Powerに掲示された授業資料を読んでおく。 (復習) ・「コメントペーパー」の提出。 ・今日の授業の重要なポイントをまとめておき、「到達度確認レポート①」の作成をする。				60分～90分	
第8回	II、流行歌（ポピュラー音楽）の歌詞と時代性-2 ②バブル崩壊後の流行歌の諸相…村上春樹との関連で ・「自己の存在性」への問い合わせと浜崎あゆみ並びにMr.Children	(予習) ・Course Powerに掲示された授業資料を読んでおく。 (復習)				60分～90分	

		・「コメントペーパー」の提出。	
第9回	II、流行歌（ポピュラー音楽）の歌詞と時代性-3 ・現在の流行歌『うっせえわ』と『サイレントマジョリティ』を中心に一	(予習) ・Course Power に掲示された授業資料を読んでおく。 (復習) ・「コメントペーパー」の提出。 ・今日の授業の重要なポイントをまとめておき、「到達度確認レポート①」の作成をする。	60分～90分
第10回	III、アニメ/マンガと時代性-1 ①『新世紀エヴァンゲリオン』（引き籠もり系）	(予習) ・Course Power に掲示された授業資料を読んでおく。 ・「到達度確認レポート②」の準備。 (復習) ・「コメントペーパー」の提出。 ・今日の授業の重要なポイントをまとめておき、「到達度確認レポート①」の作成をする。	60分～120分
第11回	III、アニメ/マンガと時代性-1 ②『デスノート』（決断主義系）	(予習) ・Course Power に掲示された授業資料を読んでおく。 ・「到達度確認レポート②」の準備。 (復習) ・「コメントペーパー」の提出。 ・今日の授業の重要なポイントをまとめておき、「到達度確認レポート①」の作成をする。	60分～120分
第12回	III、アニメ/マンガと時代性-2 ・劇場版『クレヨンしんちゃん・モーレツオトナ帝国の逆襲』に描かれた共同体としての「家族」	(予習) ・Course Power に掲示された授業資料を読んでおく。 ・「到達度確認レポート②」の準備。 (復習) ・「コメントペーパー」の提出。 ・今日の授業の重要なポイントをまとめておき、「到達度確認レポート①」の作成をする。	60分～120分
第13回	III、アニメ/マンガと時代性-3 ①村上春樹『1Q84』、伊坂幸太郎『モダンタイムス』	(予習) ・Course Power に掲示された授業資料を読んでおく。 ・「到達度確認レポート②」の準備。 (復習) ・「コメントペーパー」の提出。 ・今日の授業の重要なポイントをまとめておき、「到達度確認レポート①」の作成をする。	60分～120分
第14回	III、アニメ/マンガと時代性-3 ②『魔法少女まどか☆マギカ』と『PSYCHO-PASS』	(予習) ・Course Power に掲示された授業資料を読んでおく。 ・「到達度確認レポート②」の準備。 (復習) ・「コメントペーパー」の提出。 ・今日の授業の重要なポイントをまとめておき、「到達度確認レポート①」の作成をする。	60分～120分
〔授業の方法〕			
・授業で使用する資料等は事前に Course Power に掲示しておいて、各自授業時までにダウンロードしておいてほしい。また、授業時に紙資料の形で配布することはしないので、授業の際にはパソコン、タブレット等で資料を読める状態にしておいてもらいたい。 ・Course Power のアンケート機能を利用して毎回その回の授業についてのコメントペーパーの記述、提出を求める。			
〔成績評価の方法〕			
平常点のみで評価する。 ○内容：「到達度確認レポート①」に対して 50% ：「到達度確認レポート②」に対して 50% ※尚、授業時に毎回提出するコメントペーパーに関しては、最終的に上記 2 つのレポートを評価した上で、提出状況と記述内容によって「±α」として扱う。 ○それぞれの課題内容は以下の通りである。 ・「到達度確認レポート①」：各回の授業内容のまとめと所感を記述する。（復習） ・「到達度確認レポート②」：授業の中で提示する。（応用）			
〔成績評価の基準〕			
成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39. 以下の点に着目して、その達成度に応じて評価する。 ①「到達度確認レポート①」：各回の授業内容を把握し、よく理解と考察ができる。 ②「到達度確認レポート②」：課題内容を適切に理解した上で「作品」等の分析と考察が行き届いている。			
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕			
特に必要な予備知識等はない。			
〔テキスト〕			
特に指定するものはない。授業は随時プリント資料を Course Power に掲示する。			
〔参考書〕			
適切であると思われるものについては授業時に紹介する。			
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕			
CoursePower の「質問」機能を利用するとともに、コメントペーパーに書かれた質問に対しては上記「課題等へのフィードバック方法」に記したように Course Power 及び授業時に答える。また、授業終了後やメールでも受け付ける。 ※メールアドレス : s10393@cc.seikei.ac.jp			

[特記事項]

成蹊教養カリキュラム

22/2/25 17 時 20 分

※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名		カルチュラル・スタディーズ／<2>											
教員名		和田 早苗											
科目No.	120710720	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2022 前期						
〔テーマ・概要〕													
<p>衣生活に関するところを、外的な部分から内面的な部分まで様々な角度から追究し、人や民族、歴史にかかる文化としてとらえていく。</p> <p>本講義では、まず人間にとって衣服とは何であり、なぜ人は使うのかを考える。次に、衣服の役割・機能面について理解を深めた上で衣服の歴史（服飾史）を、形態の変遷としてだけでなく、時代背景や生活感情との関わりを考えながら概観する。また、現象としての流行やファッション産業などにも触れる。</p> <p>なお、授業の進捗により、内容や順序を変更する場合もある。</p>													
〔到達目標〕													
DP2【教養の修得】、DP3【課題の発見と解決】、DP4【表現力、発信力】、DP5【多様な人々との協働】を実現するため、次の3点を到達目標とする。													
①文化的な側面から衣服をとらえて説明することができる。 ②衣服と人との関わりについて自分なりに考えを述べることができる。 ③衣生活に関する事象についての意見を共有し、他者の意見から様々な考え方、見方について学び、自分の考えを深めることができる。													
〔授業の計画と準備学修〕													
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）			準備学修の目安（分）						
第1回	ガイダンス(授業の内容、授業の進め方、受講上の注意点) 衣服とは何か			【予習】シラバスを読み、講義内容の全体像を把握する。 【復習】衣服についての自分の考えを整理する。			60						
第2回	人はなぜ服を着るのか			【予習】第1回目の授業内容をふまえて、人にとって衣服とは何か、自分の考えを持つ。 【復習】文学作品の中の服飾描写の例を確認する。			60						
第3回	衣服の役割、衣服の機能			【予習】衣服にはどのような役割があるのか、自分なりに考えておく。 【復習】今回取り上げた内容について、具体例を考える。日本の季節に応じた服装について理解を深める。			60						
第4回	民族服			【予習】様々な気候に適した服とはそれぞれどのようなものか、考えをまとめておく。 【復習】民族服について理解を深める。			60						
第5回	西洋服飾史（1）			【予習・復習】歴史の流れの中での衣服、着る人と服とのかわりについて考えを整理する。			60						
第6回	西洋服飾史（2）			【予習・復習】歴史の流れの中での衣服、着る人と服とのかわりについて考えを整理する。			60						
第7回	日本服飾史（1）			【予習・復習】歴史の流れの中での服飾、着る人と服とのかわりについて考えを整理する。			60						
第8回	日本服飾史（2）			【予習・復習】歴史の流れの中での服飾、着る人と服とのかわりについて考えを整理する。			60						
第9回	服飾と文様			【復習】着物の文様の構図や意味などについて理解を深める。			60						
第10回	ファッションと流行			【復習】流行という事象について自分の考えを整理する。			60						
第11回	第二次世界大戦後の日本の流行色・ファッションの変遷			【復習】ファッションと社会生活とのかわりについて理解する。			60						
第12回	ファッション産業			【復習】今回取り上げた内容を身近な例に当てはめて説明できるようにする。			60						
第13回	様々なファッション			【復習】今回取り上げた内容と自分とのかわりについて考える。			60						
第14回	季節感と服、着心地とは			【予習】前回までの内容を振り返る。着心地について考えをまとめておく。 【復習】これまでの学修内容を確認する。			90						
〔授業の方法〕													
スライド、DVDなど視聴覚教材を使用しながら講義を中心に授業を進める。その日の配布資料や講義内容に関する授業内の小レポートを毎回実施する。小レポートの記述内容の一部を紹介しながら授業を進めたり、クリッカーチャンスを用いて意識調査を行ったりする。また、少人数で授業の内容に関するディスカッションを行うことも予定している。													
なお、第1回目の授業時に受講上の注意点を説明する。													
私語には厳しく対処する。													
〔成績評価の方法〕													
授業内の提出物（約70%）、学期末試験（約30%）、授業への取り組みなどに基づき総合的に評価を行う。													

<p>〔成績評価の基準〕</p> <p>成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。</p> <p>次の点に着目し、その達成度により評価する。</p> <ul style="list-style-type: none">・文化的な側面から衣服をとらえているか。・衣服と人との関わりについて自分なりに説明することができているか。・衣生活に関する事象について、他者の意見から様々な考え方、見方について学び、自分の考えを深めができているか。
<p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕</p> <p>特になし</p>
<p>〔テキスト〕</p> <p>特になし</p>
<p>〔参考書〕</p> <p>特になし</p>
<p>〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕</p> <p>授業終了後に教室で受け付けます。</p>
<p>〔特記事項〕</p> <ul style="list-style-type: none">・アクティブラーニング・ICT活用

成蹊教養カリキュラム

22/2/25 17 時 20 分

※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名		カルチュラル・スタディーズ／<3>											
教員名		狩野 愛											
科目No.	120710730	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2022 前期						
〔テーマ・概要〕													
カルチュラル・スタディーズは、「高級文化」(ハイ・カルチャー)ではなく、学術的に等閑視されてきたテレビ、広告、ポップミュージック、ファッション、アニメなど「大衆文化」(ポップ・カルチャー)や若者文化に着目し、日常生活における文化をめぐる諸問題や諸現象を、文化人類学、社会学など学際的なアプローチで考察することで発展してきた。本科目は、カルチュラル・スタディーズの歴史や研究方法、問題意識を理解する。各講義では、映像文化を中心に多様な文化の具体的事例を取り上げ、さまざまな文化現象、社会的イシューを分析していく。													
〔到達目標〕													
DP2(教養の習得)、DP3(課題の発見と解決)、DP4(表現力、発信力)を実現するために、次の3点を到達目標とする。 ①カルチュラル・スタディーズのキー概念を理解できるようになること ②受講者が、映像など視覚文化や作品を社会関係に関連づけて理解し、各自の関心に応じて分析できるようになること ③レポート課題を通して、授業内容で学習した概念や理論を開運させて自分の考えを表現できるようになること													
〔授業の計画と準備学修〕													
回数	授業の計画・内容			準備学修(予習・復習等)			準備学修の目安(分)						
第1回	ガイダンス			【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する 【復習】配布プリントと資料を再読する			60分						
第2回	カルチュラル・スタディーズのアプローチ			【予習】指示した資料を読む 【復習】配布プリントと資料を再読する			60分						
第3回	フェミニズムの視点で見る広告			【予習】指示した資料を読む 【復習】配布プリントと資料を再読する			60分						
第4回	映像に見るジェンダーとセクシュアリティ			【予習】指示した資料を読む 【復習】配布プリントと資料を再読する			60分						
第5回	ヤンキー文化とサブカルチャー1			【予習】指示した資料を読む 【復習】配布プリントと資料を再読する			60分						
第6回	ヤンキー文化とサブカルチャー2			【予習】指示した資料を読む 【復習】配布プリントと資料を再読する			60分						
第7回	ポップカルチャーと音楽			【予習】指示した資料を読む 【復習】配布プリントと資料を再読する			60分						
第8回	スポーツとナショナリズム			【予習】指示した論文・資料を読む 【復習】配布プリントと論文を再読する			60分						
第9回	ポピュラーカルチャーとグローバリズム			【予習】指示した資料を読む 【復習】配布プリントと資料を再読する			60分						
第10回	ソーシャルメディアと文化1			【予習】指示した資料を読む 【復習】配布プリントと資料を再読する			60分						
第11回	ソーシャルメディアと文化2			【予習】指示した論文・資料を読む 【復習】配布プリントと論文を再読する			60分						
第12回	メディア・アクティヴィズム1			【予習】指示した資料を読む 【復習】配布プリントと資料を再読する			60分						
第13回	メディア・アクティヴィズム2			【予習】指示した資料を読む 【復習】配布プリントと資料を再読する			60分						
第14回	まとめ			【予習】指示した資料を読む 【復習】配布プリントと資料を再読する			60分						
〔授業の方法〕													
・授業は主に講義形式で行う ・講義内容に関連した映画作品／映像資料を適宜講義内で上映する予定													
〔成績評価の方法〕													
・授業ごとの小課題(40%)、期末試験(60%)による													
〔成績評価の基準〕													

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕

〔参考書〕

田中東子、山本敦久、安藤文将編『出来事から学ぶカルチュラル・スタディーズ』ナカニシヤ出版、2017年
その他、授業内で隨時指示します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

メールもしくは授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

成蹊教養カリキュラム

22/2/25 17 時 20 分

※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	カルチュラル・スタディーズ／<4>						
教員名	北小路 隆志						
科目No.	120710740	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2022 後期

[テーマ・概要]

テーマは、映画の「分析的な見方」を学ぶことです。そのうえで、映画についての「批評」を、対象となる作品の独自性のみならず、できれば、それを発見する論者（＝皆さん）自身の独自性を發揮しながら執筆してもらいます。その狙いは以下の通りです。誰もが、多かれ少なかれ日常的に映画に接し、よほど難解で特殊な作品でもない限り、その内容を理解できているはずです。しかし、皆さんは本当に映画を《見ること》や《聞くこと》ができているでしょうか。たとえば、單にそこで展開される物語や主演俳優の姿勢に喜一憂したり、そこで提起される「主題」に共感したり、違和感を覚えたりしているだけではないでしょうか。映画は、長い時間をかけて「物語」を語るためにさまざまな技法を身につけ、それらを洗練させていく一方で、それを解体するような実験もあわせて推進してきています。そしてその「文法」は、「動画」が溢れかえる現在にあってもなおさまざまな視覚表現の規範となっているのです。この授業では、(物語の)「内容」に傾きがちなわたしたちの映画鑑賞のあり方に疑問を呈し、(物語の)「形式」(語り方や映画技法、技術的側面)に焦点を当てた(分析的な)鑑賞法について学びます。そして、そこでの「学び」を基盤に映画批評の執筆に挑戦してもらいます。

[到達目標]

DP2（教養の習得）を実現するため、

- ①現在もなお視覚表現の規範となっている映画の基本的な技法を学び、より分析的な映画（映像）鑑賞法（理論）を身につけることができる。
- ②上記の分析的な鑑賞法（理論）を、映画批評の執筆を通じて実践に移し、その作品独自の「演出」（＝魅了）を明らかにできるようになる。

[授業の計画と準備学修]

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第1回	ガイダンス ・授業の概要や狙い、進め方について説明する。 ・参加者各自に、これまで抱いてきた映画観について発表を求め、検討する。	・シラバスの内容を読み込み、あらかじめ授業内容を把握する。 ・各自の映画観（これまでどのような映画を見てきたか、どんな映画が好きか、それはなぜか、など）をまとめておくこと。	60
第2回	フレームと「平面性」について① ・映画の基本的性格をめぐる考察として、その平面性とフレームによる限定について学ぶ。	・授業で習った内容の確認と理解。 ・関連資料の読み込みと理解しにくい箇所の下調べ。	90
第3回	フレームと「平面性」について② ・前回の授業内容の続きを応用。具体的な作品分析を通して、関連するさまざまな演出法やフレームの形態について学ぶ。	・授業で習った内容の確認と理解。 ・関連資料の読み込みと理解しにくい箇所の下調べ。 ・授業で紹介した映画の鑑賞。	90
第4回	映画の「現実感」について ・なぜ映画は独自の「現実感」を備え、それがどのようなかたちで作品で言及してきたか。	・授業で習った内容の確認と理解。 ・関連資料の読み込みと理解しにくい箇所の下調べ。 ・授業で紹介した映画の鑑賞。	90
第5回	画面と画面外空間について① ・画面とは何か、画面外空間とは何か。画面外空間はいかにして創出されるのか。	・授業で習った内容の確認と理解。 ・関連資料の読み込みと理解しにくい箇所の下調べ。 ・授業で紹介した映画の鑑賞。	90
第6回	画面と画面外空間について② ・絵画と映画のフレームの差異。 ・画面外空間を使った演出とその分析。	・授業で習った内容の確認と理解。 ・関連資料の読み込みと理解しにくい箇所の下調べ。 ・授業で紹介した映画の鑑賞。	90
第7回	ショットの概念① ・空間から時間へ。 ・ショットの定義をめぐって。	・授業で習った内容の確認と理解。 ・関連資料の読み込みと理解しにくい箇所の下調べ。 ・授業で紹介した映画の鑑賞。	90
第8回	ショットの概念② ・ショット・サイズによる分類法。クロースアップから遠景ショットまで。	・授業で習った内容の確認と理解。 ・関連資料の読み込みと理解しにくい箇所の下調べ。 ・授業で紹介した映画の鑑賞。	90
第9回	ショットの概念③ ・ショットとカメラの動き、そして時間。 ・問題としてのショット・シークエンス。	・授業で習った内容の確認と理解。 ・関連資料の読み込みと理解しにくい箇所の下調べ。 ・授業で紹介した映画の鑑賞。	90
第10回	聴覚的表象としての映画① ・映画におけるサウンドの分類法。	・授業で習った内容の確認と理解。 ・関連資料の読み込みと理解しにくい箇所の下調べ。 ・授業で紹介した映画の鑑賞。	90
第11回	聴覚的表象としての映画② ・映画におけるサウンドの活用法、演出法の具体的な解説。	・授業で習った内容の確認と理解。 ・関連資料の読み込みと理解しにくい箇所の下調べ。 ・授業で紹介した映画の鑑賞。	90
第12回	モンタージュ（編集）の概念① ・モンタージュとは何か。それが映画にとっていかに重要で、また論争的であるか。	・授業で習った内容の確認と理解。 ・関連資料の読み込みと理解しにくい箇所の下調べ。 ・授業で紹介した映画の鑑賞。	90
第13回	モンタージュ（編集）の概念② ・モンタージュをめぐる2つのイデオロギーを通して、映画理論を整理する。	・授業で習った内容の確認と理解。 ・関連資料の読み込みと理解しにくい箇所の下調べ。 ・授業で紹介した映画の鑑賞。	90
第14回	「まとめ」 ・授業の振り返りと、期末レポート執筆に向けての説明や質疑。	・授業で習った内容の確認と理解。 ・授業で紹介した映画の鑑賞。	90

[授業の方法]

講義や参考資料の読解を中心に進めるが、適宜、関連する映画の（主として部分的な）上映も行う。もちろん、授業の一環としての上映であり、そもそも映画についての授業である以上、真剣な態度での鑑賞が必要で、上映作品についての口頭での質問やディスカッションも隨時行う。受講者には積極的な態度での参加を求める。また、授業で言及された関連する映画の全編を、可能な範囲で自主的に鑑賞してもらいたい。

なお、各レポートの狙いは、以下の通りである。

宿題レポート：授業の理解度などを確認するために、適宜、実施する。

期末レポート：それまでの授業や参考資料での学習を通し、映画の基本的な技法について理解できているか。また、それを具体的に応用し、文章化できるか、さらにできれば、そこにオリジナルな発想を加えることができるかを確認する。

〔成績評価の方法〕

期末レポート（60%）。宿題レポートや授業中の発表や発言などの平常点（40%）による総合評価。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

特になし。

〔テキスト〕

特になし。

〔参考書〕

「映画理論講義」（J・オーモン他著、武田潔訳、勁草書房）。その他の参考資料が発生した場合も含め、授業内で使用する分については印刷して配布、もしくはCoursePowerに掲載します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

授業終了後にオンライン上か教室で受け付けます。

〔特記事項〕

科目名	現代のマスメディア						
教員名	小林 正幸						
科目No.	120720710	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2022 前期
〔テーマ・概要〕							
<p>テーマ：「よく生きる」ことからマスメディアについて考える わたしたちは好むと好まざるとにかかわらず、日々マスメディアによって発信される膨大な情報にさらされている。当たり前ですが、我々が「よく生きる」ためにマスメディアがあります。ですから「よく生きる」という地点から、現在のマスメディアの現実を理解する必要があります。 その現実は、マスメディアに関する理論や概念からアプローチできます。当然急速に発展してきたソーシャルネットワークの現実についても同様です。 我々はマスメディアが「よく生きる」ことに反していれば、どのような姿勢をもって臨むべきなのか。いま現実に生活をしている社会そのものに関心をもちながら、毎回の授業に臨んください。</p>							
〔到達目標〕							
D P2（教養の修得）を実現するため、以下を到達目標とする。							
①マスメディアが果たしている役割を理解し、他人と知識交換をしながらきちんと説明できる。 ②マスメディアの功罪と展望を説明できる。 ③ソーシャルネットワークの展望について、的確に理解し、説明できる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）			準備学修の目安（分）		
第1回	イントロダクション ・授業の内容、その進め方、予習・復習の仕方などを説明する。 ・メディアとは何なのか、その本質について解説します。	【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】授業の進め方などを確認する。			60		
第2回	マスメディアとは何か ・マスメディアの定義、特徴を解説する。 ・自明とされるマスメディアに対する理解に軸を入れます。	【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。			60		
第3回	・マスメディアの本質 この授業でのマスメディアの本質を位置付けます。マスメディアによって伝達される情報が事実ではないことを確認します。	【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。			60		
第4回	・マスメディアはPR機関 ここでは近代になってからのマスメディアが果たして来た役割がPRにあることを解説します。	【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。			60		
第5回	・メディアリテラシー1 教科書的なメディアリテラシーの考え方を解説し、そこに留まってはいけないことを考えます。大切なのは自身のリテラシーを重ねることです。	【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。			60		
第6回	・メディアリテラシー2 具体的な事例を取り上げて、メディアの記事や映像について、本講義のメディアリテラシーの考え方を適応して見ます。	【予習】これまでの授業で学修してきたことを、自分の言葉で解説することができるようにしておく。			90		
第7回	・メディアリテラシー3 具体的な事例を取り上げて、メディアの記事や映像について、本講義のメディアリテラシーの考え方を適応して見ます。これら事例の分析から、教養の重要性を確認します。	【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。			120		
第8回	・中間テスト（小テスト） これまでの講義における考え方、理論や概念を確認するための試験を行います。	【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。			60		
第9回	・産業としてのマスメディア 経済の三主体「政府・家計・企業」という図式から導かれるマスメディアの位置付け、その政治的立場がどうあるべきか解説する。	【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。			60		
第10回	企業戦略とマスメディア ・マスメディアを利用して商品宣伝を行ってきた企業戦略がどのように変化してきているかを考察する。	【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。			60		
第11回	マスメディアと政治と民主主義 ・政治に及ぼすマスメディアの果たす役割を解説する。 ・民主主義に関する理論とその特徴を解説する。 ・マスメディアによって政治意識は変化するかどうかについての問題を考察する。 ・マスメディアと政治の良好な関係を探る。	【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。			60		
第12回	・マスコミュニケーション研究を概説する1 マスメディアの機能や役割については学術的蓄積がある。ここでは、具体的な例をあげ強力効果説から限定効果説への流れを歴史的に押さえておく。	【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。			60		
第13回	・マスコミュニケーション研究を概説する2 マスメディアの機能や役割については学術的蓄積がある。ここでは前回の講義を踏まえ、具体的な例をあげ新強力効果説について解説する。	【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。			60		
第14回	総括として ・メディアと呪術性について これまでの授業をふり返り、マスメディアやインターネットでの炎上や社会問題について問題を提起する。	【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。			60		

〔授業の方法〕

基本的に、配布プリントなどをもとに、内容を詳説していく講義形式で行う。
随時授業の中で、与えられた課題に対する解答／コメントを作成する。特にリアクションペーパーを提出してもらう。

授業は以下のような流れになる。

- 1 教員による講義
- 2 教員による次回講義のテーマや考えておくことを提示する。

→

- 3 講義の復習（ここが一番大切です。その理由は最初の講義で説明します）

- 4 次回のテーマについての自習

→

- 5 そのテーマに沿った教員による講義

ただ講義は生き物ですから、皆さんの反応などから逸脱しない程度のやりくりはします。

〔成績評価の方法〕

随時行う課題への解答／コメントやリアクションペーパー（15%）、中間テスト（15%）、最終試験（70%）による総合評価を基本とし、質問など授業への積極的な参加をプラスに評価する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。

次の点に着目し、その達成度によって評価する。

- ①基礎的なキーワード、鍵概念の的確な理解。
- ②マスメディアの功罪を通して、現代社会を見通す深い理解力。
- ③試験において、講義が活かされている解答をしていること。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

特になし。

〔テキスト〕

小林正幸『メディアリテラシーの倫理学』風塵社

〔参考書〕

授業で適宜指示をする。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

科目名	社会心理学入門／<1>						
教員名	岩谷 舟真						
科目No.	120720810	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2022 前期
〔テーマ・概要〕							
社会心理学とはその名の通り、「社会」というマクロな現象から、個人の「心理」というマイクロな現象まで幅広く扱う。社会に関する現象としては、例えば日本社会とアメリカ社会の間にどのような違いがあり、それがどのように人々の心に影響するのかという文化心理学的な研究から、集団と集団の対立、集団の中での個人の行動に至るまで多岐にわたる。一方で、個人の心理に関する現象としては、例えば自己に対する歪んだ認知、他人に対するステレオタイプ・偏見、差別などが扱われる。本講義では社会と個人の相互作用に着目しつつ、社会心理学に関する諸研究について広く紹介することを目指す。							
〔到達目標〕							
(1) 個人の認知（バイアス）、集団の中での個人の意思決定、対人的な相互作用などの社会心理学的な現象を検討するための科学的な手法について理解することができる（DP 2）							
(2) 我々がどのようなバイアスを持っているかや、我々が他者から暗黙のうちにどのような影響を受けているのかについて理解することができる（DP 2）							
(3) 社会現象（コロナ禍での人々の行動など）について社会心理学の考え方をもとに分析・理解し、その現象がどのようなメカニズムで生じているかについて理解したり仮説を立てたりすることができる（DP 2・D）							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）			準備学修の目安（分）		
第1回	○イントロダクション ・本講義で扱う内容及び社会心理学で扱う現象について理解する ・社会心理学の方法論について理解する	【予習】 ・シラバスを読んで、本講義の概要について掴む 【復習】 ・自分のアイデアを確かめるための社会心理学的な方法論について理解する			60分		
第2回	○認知バイアスとその適応性 ・我々が持つバイアスについて理解する ・我々がなぜバイアスを持っているのか、バイアスはどのような点で役に立ちうるのかについて理解する	【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する			60分		
第3回	○偏見・ステレオタイプ ・我々が持つ偏見やステレオタイプについて理解する。 ・偏見を測定するための手法について理解する ・どのような状況で偏見を強く持たれるのかについて理解する	【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する			60分		
第4回	○他者に対する認知 ・我々が他者および自己の行動をどのように解釈するのかについて理解する。 ・他者の行動の認知におけるバイアスが、集団レベルでどのような現象をもたらすのかについて理解する	【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する			60分		
第5回	○自尊心・マインドセット ・自尊心とは何か、我々が自尊心を維持するためにどのような行動・及びバイアスを持つのかについて理解する。 ・我々の人間観（努力・才能についての素朴な理解）及び、その影響について理解する	【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する			60分		
第6回	○態度と説得 ・我々が持つバイアス、及びそのバイアスを用いた説得方法について理解する	【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する			60分		
第7回	○他者の存在の影響 ・同調や服従のように他者が我々にどのような影響をもたらすかについて理解する。 ・同調・服従は一方が一方へと影響を与える現象だが、人々の双方向的な相互作用が集団にもたらす現象についても理解する	【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する			60分		
第8回	○社会的アイデンティティとその影響 ・社会的アイデンティティとは何かについて理解する。 ・集団に属する自己という意識を持った時に我々がどのような行動をとるかについて理解する	【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する			60分		
第9回	○認知の文化差 ・思考や認知についてどのような文化差があるかを理解する ・思考・認知を測定するための手法について理解する	【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する			60分		
第10回	○個人主義・集団主義 ・個人主義および集団主義とは何か、およびその影響について理解できる ・その他、心の文化差をもたらす社会生態学的要因を理解できる	【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する			60分		
第11回	○ネットワークと社会の流動性 ・社会ネットワークの構造についての概念について理解できる ・開かれた社会と閉ざされた社会の特徴および各社会で適応的な行動・心理について理解できる	【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する			60分		
第12回	○信頼の構造 ・信頼概念と安心概念の違いを理解する ・他者を信頼することが適応的な社会の特徴について理解する	【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する			60分		
第13回	○リーダーシップと社会階層 ・リーダーシップの類型について理解する ・社会階層による文化の違いについて理解する	【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する			60分		

第14回	<p>○メディアと文化 ・マスマディアなどのメディアが我々に与える影響について理解する。 ・フェイクニュースを信じやすい人の特徴について、心理学の観点から理解する</p>	<p>【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する</p>	60分
〔授業の方法〕			
<ul style="list-style-type: none"> PowerPoint を用いて講義形式で授業を行うことを基本とするが、到達目標（4）を達成するために受講生同士のディスカッションを求めることがある。 社会心理学の手法および概念についての理解を深めるために、簡単な社会心理学実験への参加（体験）やアンケートへの回答を求めることがある。ただし、回答は強制せず、回答内容は評価に一切含めない。 授業について理解しているかを確認するために、授業の最後に授業内容についての感想や疑問を回収し、次の授業の最初にその疑問への回答を行う。 			
〔成績評価の方法〕			
<ul style="list-style-type: none"> 試験：(80%) 平常点（ディスカッションへの参加状況など）：(20%) 			
〔成績評価の基準〕			
<p>成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.</p> <p>試験については、下記の観点から評価する予定である。</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会心理学の方法論について理解しているか。 社会心理学の諸概念を正しく理解しているか。 社会現象を社会心理学の観点から解釈できているか。 <p>平常点については下記の観点から評価する予定である。</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会現象を社会心 			
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕			
〔テキスト〕			
<p>購入の必要なし：</p> <p>『社会心理学 補訂版』、池田謙一・唐沢穣・工藤恵理子・村本由紀子、有斐閣、3,520円</p>			
〔参考書〕			
<p>いざれも購入の必要なし：</p> <p>『個人のなかの社会』[展望 現代の社会心理学1]、浦光博・北村英哉編著、誠信書房、4840円</p> <p>『コミュニケーションと対人関係』[展望 現代の社会心理学2]、相川充・高井次郎編著、誠信書房、4400円</p> <p>『社会と個人のダイナミクス』[展望 現代の社会心理学3]、唐沢穣・村本由紀子編著、誠信書房、4620円</p>			
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕			
授業終了後に教室で受け付けます。			
〔特記事項〕			
<ul style="list-style-type: none"> アクティブ・ラーニング 			

成蹊教養カリキュラム

22/2/25 17 時 20 分

※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	社会心理学入門／<2>						
教員名	岩谷 舟真						
科目No.	120720820	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2022 後期
〔テーマ・概要〕							
<p>社会心理学とはその名の通り、「社会」というマクロな現象から、個人の「心理」というマイクロな現象まで幅広く扱う。社会に関する現象としては、例えば日本社会とアメリカ社会の間にどのような違いがあり、それがどのように人々の心に影響するのかという文化心理学的な研究から、集団と集団の対立、集団の中での個人の行動に至るまで多岐にわたる。一方で、個人の心理に関する現象としては、例えば自己に対する歪んだ認知、他人に対するステレオタイプ・偏見、差別などが扱われる。本講義では社会と個人の相互作用に着目しつつ、社会心理学に関する諸研究について広く紹介することを目指す。</p> <p>※前期に行われた「社会心理学入門／<1>」とほぼ同様の講義を行う予定であるため、「社会心理学入門／<1>」を履修した者は履修する必要がない。</p>							
〔到達目標〕							
<p>(1) 個人の認知（バイアス）、集団の中での個人の意思決定、対人的な相互作用などの社会心理学的な現象を検討するための科学的手法について理解することができる（DP 2）</p> <p>(2) 我々がどのようなバイアスを持っているかや、我々が他者から暗黙のうちにどのような影響を受けているのかについて理解することができる（DP 2）</p> <p>(3) 社会現象（コロナ禍での人々の行動など）について社会心理学の考え方をもとに分析・理解し、その現象がどのようなメカニズムで生じているかについて理解したり仮説を立てたりすることができる（DP 2・D）</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）				準備学修の目安（分）	
第1回	○イントロダクション ・本講義で扱う内容及び社会心理学で扱う現象について理解する ・社会心理学の方法論について理解する	【予習】 ・シラバスを読んで、本講義の概要について掴む 【復習】 ・自分のアイデアを確かめるための社会心理学的な方法論について理解する				60分	
第2回	○認知バイアスとその適応性 ・我々が持つバイアスについて理解する ・我々がなぜバイアスを持っているのか、バイアスはどのような点で役に立ちうるのかについて理解する	【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する				60分	
第3回	○偏見・ステレオタイプ ・我々が持つ偏見やステレオタイプについて理解する。 ・偏見を測定するための手法について理解する ・どのような状況で偏見を強く持たれるのかについて理解する	【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する				60分	
第4回	○他者に対する認知 ・我々が他者および自己の行動をどのように解釈するのかについて理解する。 ・他者の行動の認知におけるバイアスが、集団レベルでどのような現象をもたらすのかについて理解する	【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する				60分	
第5回	○自尊心・マインドセット ・自尊心とは何か、我々が自尊心を維持するためにどのような行動・及びバイアスを持つのかについて理解する。 ・我々の人間観（努力・才能についての素朴な理解）及び、その影響について理解する	【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する				60分	
第6回	○態度と説得 ・我々が持つバイアス、及びそのバイアスを用いた説得方法について理解する	【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する				60分	
第7回	○他者の存在の影響 ・同調・服従のように他者が我々にどのような影響をもたらすかについて理解する。 ・同調・服従は一方が一方へと影響を与える現象だが、人々の双方向的な相互作用が集団にもたらす現象についても理解する	【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する				60分	
第8回	○社会的アイデンティティとその影響 ・社会的アイデンティティとは何かについて理解する。 ・集団に属する自己という意識を持った時に我々がどのような行動をとるかについて理解する	【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する				60分	
第9回	○認知の文化差 ・思考や認知についてどのような文化差があるかを理解する ・思考・認知を測定するための手法について理解する	【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する				60分	
第10回	○個人主義・集団主義 ・個人主義および集団主義とは何か、およびその影響について理解できる ・その他、心の文化差をもたらす社会生態学的要因を理解できる	【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する				60分	
第11回	○ネットワークと社会の流動性 ・社会ネットワークの構造についての概念について理解できる ・開かれた社会と閉ざされた社会の特徴および各社会で適応的な行動・心理について理解できる	【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する				60分	
第12回	○信頼の構造 ・信頼概念と安心概念の違いを理解する ・他者を信頼することが適応的な社会の特徴について理解する	【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する				60分	

第13回	○リーダーシップと社会階層 ・リーダーシップの類型について理解する ・社会階層による文化の違いについて理解する	【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する	60分
第14回	○メディアと文化 ・マスメディアなどのメディアが我々に与える影響について理解する。 ・フェイクニュースを信じやすい人の特徴について、心理学の観点から理解する	【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する	60分
〔授業の方法〕			
<ul style="list-style-type: none"> PowerPoint を用いて講義形式で授業を行うことを基本とするが、到達目標（4）を達成するために受講生同士のディスカッションを求めることがある。 社会心理学の手法および概念についての理解を深めるために、簡単な社会心理学実験への参加（体験）やアンケートへの回答を求めることがある。ただし、回答は強制せず、回答内容は評価に一切含めない。 授業について理解しているかを確認するために、授業の最後に授業内容についての感想や疑問を回収し、次回の授業の最初にその疑問への回答を行う。 			
〔成績評価の方法〕			
<ul style="list-style-type: none"> 試験：(80%) 平常点（ディスカッションへの参加状況など）：(20%) 			
〔成績評価の基準〕			
<p>成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.</p> <p>試験については、下記の観点から評価する予定である。</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会心理学の方法論について理解しているか。 社会心理学の諸概念を正しく理解しているか。 社会現象を社会心理学の観点から解釈できているか。 <p>平常点については下記の観点から評価する予定である。</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会現象を社会心 			
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕			
〔テキスト〕			
<p>購入の必要なし：</p> <p>『社会心理学 補訂版』、池田謙一・唐沢穣・工藤恵理子・村本由紀子、有斐閣、3,520円</p>			
〔参考書〕			
<p>いざれも購入の必要なし：</p> <p>『個人のなかの社会』〔展望 現代の社会心理学1〕、浦光博・北村英哉編著、誠信書房、4840円</p> <p>『コミュニケーションと対人関係』〔展望 現代の社会心理学2〕、相川充・高井次郎編著、誠信書房、4400円</p> <p>『社会と個人のダイナミクス』〔展望 現代の社会心理学3〕、唐沢穣・村本由紀子編著、誠信書房、4620円</p>			
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕			
授業終了後に教室で受け付けます。			
〔特記事項〕			
<ul style="list-style-type: none"> アクティブ・ラーニング 			

成蹊教養カリキュラム

22/2/25 17 時 20 分

※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名		企業と社会／<1>											
教員名		鈴村 美代子											
科目No.	120720910	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2022 前期						
〔テーマ・概要〕													
経営学が主に研究対象とする企業は、社会全体そして私たち個々人の生活に多大なる影響を及ぼしています。また、皆さんの中多くは、卒業後に営利組織（企業）ないし非営利組織（官公庁など）に就職し、組織の一員として生活を送ることになります。そのため、本講義は私たちの日常と深い関わりを持っている企業がどのような存在で、どのような仕組みを持ち、どのように運営されているか、基本的な理解を身につけることを目標とします。経営学に関する幅広い概念や基礎知識を理解し習得することを通じて、企業の実際の活動内容や企業経営の現場で起きている諸問題を理解し、考える力を養成します。													
〔到達目標〕													
DP2（教養の習得）、DP3（課題の発見と解決）、DP4（表現力、発信力）を実現するため、次の点を目標とします。 ①経営学の基礎知識を身につける。 ②企業の実際の活動内容や職場の諸問題について考える力を身につける。													
〔授業の計画と準備学修〕													
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）			準備学修の目安（分）						
第1回	ガイダンス ・ 授業の内容、進め方、予習・復習の仕方等を説明する。 ・ 日常のなかで企業を考える。			【予習】シラバスを読み、あらかじめその内容を把握する。 【復習】講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。			60						
第2回	組織社会化 ・ 新入社員が組織に適応していくプロセスについて理解する。			【予習】配布資料を読んで、疑問点を整理する。 【復習】講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。			60						
第3回	集団・チームにおける意思決定 ・ 集団行動のダイナミズムと負の側面について理解する。			【予習】配布資料を読んで、疑問点を整理する。 【復習】講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。			60						
第4回	リーダーシップとモチベーション ・ 組織の目標を達成するために行使される影響力と組織メンバーへの動機づけについて理解する。			【予習】配布資料を読んで、疑問点を整理する。 【復習】講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。			60						
第5回	組織文化 ・ 組織メンバーによって共有される考え方や行動様式について理解する。			【予習】配布資料を読んで、疑問点を整理する。 【復習】講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。			60						
第6回	組織構造 ・ 組織の分業と調整のパターンについて理解します。			【予習】配布資料を読んで、疑問点を整理する。 【復習】講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。			60						
第7回	経営戦略 ・ 組織環境を分析し、対応することについて理解する。			【予習】配布資料を読んで、疑問点を整理する。 【復習】講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。			60						
第8回	競争戦略 ・ ライバル企業との競争に関する基本的な概念について理解する。			【予習】配布資料を読んで、疑問点を整理する。 【復習】講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。			60						
第9回	マーケティング ・ 市場を創るという視点からマーケティングの基本的な概念について学ぶ。			【予習】配布資料を読んで、疑問点を整理する。 【復習】講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。			60						
第10回	株式会社の仕組み ・ 株式会社の基本的な特徴と仕組みについて理解する。			【予習】配布資料を読んで、疑問点を整理する。 【復習】講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。			60						
第11回	組織間関係と協調戦略 ・ 組織と利害関係集団の関係性について理解する。			【予習】配布資料を読んで、疑問点を整理する。 【復習】講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。			60						
第12回	日本の経営の特徴 ・ かつて世界から注目された日本企業の特徴とその変化について理解する。			【予習】配布資料を読んで、疑問点を整理する。 【復習】講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。			60						
第13回	企業の社会的責任と社会貢献活動 ・ 「企業は社会の公器」という考え方について考える。			【予習】配布資料を読んで、疑問点を整理する。 【復習】講義資料を参考にし、事例について検討する。			60						
第14回	総括 ・ 授業全体のまとめを行う。			【予習】これまでの配布資料を再読する。 【復習】講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。			60						
〔授業の方法〕													
講義形式を中心に授業を行います。リアクションペーパー、クイズ、課題を通じて、受講生の理解度を確認しながら授業を進めます。上で示された準備学習の時間はあくまで目安ですので、各自の理解度に応じて取り組んでください。													
〔成績評価の方法〕													
平常点（授業への参加状況やリアクションペーパー・課題への回答）30%、および学年末試験70%により評価します。なお、2022年度の授業の実施状況によって評価項目と割合（%）を変更する可能性があります。詳しくはガイダンスで説明しますので、履修を予定している方は第1回の授業に必ず参加してください。													
〔成績評価の基準〕													

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

上述した次の2点の目標が達成できていること。

①経営学の基礎知識を身につける。

②企業の実際の活動内容や職場の諸問題について考える力を身につける。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

必要な予備知識は特にありません。

〔テキスト〕

教科書は指定しません。

〔参考書〕

稻葉祐之・井上達彦・鈴木竜太・山下勝（2010）『キャリアで語る経営組織』有斐閣アルマ

上野恭裕・馬場大治（2016）『経営管理論』中央経済社

小山嚴也・出見世信之・谷口勇仁（2018）『問い合わせはじめる現代企業』有斐閣

参考書を購入する必要はありません。その他の参考書に関しては、講義中に適宜紹介します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知します。

授業終了後に教室で受けつけます。

〔特記事項〕

特にありません。

成蹊教養カリキュラム

22/2/25 17 時 20 分

※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名		企業と社会／<2>											
教員名		鈴村 美代子											
科目No.	120720920	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2022 後期						
〔テーマ・概要〕													
経営学が主に研究対象とする企業は、社会全体そして私たち個々人の生活に多大なる影響を及ぼしています。また、皆さんの中の多くは、卒業後に営利組織（企業）ないし非営利組織（官公庁など）に就職し、組織の一員として生活を送ることになります。そのため、本講義は私たちの日常と深い関わりを持っている企業がどのような存在で、どのような仕組みを持ち、どのように運営されているか、基本的な理解を身につけることを目標とします。経営学に関する幅広い概念や基礎知識を理解し習得することを通じて、企業の実際の活動内容や企業経営の現場で起きている諸問題を理解し、考える力を養成します。													
〔到達目標〕													
DP2（教養の習得）、DP3（課題の発見と解決）、DP4（表現力、発信力）を実現するため、次の点を目標とします。 ①経営学の基礎知識を身につける。 ②企業の実際の活動内容や職場の諸問題について考える力を身につける。													
〔授業の計画と準備学修〕													
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）			準備学修の目安（分）						
第1回	ガイダンス ・ 授業の内容、進め方、予習・復習の仕方等を説明する。 ・ 日常のなかで企業を考える。			【予習】シラバスを読み、あらかじめその内容を把握する。 【復習】講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。			60						
第2回	組織社会化 ・ 新入社員が組織に適応していくプロセスについて理解する。			【予習】配布資料を読んで、疑問点を整理する。 【復習】講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。			60						
第3回	集団・チームにおける意思決定 ・ 集団行動のダイナミズムと負の側面について理解する。			【予習】配布資料を読んで、疑問点を整理する。 【復習】講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。			60						
第4回	リーダーシップとモチベーション ・ 組織の目標を達成するために行使される影響力と組織メンバーへの動機づけについて理解する。			【予習】配布資料を読んで、疑問点を整理する。 【復習】講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。			60						
第5回	組織文化 ・ 組織メンバーによって共有される考え方や行動様式について理解する。			【予習】配布資料を読んで、疑問点を整理する。 【復習】講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。			60						
第6回	組織構造 ・ 組織の分業と調整のパターンについて理解します。			【予習】配布資料を読んで、疑問点を整理する。 【復習】講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。			60						
第7回	経営戦略 ・ 組織環境を分析し、対応することについて理解する。			【予習】配布資料を読んで、疑問点を整理する。 【復習】講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。			60						
第8回	競争戦略 ・ ライバル企業との競争に関する基本的な概念について理解する。			【予習】配布資料を読んで、疑問点を整理する。 【復習】講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。			60						
第9回	マーケティング ・ 市場を創るという視点からマーケティングの基本的な概念について学ぶ。			【予習】配布資料を読んで、疑問点を整理する。 【復習】講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。			60						
第10回	株式会社の仕組み ・ 株式会社の基本的な特徴と仕組みについて理解する。			【予習】配布資料を読んで、疑問点を整理する。 【復習】講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。			60						
第11回	組織間関係と協調戦略 ・ 組織と利害関係集団の関係性について理解する。			【予習】配布資料を読んで、疑問点を整理する。 【復習】講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。			60						
第12回	日本の経営の特徴 ・ かつて世界から注目された日本企業の特徴とその変化について理解する。			【予習】配布資料を読んで、疑問点を整理する。 【復習】講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。			60						
第13回	企業の社会的責任と社会貢献活動 ・ 「企業は社会の公器」という考え方について考える。			【予習】配布資料を読んで、疑問点を整理する。 【復習】講義資料を参考にし、事例について検討する。			60						
第14回	総括 ・ 授業全体のまとめを行う。			【予習】これまでの配布資料を再読する。 【復習】講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。			60						
〔授業の方法〕													
講義形式を中心に授業を行います。リアクションペーパー、クイズ、課題を通じて、受講生の理解度を確認しながら授業を進めます。上で示された準備学習の時間はあくまで目安ですので、各自の理解度に応じて取り組んでください。													
〔成績評価の方法〕													
平常点（授業への参加状況やリアクションペーパー・課題への回答）30%、および学年末試験70%により評価します。なお、2022年度の授業の実施状況によって評価項目と割合（%）を変更する可能性があります。詳しくはガイダンスで説明しますので、履修を予定している方は第1回の授業に必ず参加してください。													
〔成績評価の基準〕													

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

上述した次の2点の目標が達成できていること。

①経営学の基礎知識を身につける。

②企業の実際の活動内容や職場の諸問題について考える力を身につける。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

必要な予備知識は特にありません。

〔テキスト〕

教科書は指定しません。

〔参考書〕

稻葉祐之・井上達彦・鈴木竜太・山下勝（2010）『キャリアで語る経営組織』有斐閣アルマ

上野恭裕・馬場大治（2016）『経営管理論』中央経済社

小山嚴也・出見世信之・谷口勇仁（2018）『問い合わせはじめる現代企業』有斐閣

参考書を購入する必要はありません。その他の参考書に関しては、講義中に適宜紹介します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知します。

授業終了後に教室で受けつけます。

〔特記事項〕

特にありません。

成蹊教養カリキュラム

22/2/25 17 時 20 分

※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名		物質の究極像											
教員名		丸吉 一暢											
科目No.	120730110	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2022 後期						
〔テーマ・概要〕													
物理嫌いでも構いません。「自然界の基本的な成り立ち」について、好奇心をもっている人に、誰にでもわかるレベルで説明します。物質は原子からできているという話から始まり、原子は原子核と電子からできており、次に原子核は陽子と中性子からできており、さらにクオーカ、ニュートリノとは何かと、話が進んでいきます。そして現段階での物質の究極像である標準理論にたどり着きます。人類は自然の基本構造をどこまで明らかにしたのか、感じ取ってもらうための授業です。													
〔到達目標〕													
DP2【教養の修得】を目標とする。 自然界の根本法則に対して、科学者がどのように取り組んでいるかを知る。そしてその最先端の状況についてイメージをもち、ときにテレビや新聞・雑誌に登場する科学ニュースに、関心をもって接触できるようになる。													
〔授業の計画と準備学修〕													
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）			準備学修の目安（分）						
第1回	素粒子物理学への導入			教科書の該当箇所を読み、必要ならば参考書やネットから情報を得る。			30~60						
第2回	近代科学はなぜ誕生したのか・・ニュートンの力学			教科書の該当箇所を読み、必要ならば参考書やネットから情報を得る。			30~60						
第3回	近代科学の発展・・原子論・熱とエネルギー			教科書の該当箇所を読み、必要ならば参考書やネットから情報を得る。			30~60						
第4回	光の歴史：光は波か粒子か			教科書の該当箇所を読み、必要ならば参考書やネットから情報を得る。			30~60						
第5回	新しい物理学（量子力学）			教科書の該当箇所を読み、必要ならば参考書やネットから情報を得る。			30~60						
第6回	粒子の生成・吸収：質量エネルギー			教科書の該当箇所を読み、必要ならば参考書やネットから情報を得る。			30~60						
第7回	素粒子物理学の誕生：湯川の中間子論			教科書の該当箇所を読み、必要ならば参考書やネットから情報を得る。			30~60						
第8回	弱い相互作用			教科書の該当箇所を読み、必要ならば参考書やネットから情報を得る。			30~60						
第9回	核子からクオーカへ			教科書の該当箇所を読み、必要ならば参考書やネットから情報を得る。			30~60						
第10回	量子色力学			教科書の該当箇所を読み、必要ならば参考書やネットから情報を得る。			30~60						
第11回	新粒子の発見			教科書の該当箇所を読み、必要ならば参考書やネットから情報を得る。			30~60						
第12回	電弱統一理論			教科書の該当箇所を読み、必要ならば参考書やネットから情報を得る。			30~60						
第13回	世代混合・ニュートリノ振動			教科書の該当箇所を読み、必要ならば参考書やネットから情報を得る。			30~60						
第14回	今後の展望/宇宙から見えること			教科書の該当箇所を読み、必要ならば参考書やネットから情報を得る。			30~60						
〔授業の方法〕													
板書による説明、教科書該当部分のスクリーンへの提示、興味深いサイトの紹介などで授業を進めます。 授業は多少、余裕をもって終え、授業に関係する簡単なレポート（主として内容の要約）を提出してもらいます。													
〔成績評価の方法〕													
毎週のレポート提出で評価します。提出が第一で、内容の評価も加味します。試験はありません。													
〔成績評価の基準〕													

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし

〔テキスト〕
『物質の究極像をめざして』、和田純夫著、ベレ出版

〔参考書〕
なし。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイト、Course Power で周知する。

〔特記事項〕

成蹊教養カリキュラム

22/2/25 17 時 20 分

※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名		人間と進化											
教員名		櫻木 晃彦											
科目No.	120730210	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2022 後期						
〔テーマ・概要〕													
この授業の内容は生物人類学、すなわち生物学的観点に立って人間を探求するものである。具体的には、生物としてのヒトの特徴を学ぶ。あらゆる自然科学の究極の目的は自分自身を知ることであろう。生物としての人間、すなわちヒトとはどのようなものかを学ぶことによって、「自らを知ろう」という知的作業を体験する。													
〔到達目標〕													
生物としてのヒトの正確なイメージをもつこと。													
〔授業の計画と準備学修〕													
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）			準備学修の目安（分）						
第1回	1. 教養とは何か			教養とは何かを考える。			60分						
第2回	2. 共通言語の必要性			共通言語の必要性と生物学について考えておく。			60分						
第3回	3. 全身の骨			人体の概形を決めているのは何かを考える。			60分						
第4回	4. 衝撃吸収機構			衝撃吸収機構と骨格がヒトの特徴であることを理解しておく。			60分						
第5回	5. 感覚はすべてのはじまり（1）			ヒトの感覚の特徴について考える。			60分						
第6回	6. 感覚はすべてのはじまり（2）			ヒトの視覚の特徴について考える。			60分						
第7回	7. 骨と骨の連結			骨の連結と関節について考える。			60分						
第8回	8. 成長と進化			進化とヒトの成長について考える。			60分						
第9回	9. ヒトの個体発生（1）受精・誕生・成長			ヒトの受精から成長について考える。			60分						
第10回	10. ヒトの個体発生（2）老化と死			ヒトの死について考える。			60分						
第11回	11. 進化とは何か（1）			進化と進歩の違いについて考える。			60分						
第12回	12. 進化とは何か（2）			課題レポートについて考えておく。			60分						
第13回	13. 古人骨と戦争			北京原人と明石原人について考えておく。			60分						
第14回	14. ヒトとしての自分自身を考える			関連すると判断できるところを熟考する。			60分						
〔授業の方法〕													
講義形式で行なう。ほぼ毎回プリントを配布し、コンピュータグラフィックス等の画像を駆使して視覚に訴え、わかりやすく解説する。													
〔成績評価の方法〕													
評価は課題レポート(95%)と授業への参加状況(5%)による。													
〔成績評価の基準〕													

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
人体に興味があることを必要とする。高校で「生物」を履修している必要はない。

〔テキスト〕
とくになし。

〔参考書〕
『ここまでわかった人類の起源と進化』、R. ルーウィン、てらべいあ社、¥3200、ISBN:88699-013-4

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業終了後に教室で受け付ける。

〔特記事項〕

成蹊教養カリキュラム

22/2/25 17 時 20 分

※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名		脳科学と心／<1>											
教員名		山本 愛実											
科目No.	120730310	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2022 前期						
〔テーマ・概要〕													
脳神経科学の最新の研究テーマを例としてとりあげ、神経科学上の成果が人間理解や社会生活に大きな影響を及ぼし始めていることを概説する													
〔到達目標〕													
DP2【教養の修得】、DP3【課題の発見と解決】、DP4【表現力、発信力】を達成するために、脳神経科学の基礎的な知識を習得するとともに、それがわれわれの生活や社会にどんな影響を及ぼすかを考察する能力を身につけることを目標とします。													
〔授業の計画と準備学修〕													
回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）				準備学修の目安（分）							
第1回	1. 脳神経科学とは何かその意義を考える	教科書の1章を授業後に読む。 授業の内容を確認し復習する。 余裕があれば、次の章に目を通す。				60							
第2回	2. 知覚 環境変化の見落としについて、知覚のメカニズムを知る	教科書の2章を授業後に読む。 授業の内容を確認し復習する。 余裕があれば、次の章に目を通す。				60							
第3回	3. 記憶 偽記憶研究の現状と展望、偽記憶とうその脳メカニズムの違いを知る	教科書の3章を授業後に読む。 授業の内容を確認し復習する。 余裕があれば、次の章に目を通す。				60							
第4回	4. 自由意志 意志と行為の脳メカニズム、自由意志の存在に疑問を投げかける脳科学の研究について考える	教科書の4章を授業後に読む。 授業の内容を確認し復習する。 余裕があれば、次の章に目を通す。				60							
第5回	5. 意思決定 薬物依存と意思決定の歪み、薬物による健常な意思決定の歪みにより、薬物依存からの脱却の困難さを知る	教科書の5章を授業後に読む。 授業の内容を確認し復習する。 余裕があれば、次の章に目を通す。				60							
第6回	6. 道徳 道徳の脳科学、道徳・倫理を脳科学の視点で考える	教科書の6章を授業後に読む。 授業の内容を確認し復習する。 余裕があれば、次の章に目を通す。				60							
第7回	7. 社会性の神経経済学 脳神経科学の最新の研究分野である信頼に関する神経経済学について、社会にとって互いの信頼の重要性を示すとともにその脳基盤を知る	教科書の7章を授業後に読む。 授業の内容を確認し復習する。 余裕があれば、次の章に目を通す。				60							
第8回	8. マインドリーディング ニューアイメージング法の解説、脳科学は他人の心を読み取れるのか	教科書の8章を授業後に読む。 授業の内容を確認し復習する。 余裕があれば、次の章に目を通す。				60							
第9回	9. ブレインマシンインターフェイス ブレインマシンインターフェイスとは何か、その目的は？失った機能をどこまで機械で補えるのか	教科書の9章を授業後に読む。 授業の内容を確認し復習する。 余裕があれば、次の章に目を通す。				60							
第10回	10. 精神疾患 精神疾患について知り、その社会の中での問題を考える、精神疾患は脳機能の疾患である	教科書の10章を授業後に読む。 授業の内容を確認し復習する。 余裕があれば、次の章に目を通す。				60							
第11回	11. スマートドラッグ 薬による能力の増強について現状を知る、スマートドラッグは許されるのか	教科書の11章を授業後に読む。 授業の内容を確認し復習する。 余裕があれば、次の章に目を通す。				60							
第12回	12. 教育 三歳児神話について関連する脳科学的研究を学ぶ、脳科学は教育に役立つか	教科書の12章を授業後に読む。 授業の内容を確認し復習する。 余裕があれば、次の章に目を通す。				60							
第13回	13. 加齢 加齢に伴う認知機能の低下について考える、なぜ、お年寄りを狙う犯罪が多いのか	教科書の13章を授業後に読む。 授業の内容を確認し復習する。 余裕があれば、次の章に目を通す。				60							
第14回	14. 広告利用 脳トレ広告の問題点を知る、似非科学に騙されないために	教科書の14章を授業後に読む。 授業の内容を確認し復習する。 試験に備え今まで授業内で取り上げた内容について復習する。				60							
〔授業の方法〕													
講義を主とする。													
〔成績評価の方法〕													
オンラインによる小テスト12回分（6点満点×12 = 72点分）と対面による期末試験（28点分）により成績評価する。													
〔成績評価の基準〕													

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.
脳神経科学の基礎的な知識を習得するとともに、それがわれわれの生活や社会にどんな影響を及ぼすかを考察する能力を身につけることができたか、試験を通じて確認します。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
現代科学についての知識はそれほど必要としない。

〔テキスト〕
脳神経科学リテラシー
勁草書房
信原幸弘、原塑、山本愛実 編

〔参考書〕
特になし。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業開始前と終了後に教室で受け付ける。電子メールにおいても随時受け付ける。

〔特記事項〕

成蹊教養カリキュラム

22/2/25 17 時 20 分

※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名		脳科学と心／<2>											
教員名		山本 愛実											
科目No.	120730320	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2022 後期						
〔テーマ・概要〕													
脳神経科学の最新の研究テーマを例としてとりあげ、神経科学上の成果が人間理解や社会生活に大きな影響を及ぼし始めていることを概説する													
〔到達目標〕													
DP2【教養の修得】、DP3【課題の発見と解決】、DP4【表現力、発信力】を達成するために、脳神経科学の基礎的な知識を習得するとともに、それがわれわれの生活や社会にどんな影響を及ぼすかを考察する能力を身につけることを目標とします。													
〔授業の計画と準備学修〕													
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）			準備学修の目安（分）						
第1回	1. 脳神経科学とは何かその意義を考える			教科書の1章を授業後に読む。 授業の内容を確認し復習する。 余裕があれば、次の章に目を通す。			60						
第2回	2. 知覚 環境変化の見落としについて、知覚のメカニズムを知る			教科書の2章を授業後に読む。 授業の内容を確認し復習する。 余裕があれば、次の章に目を通す。			60						
第3回	3. 記憶 偽記憶研究の現状と展望、偽記憶とうその脳メカニズムの違いを知る			教科書の3章を授業後に読む。 授業の内容を確認し復習する。 余裕があれば、次の章に目を通す。			60						
第4回	4. 自由意志 意志と行為の脳メカニズム、自由意志の存在に疑問を投げかける脳科学の研究について考える			教科書の4章を授業後に読む。 授業の内容を確認し復習する。 余裕があれば、次の章に目を通す。			60						
第5回	5. 意思決定 薬物依存と意思決定の歪み、薬物による健常な意思決定の歪みにより、薬物依存からの脱却の困難さを知る			教科書の5章を授業後に読む。 授業の内容を確認し復習する。 余裕があれば、次の章に目を通す。			60						
第6回	6. 道徳 道徳の脳科学、道徳・倫理を脳科学の視点で考える			教科書の6章を授業後に読む。 授業の内容を確認し復習する。 余裕があれば、次の章に目を通す。			60						
第7回	7. 社会性の神経経済学 脳神経科学の最新の研究分野である信頼に関する神経経済学について、社会にとって互いの信頼の重要性を示すとともにその脳基盤を知る			教科書の7章を授業後に読む。 授業の内容を確認し復習する。 余裕があれば、次の章に目を通す。			60						
第8回	8. マインドリーディング ニューアイメージング法の解説、脳科学は他人の心を読み取れるのか			教科書の8章を授業後に読む。 授業の内容を確認し復習する。 余裕があれば、次の章に目を通す。			60						
第9回	9. ブレインマシンインターフェイス ブレインマシンインターフェイスとは何か、その目的は？失った機能をどこまで機械で補えるのか			教科書の9章を授業後に読む。 授業の内容を確認し復習する。 余裕があれば、次の章に目を通す。			60						
第10回	10. 精神疾患 精神疾患について知り、その社会の中での問題を考える、精神疾患は脳機能の疾患である			教科書の10章を授業後に読む。 授業の内容を確認し復習する。 余裕があれば、次の章に目を通す。			60						
第11回	11. スマートドラッグ 薬による能力の増強について現状を知る、スマートドラッグは許されるのか			教科書の11章を授業後に読む。 授業の内容を確認し復習する。 余裕があれば、次の章に目を通す。			60						
第12回	12. 教育 三歳児神話について関連する脳科学的研究を学ぶ、脳科学は教育に役立つか			教科書の12章を授業後に読む。 授業の内容を確認し復習する。 余裕があれば、次の章に目を通す。			60						
第13回	13. 加齢 加齢に伴う認知機能の低下について考える、なぜ、お年寄りを狙う犯罪が多いのか			教科書の13章を授業後に読む。 授業の内容を確認し復習する。 余裕があれば、次の章に目を通す。			60						
第14回	14. 広告利用 脳トレ広告の問題点を知る、似非科学に騙されないために			教科書の14章を授業後に読む。 授業の内容を確認し復習する。 試験に備え今まで授業内で取り上げた内容について復習する。			60						
〔授業の方法〕													
講義を主とする。													
〔成績評価の方法〕													
オンラインによる小テスト12回分（6点満点×12 = 72点分）と対面による期末試験（28点分）により成績評価する。													
〔成績評価の基準〕													

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.
脳神経科学の基礎的な知識を習得するとともに、それがわれわれの生活や社会にどんな影響を及ぼすかを考察する能力を身につけることができたか、試験を通じて確認します。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
現代科学についての知識はそれほど必要としない。

〔テキスト〕
脳神経科学リテラシー
勁草書房
信原幸弘、原塑、山本愛実 編

〔参考書〕
特になし。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業開始前と終了後に教室で受け付ける。電子メールにおいても随時受け付ける。

〔特記事項〕

成蹊教養カリキュラム

22/2/25 17 時 20 分

※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	天文学入門						
教員名	吉莊 玲子.渡部 潤一						
科目No.	120730410	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2022 前期

[テーマ・概要]

天文学は、私たち人類が自分たちを取り巻く世界を理解したいという知的好奇心から生まれた、最古の学問のひとつである。私たちの住む地球からはじまり、太陽系、銀河系そして遠方銀河までが、どのように観測され、研究されてきたのか、宇宙の構造を空間スケールを変えながら概略を学ぶ。また、私たちの住む地球や太陽系を含めて、時間とともにどのように進化してきたのかを概説する。

[到達目標]

1. 天文学が明らかにしてきた知見を、時間的・空間的なスケールと絡めて包括的に理解する
2. 地球や私たちの文明のあり方を、宇宙における存在として捉えなおす

[授業の計画と準備学修]

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第1回	ガイダンス／宇宙観の変遷 ・本講義の進め方や評価基準について説明する。 ・天文学の始まりと研究の流れについて解説する。	【予習】シラバスや参考書を読み、予め講義内容を把握する。 【復習】講義の進め方や評価基準を確認し、配布プリントを復習する。	30 60
第2回	基礎知識1 ・時間と空間、暦の成立と変遷、天体のスケールについて解説し、学修する。	時間と空間の概念、暦の成立と変遷、天体のスケールについて、プリントや参考書を元に復習し、理解を深める。	90
第3回	基礎知識2 ・観測とはなにか、観測手法、波長、座標系などについて解説し、学修する。	観測とはなにか、観測手法、波長、座標系などについて、プリントや参考書を元に復習し、理解を深める。	90
第4回	太陽系1 ・太陽系の概念の変遷と惑星とは何かについて解説し、学修する。	太陽系の概念の変遷、特に惑星の定義について、プリントや参考書を元に復習し、理解を深める。	90
第5回	太陽系2 ・個々の惑星の性質、特徴、種別などについて解説し、学修する。	個々の惑星の性質、特徴、種別などについて、プリントや参考書を元に復習し、理解を深める。	90
第6回	太陽系3 ・太陽系小天体、特に彗星、小惑星、および流星について解説し、学修する。	太陽系小天体、特に彗星、小惑星、および流星について、プリントや参考書を元に復習し、理解を深める。	90
第7回	太陽 ・恒星としての太陽、太陽の物理について解説し、学修する。	太陽の物理について、プリントや参考書を元に復習し、理解を深める。	90
第8回	恒星1 ・恒星とは何か、および恒星分類について解説し、学修する。	恒星とは何か、および恒星分類についてプリントや参考書を元に復習し、理解を深める。	90
第9回	恒星2 ・恒星の進化と輪廻、物質循環に果たす役割について解説し、学修する。	恒星の進化と輪廻、物質循環に果たす役割についてプリントや参考書を元に復習し、理解を深める。	90
第10回	銀河系 ・天の川銀河の性質、構造、および進化について解説し、学修する。	天の川銀河の性質、構造、および進化についてプリントや参考書を元に復習し、理解を深める。	90
第11回	銀河 ・銀河の種別と分類、銀河の進化、および構造について解説し、学修する。	銀河の種別と分類、銀河の進化、および構造についてプリントや参考書を元に復習し、理解を深める。	90
第12回	宇宙論 ・宇宙の誕生、進化、構造、および多宇宙論について解説し、学修する。	宇宙の誕生、進化、構造、および多宇宙論についてプリントや参考書を元に復習し、理解を深める。	90
第13回	宇宙と生命 ・宇宙における生命の可能性や生命探査、さらに系外惑星について解説し、学修する。	宇宙における生命の可能性や生命探査、系外惑星について、プリントや参考書を元に復習し、理解を深める。	90
第14回	到達度確認テスト ・これまでの学習内容について、理解度を確認するためのテストを実施する。	【予習】到達度確認テストに備え、これまでの学修内容を確認する	120

[授業の方法]

教室での講義を主体とする。授業時に各回のトピックに関するプリントを配布する。普段から、ノートやプリントを使って復習に力を入れること。最終授業で到達度確認テストを行い、授業全体の学修内容についての理解度を確認する。

[成績評価の方法]

授業最後に実施する到達度確認テストの成績を主とするが（70%）、講義への出席状況（30%）を加味する。

[成績評価の基準]

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ① 天文学が明らかにしてきた基本的な知見を、論理的に正しく説明できる。
- ② ①について、さらに時間的・空間的なスケールと絡めて解説できる。

【必要な予備知識／先修科目／関連科目】

高校程度の数学的な基礎知識があることを前提とする。

【テキスト】

なし（必要に応じてプリントを配布します）

【参考書】

「面白いほど宇宙がわかる15の言の葉」 渡部潤一著、小学館101新書

「宇宙科学入門 - 第2版 - 」 尾崎洋二著、東京大学出版会

「シリーズ 現代の天文学」全17巻、日本評論社

【質問・相談方法等（オフィス・アワー）】

授業終了後に教室で受け付ける。

【特記事項】

科目名	薬はなぜ効くか						
教員名	武田 収功						
科目No.	120730510	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2022 後期

〔テーマ・概要〕

<概要> 「薬はなぜ効くか」を考えたとき、その対象は常に生体である。生体は主に有機化合物で構成されており、薬もまたその多くは有機化合物としての化学構造を持っている。それゆえ生体と薬との相互作用、すなわち分子どうしの化学反応によってその効果が発現される。「薬が効く」と言うことはまさにこの化学反応を理解するということである。薬（医薬品）は病気の治療、予防、そして診断に用いられ、人類の健康の維持に無くてはならないものである。ここ数年、日本人によるノーベル医学・生理学賞が相次いでいる。再生医療を実現するために重要な役割を果たす新しい多能性幹細胞や新規な抗生物質の発見、自己細胞の不要なプロテインや細胞小器官をリサイクルするオートファジー、またがん細胞を攻撃する免疫細胞にブレーキをかけるタンパク質「PD-1」の発見など多岐にわたる医療分野や薬が開発され、薬の作用も多様化している。また、2020年のノーベル医学賞は「B型肝炎ウイルスの発見、治療、B型肝炎抗ウイルス薬の開発」で人類に大きく貢献した。またノーベル化学賞においては遺伝子操作「クリスピーキャス9」の開発によりゲノム編集が容易になり、遺伝病ばかりでなく、新型コロナウイルスのような未知のウイルスの治療薬の開発の可能性も期待できる。しかしこの技術は諸刃の剣であり、デザイナーベビーの誕生など、倫理が大きく問われる技術もある。2021年は新型コロナウイルスの変異株が次々と発見されているが、新型コロナウイルスに対応するワクチンも何種類か製造されている。中でも、mRNAワクチンの効果は他のワクチンと比べ優れている。新型コロナウイルスのスパイクタンパク部分のmRNA（ゲノムRNAの一部変換してある）を投与して宿主に抗体をつくるという考え方そのものが、がんをはじめとする免疫療法の更なる発展にも寄与する可能性があります期待されてきた。この発見は、2021年のノーベル賞こそ逃したが、新しい方法論として今後他の疾患の免疫療法に必ず貢献するだろう。

新しい薬の発見や開発とともに、薬の効果は治療面に大いに發揮されるが、薬の持つ副作用も大きく無視できない。副作用の疑いが持たれた抗インフルエンザウイルス薬のタミフルに代わり2018.3月に発売されたゾフルーザは全く新しい作用機序を持つ薬であるが耐性などとともに、副作用が相次いで報告された。また、PD-1などと共に抗ガン剤も次々と開発されている。しかし癌細胞にも薬に対する耐性が発生していることも理解しておかねばならない。また、2021年のノーベル化学賞は身近なアミノ酸を触媒に、優れた効率を持つ不斉合成を成功させた。この成果は薬の開発に大きな成果をもたらすであろう。このように薬についての様々な事柄について、薬にかかる分野が化学、生物学、物理学、医学、化学工学、経済学、また倫理学などの総合科学であることを認識しながら、その本質を多様な観点から考察し、理解する。

<テーマ> 「薬はなぜ効くか」の理解は、より優れた新薬の開発、耐性の克服、副作用の軽減、正しい薬の使い方などのために必要である。近年、発見の目覚ましい受容体と薬の相互作用などをはじめ、薬の種類、作用機序（薬はなぜ効くか）、薬剤耐性（薬はなぜ効かなくなるか）、薬による副作用、遺伝子治療など、最近発見された受容体と新薬の相互作用も含め、"薬"全般について講義する。その他、アレルギーなどの慢性疾患に効果が認められる漢方薬について概説し、更に覚せい剤、モルヒネ、大麻などを違法に使用する"薬物乱用"についてもその危険性などについて講義する。できるだけ化学構造式や反応式などを使わず、図案化したモデルを用い、わかりやすい、しかしサイエンスに基づいた内容とする。

科学は日々進歩しても新型コロナウイルスのような新種のウイルスは必ず存在し、パンデミックもいつ発生するかもわからない。ウイルスや生体の機能メカニズムの理解こそ、治療法の開発につながり、新しい医薬品も開発できる。

この講義では歴史に残る薬の発見のエピソードと、常に進歩する最新の薬について紹介する。

現在、新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）が蔓延している。今年度第一回目はこのウイルスを中心に以下のよう新型コロナウイルスとはどのようなものか概論する。ウイルスの構造、感染の機構、免疫・抗原・抗体とは何か、抗原・PCR（抗原）・抗体検査法のメカニズム。ワクチンとは何か、治療薬と作用機序、消毒のメカニズムなどを新聞やマスコミなどの解説より一步踏み込んだ内容を総論的に学修する。また、これらの詳細は毎回の項目で詳細に講術する。

〔到達目標〕

受講生が薬について正しい知識を取得し、薬の全体像を理解し説明できる。また、それが自分自身や家族はもとより、社会全体に対してこれから健康的なまた、保健衛生上の生活の一助となることを目標とする。

また、この講義で講述する基礎的内容が、まだまだ終息が難しい新型コロナウイルスや毎年流行が予想される季節性インフルエンザウイルスの理解にも繋がることを理解する。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第1回	講義全体の概説及び薬（医薬品）とは何かについて ・薬の定義などについて学修する。 ・新型コロナウイルスについて学修する。	【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】テクニカルタームの理解をする。	30 60
第2回	・長引く新型コロナウイルスのワクチンなどのメカニズムの解説 ・薬の発展の歴史（人類と様々な疾病との闘い） ・ヒボクラテス、鍊金術からゲノム新薬へ。人類はどのように薬を開発し利用してきたかを学修する。	【予習】図書館、インターネットなどで、薬の発展の経緯を調べておく。 【復習】進化の過程を理解する。伝統薬などを知る。	30 60
第3回	薬の形と性質・薬の作用を受ける身体の仕組み ・臓器、神経、ホルモン、酵素、DNA・・・などの働きとその理解。	【予習】高校の生物、化学の教科書をあらかじめ読んでおく。 【復習】個々の用語が説明できる。	60 60
第4回	薬の種類（サルファ剤、抗生素などの抗菌剤） ・病原細菌の種類と薬の作用機序を学修する。 ・前回までの確認小テスト。	【予習】シラバス内容にある単語を調べておく。 【復習】効くメカニズムを理解し、説明できるようにする。	30 60
第5回	薬の種類（抗ガン剤、抗高血圧薬、抗高脂血症薬などの抗生活習慣病薬） ・抗がん剤の種類と効き方の違いについて学修する。	【予習】がんとは何か、イメージしておく。 【復習】3人に1人はがんになる現代、自分の生活習慣や遺伝などと考え合わせ、理解を深める。	60 60
第6回	薬の種類（解熱鎮痛薬、抗精神病薬など） ・風邪薬について ・情動作用と大脳辺縁系など、こころと脳をつなぐ薬について学修する。	【予習】新聞などでインフルエンザやうつ病について読んでおく。 【復習】学んだことを実生活で生かせるように具体的な薬名を覚える。	60 60
第7回	薬の種類（抗ヒスタミン薬、抗アレルギー薬など） ・免疫とアレルギー。身近な疾患と市販薬なども含め薬の種類を学修する。	【予習】アレルギー性鼻炎や蕁麻疹など身近な疾患について調べておく。 【復習】対症法について理解を深める。	30 60
第8回	薬の種類（ビタミン剤、ホルモン剤など） ・栄養とビタミン ・少量でびりりと効く ・特徴的な化学構造などモデルを使い学修する。 ・ここまで確認小テスト。	【予習】医薬品では、新聞やテレビコマーシャルなどで知れる知識とは異なることをあらかじめ理解しておく。 【復習】講義内容を振り返り、理解を深める。	30 60
第9回	薬はなぜ効くか（作用機序） ・受容体 ・ファーマコフォア	【予習】この講義の本質的なところなので、図書館やインターネットでキーワードを確認しておく。 【復習】テクニカルタームの理解と作用機序を科学の言葉で	60 60

	・薬と受容体のCGによるドッキングシミュレーションを視覚で体験することで、生体と薬が化学反応していることを学ぶ。	説明できる。 なぜ効くのか、分子レベルの理解。	
第10回	薬はなぜ効かなくなるか（薬剤耐性） この回はなぜ効くかと同様に本質的な理解が必要 ・薬剤耐性と遺伝子について学修する。 ・抗ガン剤排出ポンプの作用	【予習】キーワードを調べておく。 【復習】テクニカルタームの理解。 なぜ効かなくなるのか、遺伝子レベルの理解。	30 60
第11回	薬の副作用（ほとんどの薬は副作用を持つ。様々なケースとそれらの原因、予防など） ・薬はさじ加減、毒物としての作用も含め学修する。	予習】キーワードを調べておく。 【復習】テクニカルタームの理解。	30 60
第12回	違法薬物（薬物乱用に用いられる違法薬物の種類と身体に及ぼす悪影響など） ・麻薬、覚せい剤、大麻、コカイン・・・などなど。 ・薬物乱用について学修する。	予習】キーワードについてあらかじめ調べておく。 【復習】違法薬物についての知識を理解する。	30 60
第13回	薬用植物と漢方薬・健康食品などについて ・生薬 ・栄養機能食品、特定保健用食品など。 ・補完代替医療について学修する。	【予習】シラバスの内容を調べておくこと。 【復習】生薬・漢方薬は種類が多いので整理して理解する。	30 60
第14回	これから薬・医療（新しいアイデアから得られた薬や遺伝子療法などについて） ・分子生物学、薬物動態学、コンピュータによるドラッグデザインなどが新薬を創る。 ・創薬について学修する。	【予習】人類にとってどんな薬が必要か考える。 【復習】新しい薬の未来と医の倫理について考え理解する。	30 60
〔授業の方法〕			
パワーポイントと必要に応じ板書による授業とする。また、分子模型などを使用し薬と生体との相互作用が三次元であることを理解する。対話形式をとりながら可能な限り受講生との双方向性を高めるよう工夫する。毎回講義内容の資料を配布する。テクニカルタームの習得が講義の理解を深める。毎回小テストを行いテクニカルターム、講義内容について出題する（毎回講義後（14回））			
〔成績評価の方法〕			
期末レポート、小テストの成績を加味して評価する。			
〔成績評価の基準〕			
成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。			
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕			
日常的に新聞、テレビ、インターネット、雑誌などから薬・医療に関する情報を摂取するように努めると、講義内容が理解しやすい。 科学は常に進歩している。 高校時代の化学、生物の教科書を理解することでかなりの基礎知識を得ることができる。 理解すると意外に楽しいことがわかる。			
〔テキスト〕			
「特になし」			
〔参考書〕			
特になし			
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕			
授業終了後に教室で受け付ける。 または、ポータルサイトを通じてメールを受け付ける。			
〔特記事項〕			

成蹊教養カリキュラム

22/2/25 17 時 20 分

※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名		身の回りの科学											
教員名		吉田 豊											
科目No.	120730610	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2022 前期						
〔テーマ・概要〕													
高校で物理学を履修していない学生を対象とし、身の回りのさまざまな現象を通して科学の理解を深めることを目標とする。具体的には身の回りの現象を理解あるいは説明するために力学、電磁気学、熱力学、原子核物理などの物理学の知識がどのように応用されているかについて解説を行う。また温度、速さ、音、エネルギーなど普段、日常生活で使っている言葉の科学的な意味を解説する。													
〔到達目標〕													
科学な知識を身につけることにより定量的な視点から身の回りの現象を理解できるようになることを目的とする。													
〔授業の計画と準備学修〕													
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）			準備学修の目安（分）						
第1回	導入 講義で扱うテーマの概略と基本事項について解説します。			初回は準備学習は必要ない			60						
第2回	速さと加速度、力の科学 速さ、加速度、力の概念を解説します。			前回までの講義内容の確認			60						
第3回	運動の科学 速さ、加速度、力の概念に基づき物体の運動を理解します。			前回までの講義内容の確認			60						
第4回	エネルギーの科学 物理学においてエネルギーが何を意味するのかを理解します。			前回までの講義内容の確認			60						
第5回	重力と惑星の科学 重力の性質と地球などの惑星の運動について解説します。			前回までの講義内容の確認			60						
第6回	音の科学 音がどのようにして伝わるかを解説して音の性質を理解します。			前回までの講義内容の確認			60						
第7回	光とレンズの科学 眼鏡や望遠鏡などにも応用されているレンズと光の性質を理解します。			前回までの講義内容の確認			60						
第8回	電気の科学 我々が日常的に使用している電気とは何かを理解しその基本的な性質について学びます。			前回までの講義内容の確認			60						
第9回	電磁波の科学 携帯電話やテレビなどにも応用されている電磁波の性質を理解します。			前回までの講義内容の確認			60						
第10回	温度と熱の科学 物理学における温度と熱について解説します。			前回までの講義内容の確認			60						
第11回	状態の科学 物質の基本的な状態である液体、気体、固体とそれらの関係を解説します。			前回までの講義内容の確認			60						
第12回	原子と素粒子の科学 物質を構成要素である原子と原子を構成する最小単位である素粒子について解説します。			前回までの講義内容の確認			60						
第13回	放射能の科学 ニュースで取り上げられることもある放射能の基本的な性質を解説します。			前回までの講義内容の確認			60						
第14回	まとめと展望 これまで学んできた個々のトピックの関連性について解説し講義のまとめを行います。			前回までの講義内容の確認			60						
〔授業の方法〕													
スライドを用いて講義する。													
〔成績評価の方法〕													
講義中に出題するレポートの評価に平常点を加味する。 レポート評価 80%、平常点 20%。													
〔成績評価の基準〕													

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕

適宜プリントを配布

〔参考書〕

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

成蹊教養カリキュラム

22/2/25 17 時 20 分

※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	科学技術の発展と歴史						
教員名	渋谷 一夫						
科目No.	120730810	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2022 後期

[テーマ・概要]

科学技術は長い歴史の中で多くの人びとの努力の積み重ねによって発展させてきた。この授業では、18世紀後半にはじまる産業革命以降のヨーロッパの科学技術に関するいくつかのエピソードを取り上げながら、科学と技術とが相互に影響を及ぼしあいながらそれぞれどのように発展してきたのかを明らかにする。なお、授業の進捗によって、内容を一部変更する場合がある。

[到達目標]

- ①それぞれの科学技術がどのような経過をたどって的に発展してきたかを説明できる。
- ②それぞれの科学技術が当時の社会・経済・政治などどのような関係にあったかを説明できる。
- ③それぞれの科学技術が後の社会・経済・思想などにどのような影響を与えたかを説明できる。

[授業の計画と準備学修]

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第1回	ガイダンス ・授業の内容、進め方、予習・復習のしかたなどを文書で説明する。 科学技術と産業革命 ・科学技術から見た産業革命について概観する。	【予習】産業革命とは何だったかを確認する。	60
第2回	織維産業における科学技術の発達 ・織維産業が産業革命の起源になった要因について学修する。	【予習】講義レジュメを一読し、関心のある人物や項目について調べる。 【復習】キーワードとなる事象について説明できるようにする。	60
第3回	動力技術の歴史（1）一蒸気機関の発明 ・蒸気機関を利用した時代の特徴を水車の利用との対比で学修する。	【予習】講義レジュメを一読し、関心のある人物や項目について調べる。 【復習】キーワードとなる事象について説明できるようにする。	60
第4回	動力技術の歴史（2）一蒸気機関の改良と発展 ・工場で広範に利用された蒸気機関の特徴を、近代的な蒸気機関の発明者であるワットの研究に沿って学修する	【予習】講義レジュメを一読し、関心のある人物や項目について調べる。 【復習】キーワードとなる事象について説明できるようにする。	60
第5回	動力技術の歴史（3）一輸送技術の発達 ・蒸気機関の輸送技術への応用の意味について学修する。	【予習】講義レジュメを一読し、関心のある人物や項目について調べる。 【復習】キーワードとなる事象について説明できるようにする。	60
第6回	製鉄技術の歴史 ・製鉄技術における新しい発明とその意義について学修する。	【予習】講義レジュメを一読し、関心のある人物や項目について調べる。 【復習】キーワードとなる事象について説明できるようにする。	60
第7回	工作機械技術の歴史 ・工作機械技術の形成と発達過程を社会的事情とのかかわりで学修する。	【予習】講義レジュメを一読し、関心のある人物や項目について調べる。 【復習】キーワードとなる事象について説明できるようにする。また、課題レポートの作成に努める。	120
第8回	化学技術の歴史（1）一漂白技術の新展開 ・織維産業における漂白工程の新しいやりかたについて学修する。	【予習】講義レジュメを一読し、関心のある人物や項目について調べる。 【復習】キーワードとなる事象について説明できるようにする。	60
第9回	化学技術の歴史（2）一環境問題の発生 ・漂白工程の近代化がもたらした環境悪化とそれに対する各種の取り組みについて学修する。	【予習】講義レジュメを一読し、関心のある人物や項目について調べる。 【復習】キーワードとなる事象について説明できるようにする。	60
第10回	化学技術の歴史（3）一染料技術の新展開 ・新しい染料技術が生まれる科学的・技術的背景について学修する。	【予習】講義レジュメを一読し、関心のある人物や項目について調べる。 【復習】キーワードとなる事象について説明できるようにする。	60
第11回	化学技術の歴史（4）一合成染料発明の意義 ・合成染料技術の開発に関する科学技術的特徴について学修する。	【予習】講義レジュメを一読し、関心のある人物や項目について調べる。 【復習】キーワードとなる事象について説明できるようにする。	60
第12回	電気技術の歴史（1）一通信技術の新展開 ・通信技術の変化について学修する。	【予習】講義レジュメを一読し、関心のある人物や項目について調べる。 【復習】キーワードとなる事象について説明できるようにする。	60
第13回	電気技術の歴史（2）一照明技術の新展開 ・電気照明にとって必要な関連技術とともに、電気照明の優位性について学修する。	【予習】講義レジュメを一読し、関心のある人物や項目について調べる。 【復習】キーワードとなる事象について説明できるようにする。	60
第14回	電気技術の歴史（3）一電力生産と産業電化 ・電気技術が産業界に与えた影響とともに、その開発の意味を学修する。	【予習】講義レジュメを一読し、関心のある人物や項目について調べる。 【復習】キーワードとなる事象について説明できるようにする。	60

[授業の方法]

授業は講義形式でおこないますが、教科書を使うわけではないので、ポータル上にあげるレジュメ（講義の要旨）をプリントアウトして授業に望んでほしい。必要に応じて参考資料を配布します。ある程度まで進んだ段階で「確認テスト」ないし「課題」を課すので、特に復習に力をいれてほしい。

〔成績評価の方法〕

期末試験と数回課す予定の「課題」ないし「確認テスト」の提出とでつけます。比率ですが、前者が 70%，後者が 30%です。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

特になし

〔テキスト〕

特になし

〔参考書〕

『科学技術史概論』山崎正勝ほか編著、ムイシリ出版、1985 年（購入の必要はありません）

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

質問等は授業終了後に教室で受けつけます。

〔特記事項〕

成蹊教養カリキュラム

22/2/25 17 時 20 分

※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名		気象と地球環境											
教員名		財城 真寿美											
科目No.	120810210	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 後期						
〔テーマ・概要〕													
気象・気候および地球環境問題を理解するために、気象学と気候学の基礎的な事項の理解を深めます。身近な大気の現象から、地球規模で発生する現象や環境問題などを取り扱います。高校の地学や物理の知識があると良いですが、文系の学生にも理解できるように解説します。													
〔到達目標〕													
DP2【教養の修得】(広い視野での思考・判断), DP3【課題の発見と解決】(情報の調査収集+分析・解釈+論理的思考)を実現するため、以下を到達目標とする。天気に関する身近な現象や地球規模の現象について、メカニズムから理解し、説明できるようになることを目標とする。													
〔授業の計画と準備学修〕													
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）			準備学修の目安（分）						
第1回	講義ガイダンス ・研究倫理について ・講義計画の確認			シラバスを読み、講義計画を確認していくこと			60						
第2回	大気圏の構造			前回の講義内容の確認			60						
第3回	気圧と風（1）			前回の講義内容の確認			60						
第4回	気圧と風（2）			前回の講義内容の確認			60						
第5回	放射と熱			前回の講義内容の確認			60						
第6回	水蒸気と雲			前回の講義内容の確認			60						
第7回	大気の大循環			前回の講義内容の確認			60						
第8回	低気圧と高気圧			前回の講義内容の確認			60						
第9回	台風			前回の講義内容の確認			60						
第10回	天気図でみる日本の四季			前回の講義内容の確認			60						
第11回	大気と海洋の相互作用 エル・ニーニョ現象、ラ・ニーニャ現象			前回の講義内容の確認			60						
第12回	地球温暖化1（温暖化の現状）			前回の講義内容の確認			60						
第13回	地球温暖化2（温暖化対策の取り組み）			前回の講義内容の確認			60						
第14回	総復習			全ての授業回を振り返って、復習・質問すべき事項を確認する			60						
〔授業の方法〕													
配布プリントとPCプロジェクターを使用して講義を進めます。 授業中に小テストを実施することがあります。													
〔成績評価の方法〕													
期末試験（持ち込み不可）の結果（80%）と、課題や発言などの講義への取り組み（20%）で評価します。													
〔成績評価の基準〕													

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。 次の点に着目し、その達成度により評価する。 天気に関する身近な現象や地球規模の現象について、メカニズムから理解し、説明できるスキルを習得したかどうか。
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特になし
〔テキスト〕 本年度は指定しません。
〔参考書〕 「新 百万人の天気教室」白木正規、成山堂書店、ISBN：4425513525、購入の必要なし 「学んでみると気候学はおもしろい」日下博幸、バレ出版、ISBN：4860643623、購入の必要なし
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。
〔特記事項〕

成蹊教養カリキュラム

22/2/25 17 時 20 分

※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名		自然環境と文明					
教員名		松山 洋					
科目No.	120810310	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 前期
〔テーマ・概要〕							
地球の自然環境は複雑なシステムがバランスをとりながら、うまく循環してきました。しかし人間が文明的な活動を始めた時から、人間は環境に様々な影響を与え、近年はそのバランスが崩れ、様々な環境問題が生じています。この講義では、過去の自然環境と文明に起きた変化がどのように関連していたのかを考え、さらに現代文明とこれからの地球環境のあり方を考えていきます。							
〔到達目標〕							
D P 1 (教養の修得) を実現するため、以下を到達目標とする。 過去の気候変動などが引き起こした文明や技術革新について理解を深め、自分の言葉で説明できる。 人間が環境変化に与えてきた影響について理解し、自分の言葉で説明できる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）			準備学修の目安（分）
第 1 回	1) ガイダンス ・ この授業で学修することを説明する。 ・ 担当教員のプロモーションビデオを見て、どのような視点から授業が展開されるかを理解する。			【予習】この授業のシラバスを読む。 【復習】サイエンスチャンネル 未来を創る科学者達 (72) 水から見える地球の姿を見る。 http://sciencechannel.jst.go.jp/I026904/detail/I056904072.html			【予習・復習】60 分
第 2 回	2) 現代文明がもたらした最近の環境変化（その 1） ・「20世紀最大の環境破壊」と言われた中央アジアのアラル海で起きた環境破壊について学修する。			【予習】『地球水環境と国際紛争の光と影-カスピ海・アラル海・死海と 21世紀の中央アジア/ユーラシア』水文・資源学会編集出版委員会編、信山社サイテック、2,752 円、ISBN-13: 978-4882615477 を読む。			【予習】90 分
第 3 回	3) 現代文明がもたらした最近の環境変化（その 2） ・ 乾燥地域で人々が暮らすための自然環境について学修する。 ・ 中央アジアのバルハシ湖では、隣接するアラル海と違って、なぜ大規模な環境破壊につながらなかったのかを学修する。			【予習】『図説・世界の地域問題』漆原和子・藤塚吉浩・松山洋・大西宏治編、ナカニシヤ出版、2,625 円、ISBN-13: 978-4779502040 を読む。			【予習】90 分
第 4 回	4) 現代文明がもたらした最近の環境変化（その 3） ・ アマゾン川流域の熱帯林破壊について学修する。 ・ アマゾン川流域の熱帯林が流域内外の水循環に及ぼす影響について学修する。			【予習】『アマゾン-生態と開発-』西沢利栄・小池洋一、岩波新書、609 円、ISBN-13: 978-4004302292 を読む。			【予習】90 分
第 5 回	5) 4 大文明の話 ・ 「なぜ、5,000 年前に 4 大文明はあそこに成立したのか？」を学修する。 ・ 過去の気候について学ぶ前に、現代の気候はどのように形成されているのかを学修する。			【予習】『やさしい気候学-第 4 版-』仁科淳司、古今書院、2,600 円、ISBN-13: 978-4772285117 の 第 2~4 章を読む。			【予習】60 分
第 6 回	6) 過去の気候 その 1 ・ 気候システム、およびその源となる太陽活動について学修する。 ・ 観測機器と古文書を用いた過去の気候の復元方法について学修する。			【予習】『講座 文明と環境（第 1 卷）地球と文明の周期』小泉格・安田喜憲編、朝倉書店、3,800 円、ISBN-13: 978-4254106510。および『やさしい気候学-第 4 版-』仁科淳司、古今書院、2,600 円、ISBN-13: 978-4772285117 の 第 7 章を読む。			【予習】120 分
第 7 回	7) 過去の気候 その 2 ・ 花粉、氷床コア、年輪、地形、プランクトンを用いた過去の気候の復元方法について学修する。			【予習】『やさしい気候学-第 4 版-』仁科淳司、古今書院、2,600 円、ISBN-13: 978-4772285117 の 第 7 章をもう一度読む。			【予習】60 分
第 8 回	8) 農耕と文明 その 1 ・ 農耕、および麦作の起源について学修する。 ・ 貧富の格差を生み出さない農耕のあり方（ブッシュマン）があることについても学修する。			【予習】『講座 文明と環境（第 3 卷）農耕と文明』梅原猛・安田喜憲編、朝倉書店、3,800 円、ISBN-13: 978-4254105537 を読む。			【予習】90 分
第 9 回	9) 農耕と文明 その 2 ・ 稲作の起源、および縄文時代から弥生時代への環境変化について学修する。			【予習】『講座 文明と環境（第 3 卷）農耕と文明』梅原猛・安田喜憲編、朝倉書店、3,800 円、ISBN-13: 978-4254105537 および『魏志倭人伝、卑弥呼、日本書紀をつなぐ糸』野上道男、古今書院、2,625 円、ISBN-13: 978-4772231459 を読む。			【予習】120 分
第 10 回	10) 農耕と文明 その 3 ・ マヤ文明を支えたトウモロコシ栽培、およびインカ文明を支えたジャガイモ栽培について学修する。			【予習】『マヤ文明-密林に栄えた石器文化』青山和夫、岩波新書、840 円 ISBN-13: 978-4004313649 および『ジャガイモのきた道-文明・飢饉・戦争』山本紀夫、岩波新書、777 円 ISBN-13: 978-4004311348 を読む。			【予習】120 分
第 11 回	11) 火山噴火と文明 ・ 火山噴火のメカニズムについて学修する。 ・ 火山噴火が自然環境と文明に与えた影響について概観し、天明の飢饉を例にその実態について学修する。			【予習】『火山噴火と環境・文明』町田洋・森脇広編、思文閣出版、2,460 円、ISBN-13: 978-4784208449 を読む。			【予習】90 分
第 12 回	12) 森林と文明 ・ メソポタミア文明とミノア文明が森林を利用して繁栄し、森林が枯渇するとともに減んでいったことについて学修する。			【予習】『講座 文明と環境（第 9 卷）森と文明』菅原聰・安田喜憲編、朝倉書店、3,800 円、ISBN-13: 978-4254106596 および『気候が文明を変える』安田喜憲、岩波書店、1,000 円、ISBN-10: 4000065076 を読む。			【予習】120 分
第 13 回	13) 歴史時代の気候と文明 ・ 古墳寒冷期、中世の温暖期と小氷期に起きたできごとと自然環境との関係について学修する。			【予習】『尾瀬ヶ原の自然史』阪口豊、中公新書、632 円、ISBN-13: 978-4121009289 および『講座 文明と環境（第 6 卷）歴史と気候』吉野正敏・安田喜憲編、朝倉書店、3,800 円、ISBN-13: 978-4254106565 を読む。			【予習】120 分
第 14 回	14) 将来の環境予測 ・ 地球温暖化とともに、どのような環境変化が予測されているかについて学修する。 ・ 地球温暖化の話をする前に、「地球の気温はどう決まるか？」について説明する。			【予習】『IPCC AR6/WG1 報告書 政策決定者向け要約 (SPM) 暫定訳』を読む。 (https://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/ipcc/ar6/index.html からダウンロード可能です)			【予習】90 分

〔授業の方法〕

配布資料は、授業のある週の月曜日には CoursePower に置きます（ただし、配布資料は一部がブランクになっています）。必要ならば、各自ダウンロードして紙に出力してから授業に臨んで下さい。授業では紙の資料を配布しません（小テストやコメントシートを除く）。

授業は Power Point を用いて進めます。授業で見せるスライドでは、配布資料中のブランクを外してあります。

予告なく、授業中に何回か小テストを行なったり、レポートを課したりします。これが成績評価の 50 % になります。

上で示された準備学修の時間はあくまで目安ですので、各自の理解度に応じて取り組んで下さい。また、授業の進捗状況によっては、内容を一部変更する場合があります。

〔成績評価の方法〕

授業中に何回か行なう小テスト・レポート（50%）と学期末試験（50%）で成績をつけます。レポートを全て提出し、学期末試験を受けた方だけを成績評価の対象とします。小テスト・レポートは遅れてもよいので提出しましょう（ただし、遅れて提出した場合、得点は最高でも合格最低点になります）。

学期末試験は 50 点満点で採点し、小テスト・レポート（50 点）と合わせて 60 点以上を合格とします。

S: 90 点以上

A: 80～89 点

B: 70～79 点

C: 60～69 点

F: ～59 点

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠します。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

次の点に着目し、その達成度によって評価します。

- ・小テスト・レポート、学期末試験について、授業で学んだことを述べることができる。
- ・さらに自分の考えを述べることができる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

関連科目：「環境と科学（地球と環境）」「自然地理学」「地球環境問題」

〔テキスト〕

購入する必要はありません。

〔参考書〕

準備学修の箇所に具体的に記しましたが、それ以外の参考書を以下に挙げます。

『気候変化と人間～1万年の歴史～』鈴木秀夫、原書房、6,090 円、ISBN-13: 978-4562090532.

『気候の変化が言葉をかえた』鈴木秀夫、日本放送協会、780 円、ISBN-13: 978-4140016077

『ジャガイモとインカ帝国-文明を生んだ植物』山本紀夫、4,410 円 ISBN-13: 978-4130633208

『高地文明－「もう一つの四大文明」の発見』山本紀夫、1,155 円 I

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

質問や相談は、授業終了後の教室で受け付けます。または、電子メールを活用して下さい（メールアドレスは、授業の配布資料に掲載します）。

〔特記事項〕

成蹊教養カリキュラム

22/2/25 17 時 20 分

※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名		日本列島の歴史と災害											
教員名		宮下 敦											
科目No.	120810410	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 前期						
〔テーマ・概要〕													
日本人にとって日本列島は文字通り生活の基盤となる大地である。日本列島の歴史については明治時代以来の長い研究伝統があるが、これまで統一的な説明はできなかった。近年の地殻年代学の進歩により、これまで形成年代が不明だった地質体の位置づけが分かり、約 6 億年にわたる日本列島形成史が明らかになりました。こうした現状を踏まえて、本授業科目では、SDGs の観点も踏まえて、最新の研究を踏まえた日本列島の特徴をビジュアルに理解し、その恩恵と表裏一体で発生する災害について考えることを目標とする。													
〔到達目標〕													
地球科学の基礎的な知識を持つ 日本列島の基本的な地球科学的性質が説明できる。 日本列島形成史が説明できる。 日本列島の恵みと災害について説明ができる。													
〔授業の計画と準備学修〕													
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）			準備学修の目安（分）						
第1回	地球科学の基礎 1 地球の内部構造と地球史			大学入学までに地球について学んだことをふりかえる。			60 分						
第2回	地球科学の基礎 2 地球の大きさや形			大学入学までに地図について学んだことをふりかえる。			60 分						
第3回	日本列島の基本			日本列島の範囲や形について調べる。			60 分						
第4回	日本列島の地形			日本列島の地形学的特徴および災害と対策について概観する			60 分						
第5回	日本列島とプレートテクトニクス			日本列島のまわりで起こるプレートテクトニクスについて学修する。			60 分						
第6回	日本列島の地震			日本列島のまわりの地震とそれによって起こる災害と対策について学修する。			60 分						
第7回	日本列島の火山			日本列島にある火山とそれによって起こる災害と対策について学修する。			60 分						
第8回	日本列島のはじまり			6 億年にわたる日本列島形成史のはじまりを学修する。			60 分						
第9回	日本列島をつくる付加体			日本列島の主要な構成地質体について学修する。			60 分						
第10回	日本列島をつくる花こう岩			日本列島をつくる花こう岩の特徴について学修する。			60 分						
第11回	日本列島と鉱山			「黄金の国」と言われた日本列島の地下資源について概観する。			60 分						
第12回	日本海の形成			現在の日本列島を形成した過程を概観する。			60 分						
第13回	日本列島の景観			日本列島の大地で起こる災害と恵についてまとめる。			60 分						
第14回	まとめと期末レポート提出			日本列島の特徴とそこで起きた災害についてまとめる。			60 分						
〔授業の方法〕													
基礎知識についての講義と、適宜、簡単な演習で構成する。 講義内容は、概要を示したハンドアウトを配布し、画像や映像を多用する。 各回の最後に、学修内容の確認のための小テストを実施する。													
〔成績評価の方法〕													
演習課題提出物(約 30%)、毎回の小テスト(約 30%)、および期末レポート(約 40%)により総合的に評価する。													
〔成績評価の基準〕													

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
中学校・高等学校での理科および社会科(特に地理分野)の学習内容を前提とする。

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕
購入の必要はなし。
講義の中で適宜紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
オフィスアワーは、ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕
ICT 利用

成蹊教養カリキュラム

22/2/25 17 時 20 分

※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名		外国の自然と社会A											
教員名		加賀美 雅弘											
科目No.	120810610	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 後期						
〔テーマ・概要〕													
<p>「食からみたヨーロッパの自然と社会」</p> <p>本講義ではヨーロッパの自然と社会の特性を、ヨーロッパ特有の食に着目して考察します。そのために、ヨーロッパの食の変化を、①自然環境に規定されたローカルな食文化、②近代化に伴う社会格差の拡大と食の多様化、③工業化による食の大衆化、の3点に着目した説明を行い、地域の変化と関連づけた理解を深めます。なお、必要に応じて、日本との違いにも言及します。</p>													
〔到達目標〕													
<p>DP2（教養の修得）、DP5（多様な人々との協働）を実現し、現代社会を地理的にとらえるために、以下の3点を到達目標とします。</p> <p>① 自然環境とともに社会の変化が多様な要因によって規定されることを学び、社会を多角的にとらえる視野を養う。</p> <p>② 今日のヨーロッパの社会が、ヨーロッパと世界との結びつきのなかで形成されてきたことを理解する。</p> <p>③ 日本の社会と対比することにより、世界各地の社会を相対的に見る視点を養う。</p>													
〔授業の計画と準備学修〕													
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）			準備学修の目安（分）						
第1回	第0講 オリエンテーション ・授業の全体像、進め方などを説明する。 ・ヨーロッパの概略を説明する。			【予習】 ヨーロッパの地図を見て、国の位置を理解しておく。 【復習】 ヨーロッパの国名など地図を使った理解を深める。			60						
第2回	第1講 食の地域差と文化・社会 ・世界の自然環境と人の暮らしの関係を、食の地域差に着目して説明する。			【予習・復習】 世界の自然環境と農業・食の関係に関する参考文献を読み、知識を蓄える。			80						
第3回	第2講 ヨーロッパの自然環境と食（1） ・自然環境と農業の関係を、コムギと油脂に着目した食文化に着目して説明する。			【予習・復習】 ヨーロッパの自然環境に関する参考文献を読み、知識を蓄える。			80						
第4回	第3講 ヨーロッパの自然環境と食（2） ・北西ヨーロッパの自然環境と農業の関係を、豚肉と牛乳に着目して説明する。			【予習・復習】 ヨーロッパの自然環境に関する参考文献を読み、知識を蓄える。			80						
第5回	第4講 社会的弱者のための食（1） ・貧困層の社会的地位を、トウモロコシに着目して解説する。 ・社会的弱者の特性を病気（ペラグラ）に着目して検討する。			【予習・復習】 ヨーロッパの貧困層に関する参考文献を読み、知識を蓄える。			80						
第6回	第5講 社会的弱者のための食（2） ・貧困層の社会的地位を、ジャガイモについて解説する。 ・アイルランド飢饉から社会的弱者の特性を考察する。			【予習・復習】 ジャガイモの歴史についての参考文献を読み、知識を蓄える。			100						
第7回	第6講 ヨーロッパの富裕社会 ・産業化による富裕層の暮らしについて解説する。 ・近代化とともに発展した華やかな都市文化について説明する。			【予習・復習】 ヨーロッパの近代化に関する参考文献を読み、知識を蓄える。			100						
第8回	第7講 富裕社会と食（1） ・富裕層の社会の特徴を、砂糖の歴史に着目して説明する。 ・砂糖の栽培と消費から世界の格差について考察する。			【予習・復習】 砂糖の歴史に関する参考文献を読み、知識を蓄える。			100						
第9回	第8講 富裕社会と食（2） ・富裕層の社会の特徴を、コーヒーの歴史に着目して説明する。 ・ヨーロッパの市民社会形成とコーヒーとの関係を論じる。			【予習・復習】 コーヒーの歴史に関する参考文献を読み、知識を蓄える。			100						
第10回	第9講 富裕社会と食（3） 近代化で変わった食 ・富裕層の社会の特徴を、ミネラルウォーターの歴史に着目して説明する。 ・ステイタスシンボルとしての飲料水について解説する。			【予習・復習】 近代化と富裕層に関する参考文献を読み、知識を蓄える。			100						
第11回	第10講 グローバル社会と食（1） ・富裕層の社会の特徴を、チョコレートの歴史に着目して解説する。 ・工業化によるチョコレートの大衆化を説明する。			【予習・復習】 チョコレートの歴史に関する参考文献を読み、知識を蓄える。			100						
第12回	第11講 グローバル社会と食（2） ・自然環境に規定された農産加工品の特徴を、ビールに着目して説明する。 ・工業化によるビールのグローバル化を解説する。			【予習・復習】 ビールの歴史と食の工業化に関する参考文献を読み、知識を蓄える。			100						
第13回	第12講 グローバル社会と食（3） ・流入する外国人の社会を、エスニック料理に着目して解説する。 ・エスニックタウンの特徴について説明する。			【予習・復習】 ヨーロッパで増加する外国人に関する参考文献を読み、知識を蓄える。			100						
第14回	まとめ			【予習・復習】 授業内容を整理し、ヨーロッパ社会に関する理解を進める。			100						
〔授業の方法〕													
授業は、内容を整理したパワーポイントを使用して行い、講義内容の理解をはかります。また、毎時間に課題を課し、リアクションペーパーの執筆を求めます。これによって学習内容の理解度を確認します。													
〔成績評価の方法〕													

学期末試験および期末レポートは実施しないため、「平常点（毎回の授業で課す課題の提出内容）：100%」で成績評価します。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39. 以下の点について、その達成度により評価します。

- ①ヨーロッパにおける自然環境と人の暮らしの関係を理解している。
- ②食との関わりから、ヨーロッパの社会の変化を理解している。
- ③食との関わりから、世界におけるヨーロッパ社会の特徴を理解している。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

ヨーロッパの国名と地名について、地図帳を利用して把握しておいてください。

〔テキスト〕

『食で読み解くヨーロッパ—地理研究の現場から—』 加賀美雅弘著、朝倉書店、3000円+税、ISBN978-4-254-16360-5

〔参考書〕

特になし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

成蹊教養カリキュラム

22/2/25 17 時 20 分

※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名		外国の自然と社会B											
教員名		宋 苑瑞											
科目No.	120810710	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 前期						
〔テーマ・概要〕													
この授業科目では、モンスーンアジアの諸国土と社会について地誌学的な見地から概説する。東・東南アジア諸国における外資導入に基づく輸出指向工業化政策の進展によって、アジアは世界経済において大きな役割を担うようになっている。その中で、アジアの諸地域は、急激な地域変容と社会変動を経験している。本科目では、グローバルな秩序の下に再編しつつあるアジア諸国を対象に、その空間像を理解させるとともに、具体的な事例を挙げつつ、アジアにおいて生じている地域変容および地域問題の理解へと結びつけたい。													
〔到達目標〕													
DP1（教養の取得）およびDP3（他社との協働）を実現するため、以下の到達目標とします。 アジア地域の各国の文化の違いや自然環境の違いを学び、今後の発展可能性について理解できる。													
〔授業の計画と準備学修〕													
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）			準備学修の目安（分）						
第1回	イントロダクション			特になし			60						
第2回	地理的思考			レポート①			90						
第3回	外国から見た日本			キーワードのまとめ			60						
第4回	韓国（1） 韓国の社会と文化			キーワードのまとめ			60						
第5回	韓国（2） 韓国と北朝鮮			キーワードのまとめ			60						
第6回	中国（1） 中国の社会と文化			キーワードのまとめ			60						
第7回	中国（2） 中国の経済			キーワードのまとめ			60						
第8回	香港・マカオ・台湾 文化と自然環境			キーワードのまとめ			60						
第9回	タイ タイの文化と都市問題			キーワードのまとめ			60						
第10回	ベトナム ベトナムの社会と経済			キーワードのまとめ			60						
第11回	フィリピン フィリピンの産業と環境			キーワードのまとめ			60						
第12回	マレーシア マレー半島の社会と宗教			キーワードのまとめ			60						
第13回	シンガポール シンガポールの社会と環境			キーワードのまとめ			60						
第14回	インドネシア インドネシアの文化と環境			キーワードのまとめ			60						
〔授業の方法〕													
授業はすべてオンラインで実施する。 配布資料は授業後にCourse Powerにアップロードします。 授業と連動しツイッターで授業内容や情報を発信します。													
〔成績評価の方法〕													
学期末試験および期末レポートは実施しないため、平常点で成績評価する。 平常点 40% レポート 60%													
〔成績評価の基準〕													

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕
『世界地誌シリーズ 東南アジア・オセアニア』菊地俊夫・小田宏信編、朝倉書店、3400円、ISBN: 978-4254169270
『変動するフィリピン』貝沼恵美・小田宏信・森島済、二宮書店、2800円、ISBN: 978-4-8176-0331-9
『東南アジアの大都市圏-拡大する地域統合-』生田真人、古今書院、2800円、ISBN: 978-4-7722-5256-0
『現代東南アジア入門』、藤巻正己・瀬川真平編、古今書院、2600円、ISBN: 978-4-7722-3123-7

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

Course Power などで受け付けます。

〔特記事項〕

- ・アクティブ・ラーニング
- ・情報リテラシー教育科目
- ・ＩＣＴ活用

成蹊教養カリキュラム

22/2/25 17 時 20 分

※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名		地域づくり論					
教員名		小田 宏信					
科目No.	120810810	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 前期
〔テーマ・概要〕							
<p>2000 年代の終わりから、地方再生や地方創生といったスローガンが唱えられて、地方経済の再活性化のためにさまざまな施策が講じられています。このことを示すことは、逆に言えば、20 世紀的な地域開発のやり方もはや立ち行かなくなつたということです。経済のグローバル化の進行が不安定性を増大させるなかで、持続可能な地域経済社会をどのように描いていたら良いのでしょうか。</p> <p>1990 年代半ばから 2000 年代の半ばにかけて経済構造改革や行政改革が進行したことによって、日本の国土運営や地域運営のやり方も激変しました。この授業ではまず、都市計画や農村計画の基礎、また、その古典的な実践、日本における地域開発政策の歩みを学びます。その上で、概ね 2007 年度以降にあらわれた地域活性化のための施策体系に目を向けて、主に大都市圏以外の諸地域のこれから持続可能な地域づくりについて考えます。あわせて、受講者のみなさんには事例地域を決めていただき、各地域における地域づくりの実践例を調査してレポートを作成いただく予定です。</p>							
〔到達目標〕							
<p>DP2（教養の修得）および DP5（多様な人々との協働）を実現するため、以下を到達目標とします。</p> <p>(1) 日本の地域政策の沿革と今日の取り組みについて、概要を理解できる。</p> <p>(2) 各地域に固有の課題と固有の資源に着目して持続可能な地域づくりを構想する視点を獲得できる。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）			準備学修の目安（分）		
第 1 回	地域づくり論をなぜ学ぶのか？	シラバスを確認する。			60		
第 2 回	地域づくり論の古典(1)：工住都市論と田園都市論	前回の復習			60		
第 3 回	地域づくり論の古典(2)：近隣住区論とテネシー開発	前回の復習			80		
第 4 回	都市計画／農村計画の基礎知識	前回の復習			60		
第 5 回	日本の地域開発政策の歩み	前回の復習			60		
第 6 回	地域開発から地域づくりへ：地域再生・地方再生・地方創生	前回の復習			60		
第 7 回	市町村合併と広域行政：定住自立圏の役割	前回の復習/事例紹介の準備			60		
第 8 回	リゾート開発とルーラルツーリズム	前回の復習/事例紹介の準備			60		
第 9 回	地域資源の活用：農商工連携と 6 次産業化	前回の復習/事例紹介の準備			60		
第 10 回	中心市街地の活性化とコンパクトシティ政策：地方都市の集約化をめぐって	前回の復習/事例紹介の準備			60		
第 11 回	中山間地域の課題と「小さな拠点」	前回の復習/事例紹介の準備			60		
第 12 回	地域循環共生圏と SDGs 未来都市	前回の復習/事例紹介の準備			60		
第 13 回	田園回帰とデジタル田園都市国家（...?）	前回の復習/事例紹介の準備			90		
第 14 回	受講者のレポート概要の報告：まとめに代えて	レポートの概要紹介の準備			60		
〔授業の方法〕							
講義形式と演習形式を併用します。小課題を課す場合もあります。							
〔成績評価の方法〕							
平常点評価 100%。							

<p>〔成績評価の基準〕</p> <p>上記の評価法で、成績評価の基準は、成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.</p> <p>上記、到達目標の達成度に基づいて評価する。</p> <p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕</p> <p>先修科目：「日本の国土と社会」を履修済み、もしくは同時履修することが望ましい。</p>
<p>〔テキスト〕</p> <p>使用しません。</p>
<p>〔参考書〕</p> <p>授業にて紹介します。</p>
<p>〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕</p> <p>ポータルサイトで周知する。</p>
<p>〔特記事項〕</p> <p></p>

成蹊教養カリキュラム

22/2/25 17 時 20 分

※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名		近現代のアジア A／<1>					
教員名		小武海 櫻子					
科目No.	120820210	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 前期
〔テーマ・概要〕							
〔到達目標〕							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）			準備学修の目安（分）
第1回							
第2回							
第3回							
第4回							
第5回							
第6回							
第7回							
第8回							
第9回							
第10回							
第11回							
第12回							
第13回							
第14回							
〔授業の方法〕							
〔成績評価の方法〕							
〔成績評価の基準〕							

[必要な予備知識／先修科目／関連科目]
[テキスト]
[参考書]
[質問・相談方法等（オフィス・アワー）]
[特記事項]

成蹊教養カリキュラム

22/2/25 17 時 20 分

※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名		近現代のアジア A／<2>					
教員名		小武海 櫻子					
科目No.	120820220	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 前期
〔テーマ・概要〕							
〔到達目標〕							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）			準備学修の目安（分）
第1回							
第2回							
第3回							
第4回							
第5回							
第6回							
第7回							
第8回							
第9回							
第10回							
第11回							
第12回							
第13回							
第14回							
〔授業の方法〕							
〔成績評価の方法〕							
〔成績評価の基準〕							

[必要な予備知識／先修科目／関連科目]
[テキスト]
[参考書]
[質問・相談方法等（オフィス・アワー）]
[特記事項]

成蹊教養カリキュラム

22/2/25 17 時 20 分

※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名		近現代のアジアB／<1>					
教員名		小武海 櫻子					
科目No.	120820310	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 後期
〔テーマ・概要〕							
〔到達目標〕							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）			準備学修の目安（分）
第1回							
第2回							
第3回							
第4回							
第5回							
第6回							
第7回							
第8回							
第9回							
第10回							
第11回							
第12回							
第13回							
第14回							
〔授業の方法〕							
〔成績評価の方法〕							
〔成績評価の基準〕							

[必要な予備知識／先修科目／関連科目]
[テキスト]
[参考書]
[質問・相談方法等（オフィス・アワー）]
[特記事項]

成蹊教養カリキュラム

22/2/25 17 時 20 分

※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名		近現代のアジアB／<2>					
教員名		小武海 櫻子					
科目No.	120820320	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 後期
〔テーマ・概要〕							
〔到達目標〕							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）			準備学修の目安（分）
第1回							
第2回							
第3回							
第4回							
第5回							
第6回							
第7回							
第8回							
第9回							
第10回							
第11回							
第12回							
第13回							
第14回							
〔授業の方法〕							
〔成績評価の方法〕							
〔成績評価の基準〕							

[必要な予備知識／先修科目／関連科目]
[テキスト]
[参考書]
[質問・相談方法等（オフィス・アワー）]
[特記事項]

成蹊教養カリキュラム

22/2/25 17 時 20 分

※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名		近現代の欧米A／<1>											
教員名		佐伯 哲朗											
科目No.	120820410	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 前期						
〔テーマ・概要〕													
現代世界を理解する上で重要な近現代のヨーロッパとアメリカの歴史に関する基本的知識を身につけ、専門科目学習の基礎を作ることを目指す。前期の授業では、18世紀末のアメリカとフランスの革命から19世紀後半の帝国主義時代までのヨーロッパとアメリカの歴史をたどる。このなかで、現代世界の諸問題について歴史的背景を含めて理解することを目指す。													
〔到達目標〕													
欧米近代史についての基礎的な知識を習得する。ある出来事について、歴史的な展開と世界史的な関連の両面を知ることによって、歴史的なものの見方を養う。													
〔授業の計画と準備学修〕													
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）			準備学修の目安（分）						
第1回	授業の概要、歴史とは何か			配布プリントを読む。第1回については授業後の復習となる。			60						
第2回	イギリス領北米13植民地			野村達朗編『アメリカ合衆国の歴史』(ミネルヴァ書房)、3-34頁を熟読する。配布プリントを読む。			60						
第3回	アメリカ合衆国の独立			野村達朗編『アメリカ合衆国の歴史』(ミネルヴァ書房)、35-45頁を熟読する。配布プリントを読む。			60						
第4回	フランス史の基礎知識、1789年の革命			辻塚忠躬『フランス革命』(岩波書店)、40-86頁を熟読する。配布プリントを読む。			90						
第5回	フランス革命の歴史過程、山岳派の台頭と没落			辻塚忠躬『フランス革命』(岩波書店)、87-128頁を熟読する。配布プリントを読む。			90						
第6回	フランス革命の意義			辻塚忠躬『フランス革命』(岩波書店)、128-190頁を熟読する。配布プリントを読む。			90						
第7回	1848年革命、ドイツ統一			小山哲・上垣豊・山田史郎・杉本淑彦『大学で学ぶ西洋史 [近現代]』(ミネルヴァ書房)、112-120頁、145-147頁、谷川稔・北原敦・鈴木健夫・村岡健次『世界の歴史 22巻 近代ヨーロッパの情熱と苦悩』(中央公論新社)、76-160頁を熟読する。配布プリントを読む。			90						
第8回	ジェントルマンの支配体制			谷川稔・北原敦・鈴木健夫・村岡健次『世界の歴史 22巻 近代ヨーロッパの情熱と苦悩』(中央公論新社)、368-377頁、384-390頁を熟読する。配布プリントを読む。			60						
第9回	産業資本主義の発展			谷川稔・北原敦・鈴木健夫・村岡健次『世界の歴史 22巻 近代ヨーロッパの情熱と苦悩』(中央公論新社)、360-383頁、川北稔編『イギリス史』(山川出版社)、245-255頁を熟読する。配布プリントを読む。			60						
第10回	ドイツ第二帝政の政治支配			大内宏一『ビスマルク』(山川出版社)、1-58頁、木村靖二編『ドイツ史』(山川出版社)、204-232頁を熟読する。配布プリントを読む。			90						
第11回	ビスマルクの国内政策			大内宏一『ビスマルク』(山川出版社)、58-87頁、木村靖二編『ドイツ史』(山川出版社)、232-242頁を熟読する。配布プリントを読む。			60						
第12回	ヴィルヘルム時代の政策と軍国主義			木村靖二編『ドイツ史』(山川出版社)、243-278頁を熟読する。配布プリントを読む。			60						
第13回	フランス第三共和制の危機			谷川稔・渡辺和行編『近代フランスの歴史』(ミネルヴァ書房)、153-163頁を熟読する。配布プリントを読む。			90						
第14回	ヨーロッパ諸国の植民地支配			小山哲・上垣豊・山田史郎・杉本淑彦編『大学で学ぶ西洋史 [近現代]』(ミネルヴァ書房)、191-199頁、木畠洋一『二〇世紀の歴史』(岩波書店)、13-47頁を熟読する。配布プリントを読む。			90						
〔授業の方法〕													
授業の最初と最後に、若干の時間をとって質問や要望を受け付ける。授業後1週間以内に課題のレポートを送信してもらう。													
〔成績評価の方法〕													
学期末に筆記試験を行う。筆記試験にはノートなどの参照を許可しない。各回の授業終了後1週間以内に、課題のレポートを提出してもらう。その2つの内容によって成績を評価する。評価の割合としては、試験60%、平常点40%とする。													

<p>〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 次の点を踏まえて評価する。課題レポートの記述内容から、授業内容を理解したかどうかを判断する。課題レポートの字数としては、本文部分のみで、400字以上が望ましい。</p>
<p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 大航海時代以降の欧米の歴史について、高校世界史程度の基礎知識を備えていることを前提としている。</p>
<p>〔テキスト〕 使用しない。</p>
<p>〔参考書〕 有賀貞・大下尚一・志邨晃佑・平野孝編『アメリカ史』（1、2巻）山川出版社、1993～94年。村岡健次・木畑洋一編『イギリス史』（3巻）山川出版社、1991年。柴田三千雄・樺山紘一・福井憲彦編『フランス史』（2、3巻）山川出版社、1995～96年。成瀬治・山田欣吾・木村靖二編『ドイツ史』（2、3巻）山川出版社、1996～97年。</p>
<p>〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 授業終了後に教室で受け付ける。また、アクションペーパーに質問を書いた場合には、次回の授業で回答する。</p>
<p>〔特記事項〕</p>

成蹊教養カリキュラム

22/2/25 17 時 20 分

※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	近現代の欧米A／<2>						
教員名	中島 幹人						
科目No.	120820420	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 前期

〔テーマ・概要〕

経済的格差・宗教的対立などの問題を抱える現代世界を理解するうえで重要な近現代のヨーロッパとアメリカの歴史に関する基本的な素養を身につけ、専門科目学習の基礎をつくってもらうことをめざす。本講義ではとくに、17世紀以降の主権国家の成立から18世紀末のアメリカとフランスの革命、そして近代社会の基礎を形作ることとなったイギリス産業革命までの歴史をたどるなかで、現代世界の諸問題を歴史的に理解することを学ぶ。

〔到達目標〕

本講義では、DP2-1（教養の習得）を実現するために、以下の目標を設定する。

- ①現代市民社会を生み出した歴史的事件の推移の基本的な知識を獲得する
- ②その知識を元に自ら現代社会に問いかける姿勢を身につける。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第1回	ガイダンス：授業の目的・内容・進め方・評価方法についての説明、および導入	あらかじめ、シラバスの内容を確認し、「参考書」欄で示した書籍に目を通しておくこと	60分
第2回	近世ヨーロッパの成立(1)：諸国家間体系の成立	「参考書」欄で示した書籍において該当する箇所（章・節）を確認しておくこと	60分
第3回	近世ヨーロッパの成立(2)：「絶対主義」国家の内実	「参考書」欄で示した書籍において該当する箇所（章・節）を確認しておくこと	60分
第4回	アメリカの独立革命(1)：「新大陸」への入植	「参考書」欄で示した書籍において該当する箇所（章・節）を確認しておくこと	60分
第5回	アメリカの独立革命(2)：イギリス北米植民地の形成と発展	「参考書」欄で示した書籍において該当する箇所（章・節）を確認しておくこと	60分
第6回	アメリカの独立革命(3)：独立運動の展開①（イギリス第一帝國の再編と反対運動）	「参考書」欄で示した書籍において該当する箇所（章・節）を確認しておくこと	60分
第7回	アメリカの独立革命(4)：独立革命の展開②（共和国の樹立に向けて）	「参考書」欄で示した書籍において該当する箇所（章・節）を確認しておくこと	60分
第8回	フランス革命(1)：18世紀における旧体制の変質（経済的発展とブルジョワジーの伸展）	「参考書」欄で示した書籍において該当する箇所（章・節）を確認しておくこと	60分
第9回	フランス革命(2)：革命的状況の釀成（「世論」の興隆）	「参考書」欄で示した書籍において該当する箇所（章・節）を確認しておくこと	60分
第10回	フランス革命(3)：革命の展開①（名士会から1789年まで）	「参考書」欄で示した書籍において該当する箇所（章・節）を確認しておくこと	60分
第11回	フランス革命(4)：革命の展開②（1791年憲法体制から統領政府まで）	「参考書」欄で示した書籍において該当する箇所（章・節）を確認しておくこと	60分
第12回	フランス革命(5)：「文化革命」としてのフランス革命	「参考書」欄で示した書籍において該当する箇所（章・節）を確認しておくこと	60分
第13回	産業資本主義の発展(1)：イギリスにおける産業革命の基礎と展開	「参考書」欄で示した書籍において該当する箇所（章・節）を確認しておくこと	60分
第14回	産業資本主義の発展(2)：産業革命による社会の変化	「参考書」欄で示した書籍において該当する箇所（章・節）を確認しておくこと	60分

〔授業の方法〕

「授業の計画」において掲げた各テーマごとにレジュメを配布・参照して講義を進める。授業に関連する画像（絵画・写真）・データ（グラフ・表）などを提示しながら、授業のまとめを行い、理解の深化をはかる。その上で、授業最後に選択式のブチテストを行う。

〔成績評価の方法〕

成績評価については、期末試験を70%、平常点（授業への参加状況やブチテストの成績など）を30%とする（出席が三分の二に満たない場合は平常点の評価対象外とする）。

期末試験の評価基準に関しては、設問の意図を理解し授業で学んだことを論理的にを説明できるかという点を重視する。詳細はガイダンス時（第1回授業）にて提示する。

〔成績評価の基準〕

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
欧米研究・西洋政治史・国際関係論など

〔テキスト〕

特定のテキストは使用しない。授業テーマに即したレジュメを配布し、それを参照しながら授業を進める。

〔参考書〕

杉本淑彦・竹中幸史『教養のフランス近現代史』ミネルヴァ書房、2015年
小山哲・上垣豊他編著『大学で学ぶ西洋史（近現代）』ミネルヴァ書房、2011年
谷川稔・渡辺和行編著『近代フランスの歴史-国民国家形成の彼方に-』ミネルヴァ書房、2006年
若尾祐司・井上茂子編著『近代ドイツの歴史-18世紀から現代まで-』ミネルヴァ書房、2005年
村岡健次・川北稔編著『イギリス近代史-宗教改革から現代まで-（改訂版）』ミネルヴァ書房、2003年
大下尚一・服部春彦他編『西洋の歴史 近現代編（増補版）』ミネ

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

授業終了後に質問や相談を受け付ける。

〔特記事項〕

成蹊教養カリキュラム

22/2/25 17 時 20 分

※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名		近現代の欧米B／<1>											
教員名		佐伯 哲朗											
科目No.	120820510	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 後期						
〔テーマ・概要〕													
現代世界を理解する上で重要な近現代のヨーロッパとアメリカの歴史に関する基本的知識を身につけ、専門科目学習の基礎を作ることを目指す。後期の授業では、20世紀初頭の時期から20世紀中葉の第2次世界大戦の時代までの国際関係、ドイツを中心にして欧州諸国の歴史をたどる。この中で、現代世界の諸問題を歴史的背景を含めて理解できるようにする。													
〔到達目標〕													
欧米の近現代史についての基礎的な知識を習得する。 ある出来事について歴史的な展開と世界史的な関連の両面について知ることによって、歴史的なものの見方を養う。													
〔授業の計画と準備学修〕													
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）			準備学修の目安（分）						
第1回	第1次大戦の原因とバルカン問題			木村靖二『第一次世界大戦』（筑摩書房）、43-46頁、柴宜弘編『バルカン史』（山川出版社）、196-217頁、225-241を熟読する。配布プリントを読む。			90						
第2回	世界戦争への道、ドイツの国内事情			木村靖二『第一次世界大戦』（筑摩書房）、46-54頁、木村靖二・柴宜弘・長沼秀世『世界の歴史 26巻 世界大戦と現代文化の開幕』（中央公論社）、30-39頁を熟読する。配布プリントを読む。			60						
第3回	開戦時の国内体制			木村靖二『第一次世界大戦』（筑摩書房）、54-75頁、若尾祐司・井上茂子編『近代ドイツの歴史』（ミネルヴァ書房）、167-169頁を熟読する。配布プリントを読む。			60						
第4回	戦争への動員			若尾祐司・井上茂子編『近代ドイツの歴史』（ミネルヴァ書房）、170-175頁、木畑洋一『二〇世紀の歴史』（岩波書店）、67-89頁、および配布プリントを熟読する。			90						
第5回	大戦期ドイツの日常生活			木村靖二『第一次世界大戦』（筑摩書房）、86-89頁、若尾祐司・井上茂子編『近代ドイツの歴史』（ミネルヴァ書房）、175-177頁、藤原辰史『カブラの冬』（人文書院）を熟読する。			90						
第6回	戦争の終結			若尾祐司・井上茂子編『近代ドイツの歴史』（ミネルヴァ書房）、177-187、193-195頁、西崎文子『アメリカ外交とは何か』（岩波書店）、90-95頁を熟読する。配布プリントを読む。			60						
第7回	戦争の帰結			木村靖二『第一次世界大戦』（筑摩書房）、170-205頁、木村靖二『二つの世界大戦』（山川出版社）、28-41頁を熟読する。配布プリントを読む。			90						
第8回	ロシア革命			和田春樹編『ロシア史』（山川出版社）、278-310頁を熟読する。配布プリントを読む。			90						
第9回	ヴェルサイユ体制			木村靖二『第一次世界大戦』（筑摩書房）、205-217頁、牧野雅彦『ヴェルサイユ条約』（中央公論新社）、3-258頁、西崎文子『アメリカ外交とは何か』（岩波書店）、95-97頁を熟読する。配布プリントを読む。			90						
第10回	1920年代アメリカの明暗、世界恐慌			野村達郎編『アメリカ合衆国の歴史』（ミネルヴァ書房）、171-193頁、木村靖二・柴宜弘・長沼秀世『世界の歴史 26巻 世界大戦と現代文化の開幕』（中央公論社）、89-211、289-308頁を熟読する。配布プリントを読む。			90						
第11回	ナチズムの思想と運動			石田勇治『ヒトラーとナチ・ドイツ』（講談社）、20-112頁、山本秀行『ナチズムの時代』（山川出版社）、1-22頁を熟読する。配布プリントを読む。			90						
第12回	ナチズム、一党独裁体制の成立			石田勇治『ヒトラーとナチ・ドイツ』（講談社）、114-181頁を熟読する。配布プリントを読む。			60						
第13回	「民族共同体」の建設			山本秀行『ナチズムの時代』（山川出版社）、36-42頁、石田勇治『ヒトラーとナチ・ドイツ』（講談社）、254-309頁を熟読する。配布プリントを読む。			60						
第14回	第2次世界大戦			成瀬治ほか編『ドイツ史 3巻』（山川出版社）273-319頁を熟読する。配布プリントを読む。			60						
〔授業の方法〕													
レジュメは学習支援システムを通して掲示し、受講者が授業前に入手できるようにする。授業の最初と最後に若干の時間をとって質問や要望を受け付ける。授業終了後1週間以内に課題のレポートを送信してもらう。													
〔成績評価の方法〕													
試験期間中に実施する学期末試験と課題レポートの2つの項目によって評価する。学期末筆記試験の成績を60%、各回の授業終了後1週間以内に課題のレポートを提出してもらうが、その評価を40%とする。													
〔成績評価の基準〕													

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点を踏まえて評価する。この授業で得た情報を用いて、第1次大戦、ナチズムなどの重要な事柄の概略や意味を、この授業の受講者でない他の人（例えば友人や家族）に説明して理解してもらえるかどうか。

試験答案の記述内容が高校世界史教科書に書かれているレベルにとどまる場合には、合格点は

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

前期に「近現代の欧米A」を履修していることが望ましい。

〔テキスト〕

使用しない。

〔参考書〕

近現代の欧米A（前期の授業）の参考書の項目を参照のこと。そのほかには、木畠洋一『二〇世紀の歴史』岩波書店、2014年。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

授業終了後に教室で受け付ける。リアクション・ペーパーで提出された質問については、次の授業の最初に回答する。

〔特記事項〕

成蹊教養カリキュラム

22/2/25 17 時 20 分

※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名		近現代の欧米B／<2>											
教員名		中島 幹人											
科目No.	120820520	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 後期						
〔テーマ・概要〕													
経済的格差・宗教的対立などの問題を抱える現代世界を理解する上で重要な近現代のヨーロッパとアメリカの歴史に関する基本的素養を身につけ、専門科目学習の基礎をつくってもらうことをめざす。本講義ではとくに、フランス革命以降の19世紀ヨーロッパの歴史（前半のウィーン体制、後半における国民国家の形成）、独立戦争以降のアメリカの社会的変化、および19世紀末の帝国主義時代とそれに起因する世界大戦までのヨーロッパとアメリカの歴史をたどるなかで、現代世界の諸問題を歴史的に理解することを学ぶ。													
〔到達目標〕													
本講義では、DP2-1（教養の習得）を実現するために、①現代に直接連なる19世紀から20世紀の歴史を確認することで、現代社会における諸問題を考察するための知識を獲得し、②その知識から自ら現代社会を相対化しうる視点を身につけることを目標とする。													
〔授業の計画と準備学修〕													
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）			準備学修の目安（分）						
第1回	ガイダンス：授業の目的・内容・進め方、および成績評価についての説明			あらかじめ、シラバスで授業内容を確認し、「参考書」欄で示した書籍に目を通しておくこと			60分						
第2回	産業革命：産業革命の前提と社会的変化			「参考書」欄で示した書籍における該当箇所（章・節）を確認しておくこと			60分						
第3回	19世紀前半のヨーロッパ社会(1)：ウィーン体制の成立			「参考書」欄で示した書籍における該当箇所（章・節）を確認しておくこと			60分						
第4回	19世紀前半のヨーロッパ社会(2)：ウィーン体制の動搖と崩壊			「参考書」欄で示した書籍における該当箇所（章・節）を確認しておくこと			60分						
第5回	19世紀前半のアメリカ社会(1)：「市場革命」の時代			「参考書」欄で示した書籍における該当箇所（章・節）を確認しておくこと			60分						
第6回	19世紀前半のアメリカ社会(2)：南部奴隸制度と南北戦争			「参考書」欄で示した書籍における該当箇所（章・節）を確認しておくこと			60分						
第7回	19世紀後半のヨーロッパ社会(1)：国民国家の建設（①イタリア）			「参考書」欄で示した書籍における該当箇所（章・節）を確認しておくこと			60分						
第8回	19世紀後半のヨーロッパ社会(2)：国民国家の建設（②ドイツ）			「参考書」欄で示した書籍における該当箇所（章・節）を確認しておくこと			60分						
第9回	19世紀後半のヨーロッパ社会(3)：「国民」創造の努力			「参考書」欄で示した書籍における該当箇所（章・節）を確認しておくこと			60分						
第10回	19世紀後半のアメリカ社会(1)：北部工業社会の進展と南部再建・西部開拓			「参考書」欄で示した書籍における該当箇所（章・節）を確認しておくこと			60分						
第11回	19世紀後半のアメリカ社会(2)：「金ぴか時代」			「参考書」欄で示した書籍における該当箇所（章・節）を確認しておくこと			60分						
第12回	帝国主義と第一次世界大戦(1)：帝国主義（ヨーロッパの拡大と「他者」への視線）			「参考書」欄で示した書籍における該当箇所（章・節）を確認しておくこと			60分						
第13回	帝国主義と第一次世界大戦(2)：大戦の経過とその帰結			「参考書」欄で示した書籍における該当箇所（章・節）を確認しておくこと			60分						
第14回	授業の総括と期末試験（授業時間内におけるレポート作成）			授業において使用したレジュメを確認・復習しておくこと			60分						
〔授業の方法〕													
「授業の計画」において掲げた各テーマごとにレジュメを予め配布し、それらを参照しながら講義を進める。また、授業に関連する画像（絵画・写真）・データ（グラフ・表）などを提示しながら、授業のまとめを行い、理解の深化をはかる。そして、授業の最後に選択式のプリテストを行う。													
〔成績評価の方法〕													
成績評価については期末試験を70%、平常点（授業への参加状況やプリテストの成績など）を30%とする。ただし、出席が三分の二に満たない場合は平常点の評価対象外とする。													
〔成績評価の基準〕													

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
欧米研究・西洋政治史・国際関係論など

〔テキスト〕
特定のテキストは使用しない。授業においてテーマに沿ったレジュメを配布する。

〔参考書〕

以下に挙げるのは参考書であり、購入の必要はない。

杉本淑彦・竹中幸史『教養のフランス近現代史』ミネルヴァ書房、2015年
大下尚一・服部春彦他編『西洋の歴史 近現代編（増補版）』ミネルヴァ書房、1998年
小山哲・上垣豊他編著『大学で学ぶ西洋史（近現代）』ミネルヴァ書房、2011年
村岡健次・川北稔編著『イギリス近代史-宗教改革から現代まで-（改訂版）』ミネルヴァ書房、2003年
谷川稔・渡辺和行編著『近代フランスの歴史-国民国家形成の彼方に-』ミネルヴァ書房、2006年
若尾祐司・井上茂子編

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

授業終了後に質問や相談を受け付ける。提出された質問には、次回授業において回答する。

〔特記事項〕

科目名	中東地域史						
教員名	赤川 尚平						
科目No.	120820610	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 後期
〔テーマ・概要〕							
<p>【テーマ】 「中東とイスラームをめぐる歴史」</p> <p>【概要】 「中東」「イスラーム」に対し、紛争やテロリズムといった一面的なイメージが抱かれるようになって久しい。一方で、グローバル化によって日本とイスラームとの関わりもますます増えており、日本とムスリム難民たちの関係も無視しないものとなっている。同じ社会を共に生きる隣人として、イスラームを考える必要に迫られている。本講義では中東地域およびイスラームに関する歴史や認識の枠組みを整理するとともに、現代におけるイスラームをめぐる現在進行形の出来事の背景や原因を理解し、日本や個人がイスラームと関わっていく上での思考力を涵養することを目指す。その際、長い歴史のなかでイスラームと常に隣人関係にあった西洋との関係の歴史についても目を配ることで、イスラームと日本との関係を考える材料を提供する。</p>							
〔到達目標〕							
<p>DP2（教養の修得）を実現するため、以下のことを目標とします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校の学習から大学における学びへの架け橋となる思考の基礎を身に付ける。 ・大きな歴史の流れのなかに中東地域とイスラームを位置付け、その歴史的展開と意義について説明できるようになる。 ・中東域外における歴史的展開とのつながりについても学ぶことで、受講生が社会の多様性を理解し、物事を複眼的に捉える思考を身に付けることを目指す。 							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）			準備学修の目安（分）
第1回	ガイダンス ・シラバスの記載事項の確認 ・講義運営・成績評価について			【予習】 シラバスを読み、講義内容についてあらかじめ確認する。 【復習】 ガイダンス内容をしっかりと確認し、今後の講義に備える。			60分
第2回	中東、イスラーム、西洋 ・基本用語と概念の確認、整理			【予習】 授業対象となる時代の背景や基本事項を把握する。 【復習】 授業の内容を振り返り、わからなかった箇所などがあれば、配布資料や参考文献を読み、自分なりの整理を行う。			60分
第3回	【第一部 イスラームの誕生と展開】 イスラーム以前の中東地域			【予習】 授業対象となる時代の背景や基本事項を把握する。 【復習】 授業の内容を振り返り、わからなかった箇所などがあれば、配布資料や参考文献を読み、自分なりの整理を行う。			60分
第4回	預言者ムハンマドとイスラームの登場			【予習】 授業対象となる時代の背景や基本事項を把握する。 【復習】 授業の内容を振り返り、わからなかった箇所などがあれば、配布資料や参考文献を読み、自分なりの整理を行う。			60分
第5回	ユーラシア史のなかの中東			【予習】 授業対象となる時代の背景や基本事項を把握する。 【復習】 授業の内容を振り返り、わからなかった箇所などがあれば、配布資料や参考文献を読み、自分なりの整理を行う。			60分
第6回	【第二部 西洋世界と中東】 キリスト教世界と中東			【予習】 授業対象となる時代の背景や基本事項を把握する。 【復習】 授業の内容を振り返り、わからなかった箇所などがあれば、配布資料や参考文献を読み、自分なりの整理を行う。			60分
第7回	西洋近代と「イスラーム世界」			【予習】 授業対象となる時代の背景や基本事項を把握する。 【復習】 授業の内容を振り返り、わからなかった箇所などがあれば、配布資料や参考文献を読み、自分なりの整理を行う。			60分
第8回	中東への「西洋の衝撃」			【予習】 授業対象となる時代の背景や基本事項を把握する。 【復習】 授業の内容を振り返り、わからなかった箇所などがあれば、配布資料や参考文献を読み、自分なりの整理を行う。			60分
第9回	【第三部 近現代中東地域情勢の推移】 イスラーム主義とアラブ・ナショナリズム			【予習】 授業対象となる時代の背景や基本事項を把握する。 【復習】 授業の内容を振り返り、わからなかった箇所などがあれば、配布資料や参考文献を読み、自分なりの整理を行う。			60分
第10回	中東諸国体制の成立			【予習】 授業対象となる時代の背景や基本事項を把握する。 【復習】 授業の内容を振り返り、わからなかった箇所などがあれば、配布資料や参考文献を読み、自分なりの整理を行う。			60分
第11回	「イスラーム過激派」とは何か—9.11から「イスラーム国」まで			【予習】 授業対象となる時代の背景や基本事項を把握する。 【復習】 授業の内容を振り返り、わからなかった箇所などがあれば、配布資料や参考文献を読み、自分なりの整理を行う。			60分

第12回	【第四部 現代中東を取り巻く状況】 現代ヨーロッパにおいての中東	【予習】 授業対象となる時代の背景や基本事項を把握する。 【復習】 授業の内容を振り返り、わからなかつた箇所などがあれば、配布資料や参考文献を読み、自分なりの整理を行う。	60分
第13回	日本と中東	【予習】 授業対象となる時代の背景や基本事項を把握する。 【復習】 授業の内容を振り返り、わからなかつた箇所などがあれば、配布資料や参考文献を読み、自分なりの整理を行う。	60分
第14回	論述式の到達度確認試験 ・電子機器以外持ち込み可を想定	【予習】 これまでの講義内容を振り返り、試験に向けて理解の定着を確認する。 【復習】 試験の解答内容を省みる。	60分
〔授業の方法〕			
<p>全て PowerPoint 資料を用いた対面の講義形式で行う。必要に応じて映像資料なども使用する。</p> <p>シラバス執筆時点では講義内で受講者への質問を行っていくことを想定しているが、受講者の数に応じてより積極的な双方向性の講義（アクティブラーニング）を開拓することも視野に入れている。</p> <p>上記の運営方針はシラバス作成時点での想定に基づくものであり、情勢の変化や授業進行の都合によって変更となる可能性がある。</p>			
〔成績評価の方法〕			
<p>以下の基準に基づき成績評価を決定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平常点（授業への参加状況やコメントシートへの取り組み）が 40% ・学期末に実施する到達度確認試験が 60% <p>試験の詳細については講義内で説明する。</p>			
〔成績評価の基準〕			
成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.			
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕			
<p>特にないが、より豊かな学びの機会とするために、高校の歴史の授業の教科書や資料集を活用して基本的な情報を確認し、各自の興味・関心に応じて積極的に情報収集することを推奨する。</p>			
〔テキスト〕			
特になし。			
〔参考書〕			
講義資料の末尾に適宜参考文献を掲載する。			
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕			
<p>質問等については講義終了後に対応するとともに、メールでも隨時受け付ける。</p> <p>連絡先は第1回のガイダンスで公示する。</p>			
〔特記事項〕			

成蹊教養カリキュラム

22/2/25 17 時 20 分

※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名		現代の国際政治											
教員名		昇 亜美子.昇 亜美子											
科目No.	120820710	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 前期						
〔テーマ・概要〕													
<p>本講義は、現代の国際政治を理解するための視角と基本的知識を養うことを目的とする。 どうして戦争は起こるのだろうか。正しい戦争はあるのだろうか。国連があるのになぜ世界は平和にならないのだろうか。グローバリゼーションの深化は国際関係をどのように変容させたのだろうか。情報革命は世界に平和をもたらすのだろうか。国家は今後も国際関係の主役であり続けるのだろうか。こうした問題について、理論と歴史の両面から考えていく。</p>													
〔到達目標〕													
<p>現代の国際政治について、「何故そのような事象が起きるのか」を分析する社会科学的な視角を養うこと。また、国際関係理論と歴史を学ぶを通じて、今日の国際政治に関心を持ち、日々のニュースに敏感になり、国際社会とのかかわりの重要性を意識できるようになること。</p>													
〔授業の計画と準備学修〕													
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）			準備学修の目安（分）						
第1回	イントロダクション—国際政治とはなにか 近代国際政治のコンセプトや国内政治との違いなどを学ぶ。			国際政治に関するニュースに关心を持ち、授業での学習内容に照らして考える。			60						
第2回	国際政治理論（1）リアリズム			国際政治に関するニュースに关心を持ち、授業での学習内容に照らして考える。			60						
第3回	1 国際政治理論（2）リベラリズム、コンストラクティビズム			国際政治に関するニュースに关心を持ち、授業での学習内容に照らして考える。			60						
第4回	勢力均衡と第一次世界大戦 現代の国際政治の起点といえる第一次世界大戦について学ぶ。			国際政治に関するニュースに关心を持ち、授業での学習内容に照らして考える。			60						
第5回	集団安全保障の挫折と第二次世界大戦			国際政治に関するニュースに关心を持ち、授業での学習内容に照らして考える。			60						
第6回	冷戦（1）一冷戦開始からデタントまで			国際政治に関するニュースに关心を持ち、授業での学習内容に照らして考える。			60						
第7回	冷戦（2）一新冷戦から冷戦終結まで			国際政治に関するニュースに关心を持ち、授業での学習内容に照らして考える。			60						
第8回	ポスト冷戦とアメリカの覇権 冷戦終結後のアメリカ一極体制について学ぶ。			国際政治に関するニュースに关心を持ち、授業での学習内容に照らして考える。			60						
第9回	グローバリゼーションと相互依存 21世紀の情報革命によるグローバリゼーションの深化について学ぶ。グローバルなテロ組織や新型コロナウィルスのパンデミックといった負の側面についても考察する。			国際政治に関するニュースに关心を持ち、授業での学習内容に照らして考える。			60						
第10回	持続可能な開発目標（SDGs） 17の目標を概観しながら、貧困の撲滅に対するアプローチの変遷や国連、日本政府の取り組みについて学ぶ。環境問題にも言及する。			国際政治に関するニュースに关心を持ち、授業での学習内容に照らして考える。			60						
第11回	ジェンダーをめぐる問題 テロや紛争による不安定な国家情勢は、女性や女児に特に大きな影響を及ぼすことが多いといった問題について学ぶ。			国際政治に関するニュースに关心を持ち、授業での学習内容に照らして考える。			60						
第12回	米中対立と国際秩序 米国の孤立主義的傾向、中国の台頭により起きている米中間の覇権争いが、国際秩序に与える影響について学ぶ。中国人権問題に対する日本を含む先進国対応についても考える。			国際政治に関するニュースに关心を持ち、授業での学習内容に照らして考える。			60						
第13回	ポピュリズムの興隆 英国のEU離脱や米国のトランプ政権の成立に代表される、世界におけるポピュリズムの興隆が、国際政治の展開に与える影響について考察する。			国際政治に関するニュースに关心を持ち、授業での学習内容に照らして考える。			60						
第14回	授業の総括 これまでの授業を総括し、今後の国際政治の行方を展望する。			国際政治に関するニュースに关心を持ち、授業での学習内容に照らして考える。			60						
〔授業の方法〕													
<p>講義方式で行なう。リアクションレポートを実施することがある。</p>													
〔成績評価の方法〕													
<p>授業への参加状況および1000字程度の長文レポート2回（100%）</p>													

〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特になし
〔テキスト〕 特になし
〔参考書〕 ジョセフ・S・ナイ、ディヴィッド・A・ウェルチ著・田中明彦、村田晃嗣訳『国際紛争—理論と歴史（原書第10版）』（有斐閣、2017年）。 藤原帰一『国際政治』（放送大学教育振興会、2007年）。 村田晃嗣、君塚直隆ほか『国際政治学をつかむ』（有斐閣、2015年）。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 メールで受け付ける。
〔特記事項〕

成蹊教養カリキュラム

22/2/25 17 時 20 分

※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名		グローバル経済論											
教員名		永野 譲											
科目No.	120820810	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 後期						
〔テーマ・概要〕													
本講義は、世界のマクロ経済学を企業、家計、政府の経済活動の事例を踏まえながら議論、解説する。各国の国際収支統計およびマクロ経済統計を理解し、具体的な世界各国の経済動向を学ぶことで、経済学の理論と現実について理解することを講義の目標とする。世界銀行データベースから API (Application Programming Interface) 経由でデータを取得し、講義で説明した経済学理論を R で実装する。授業計画や準備学習等、変更の詳細は授業内の指示で確認すること。													
〔到達目標〕													
DP 1 (専門分野の知識・技能)、DP 2 (教養の修得)、DP 3 (課題の発見と解決) を実現するため、以下を到達目標とする。経済学部教育では、マクロ経済学・ミクロ経済学・国際経済学の学習と理解が必須とされる。本講座は、こうした経済学理論に加え、現実の企業社会の経営戦略、国際戦略を理解することで、経済学理論の妥当性、経済学理論が未だ研究として踏み込んでいない領域を理解することを目標とする。													
〔授業の計画と準備学修〕													
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）			準備学修の目安（分）						
第 1 回	第1回 ガイダンス／国民所得計算と国際収支 マクロ経済統計と国際収支統計について解説、議論する。			【予習】基礎的なミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で用いる教科書を用いて、講義の内容を再確認すること。			60						
第 2 回	第2回 国民所得計算と国際収支 マクロ経済統計と国際収支統計について解説、議論する。			【予習】基礎的なマクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で用いる教科書を用いて、講義の内容を再確認すること。			60						
第 3 回	第3回 為替レートと外国為替市場 外国為替レート決定理論について解説、議論する。			【予習】基礎的なマクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で用いる教科書を用いて、講義の内容を再確認すること。			60						
第 4 回	第4回 貨幣、金利、為替レート 外国為替レート決定理論について議論、解説する。			【予習】基礎的なマクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で用いる教科書を用いて、講義の内容を再確認すること。			60						
第 5 回	第5回 物価水準と長期的な為替レート 長期の外国為替レート決定理論について議論、解説する。			【予習】基礎的なマクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で用いる教科書を用いて、講義の内容を再確認すること。			60						
第 6 回	第6回 短期的な算出と為替レート 短期の外国為替レート決定理論について議論、解説する。			【予習】基礎的なミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で用いる教科書を用いて、講義の内容を再確認すること。			60						
第 7 回	第7回 固定為替レートと外国為替介入 固定相場制度と政府の為替介入について解説、議論する。			【予習】基礎的なミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で用いる教科書を用いて、講義の内容を再確認すること。			60						
第 8 回	第8回 中間まとめ1 第1～7回のまとめを行う。			【予習】基礎的なミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で用いる教科書を用いて、講義の内容を再確認すること。			60						
第 9 回	第9回 中間まとめ2 第1～7回のまとめを行う。			【予習】基礎的なマクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で用いる教科書を用いて、講義の内容を再確認すること。			60						
第 10 回	第10回 国際金融システム：歴史のおさらい 1870 年以降の国際金融システムについて解説する。			【予習】基礎的なマクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で用いる教科書を用いて、講義の内容を再確認すること。			60						
第 11 回	第11回 金融のグローバル化：機会と危機 日本ならびに海外の金融システムについて解説、議論する			【予習】基礎的なミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で用いる教科書を用いて、講義の内容を再確認すること。			60						
第 12 回	第12回 最適通貨圏とユーロ Brexit をはじめとする欧州経済について解説する。			【予習】基礎的なマクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で用いる教科書を用いて、講義の内容を再確認すること。			60						
第 13 回	第13回 発展途上国：成長、危機、改革 アジアを中心とする新興国経済について解説する。			【予習】基礎的なマクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で用いる教科書を用いて、講義の内容を再確認すること。			60						
第 14 回	第14回 総まとめ			【予習】履修した国際マクロ経済学の内容を確認しておくこと。			60						
〔授業の方法〕													
本講義では、前回の講義の理解度確認のため、毎回、最後の 15 分、クイズ（小テスト）を実施し、これを平常点とする。また講義は下記の教科書を毎回、1 章ずつ進める。QUIZ の回答を以って出席とし、対面教室では出席は採らない。QUIZ の回答期限は講義実施後、一週間。第1回オリエンテーションにおいて履修者の希望があれば、MS Stream による収録動画の配信も検討する。													
〔成績評価の方法〕													

<p>学期末試験および期末レポートは実施しない。 毎回 MS Forms を通じて実施される QUIZ への回答を以て出席とする。(PC は必携のこと。)</p> <p>◆成績評価方法 (A) 平常点 40% 1QUIZ 4 点×10 回 (B) レポート（3回程度） 60% 1 レポート（1 頁）20 点×3 回 R による各課題の実証分析（各 1 頁）を MS Teams を通じて提出すること。 R の使用方法は第 2～5 回講義にて詳しく説明する。</p>
<p>〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。 上記、到達目標の達成度に基づいて評価する。</p>
<p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 本講義に並行して入門レベルのマクロ経済学を学修すること。プログラミング言語 R を用いる課題レポートの提出を求めるため、Windows を OS とする PC の利用が可能であること。Mac を OS とする履修者の参加も可能であるが、コードのエラー等は自分で解決すること。</p>
<p>〔テキスト〕 丸善出版、P・クルーグマン、M・オブストフェルド、M・メリッツ『国際経済学（下）金融編』</p>
<p>〔参考書〕 特になし</p>
<p>〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。</p>
<p>〔特記事項〕 コンサルティング企業 17 年の勤務経験を持つ教員によるアクティブ・ラーニング授業。</p>

成蹊教養カリキュラム

22/2/25 17 時 20 分

※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	国際文化交流論						
教員名	菅野 幸子						
科目No.	120820910	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 後期
〔テーマ・概要〕							
本科目では、混迷、複雑化する国際情勢において、平和で豊かな世界の実現に向けて活動する日本及び諸外国の国際文化交流機関の活動事例や内外の国際文化交流活動の事例を通じて、21世紀における国際文化交流の在り方を探る。講義では、日本及び英国を代表する国際文化交流機関での実務経験に基づき、具体的かつ多様な国際文化交流活動の事例を提示しつつ、国際文化の歴史的展開、理念、意義と役割、将来の在り方考察する。また、本テーマに関連し拡張する文化的概念、文化外交、文化多様性についても考察する。							
〔到達目標〕							
DP2【教養の修得】、DP3【課題の発見と解決】、DP4【表現力、発信力】を実現するため、以下の4点を到達目標とする。							
1. 国際文化交流に関する基礎的な知識を得ることができる。 2. 国際文化交流に関する最新の動向や理論を習得することができる。 3. 文化的特質について基礎的な概念を習得することができる。 4. 国際人として行動する上で必要となる世界の文化多様性に関する基礎知識を得ることができる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）			準備学修の目安（分）		
第1回	ガイダンス、序論（国際文化交流の理念） 本講義の概要及び講義方法についてのガイダンスを実施。また、国際文化交流の序論として、その理念を考察する。	シラバスを通して読むこと、国際文化交流全般に関する各自の問題意識を整理しておく。特に、「国際交流」、「国際協力」、「文化交流」、「文化多様性」などの概念及びその関係性について考えておくこと。			60		
第2回	国際文化交流の歴史1（20世紀以前） シルクロードなど東西交易の時代から20世紀に至るまでの国際文化交流の歴史を概観するとともに、国際文化交流の発展の起点となった歴史的な出来事を考察する。	日本が海外との交流により、どのような文化的影響を受けてきたか、また、どのような影響を与えてきたかを考えておくこと。			60		
第3回	国際文化交流の歴史2（20世紀以降～現代） 20世紀初頭から現代にいたるまでの国際文化交流の歴史を概観するとともに、ジャポニズムや近代オリンピックなど近代から現代に至る国際文化交流の歴史的起点を考察する。	日本が海外との交流により、どのような文化的影響を受けてきたか、また、どのような影響を与えつつあるかを考えておくこと。			60		
第4回	ソフト・パワーとパブリック・ディプロマシー 現在の文化外交及び国際文化交流に関する政策の背景にある理論として、ソフト・パワー論及びパブリック・ディプロマシー論を考察する。	参考文献や資料、ネット、新聞等を用いて自習しておくこと。			60		
第5回	世界の国際文化交流機関の歴史と役割 世界各国の国際文化交流機関の発展の歴史を概観するとともに、国際文化交流機関の意義と役割について考察する。	各国の国際文化交流機関のウェブサイトを参照し、自習しておくこと。			60		
第6回	日本における国際文化交流の歴史 第2次世界大戦以降、現代に至るまで国家レベル、地方自治体レベル、民間団体（企業、財団、NPOなど）による日本における国際文化交流の歴史を概観する。	国際文化交流の担い手別による、目的・手法などの違いを考えておくこと。			60		
第7回	国際交流基金の創設の歴史的背景と意義 日本における国際文化交流の中核機関としての国際交流基金の創設と歴史、その意義について考察する。	国際交流基金のウェブサイトを参照し、活動内容等を把握しておくこと。			60		
第8回	国際交流基金の役割と活動事例 国際交流基金の活動の3つの柱である海外における日本語教育支援、文化芸術交流支援、日本研究支援及び知的交流支援に関する具体的な事例を通じて、日本における国際文化交流機関の意義と役割について考察する。	国際交流基金のウェブサイトを参照し、活動内容等を把握しておくこと。			60		
第9回	日本における多彩な国際文化交流活動の展開1（市民交流） 全国各地で取り組まれている多彩な国際文化交流活動の具体的な事例について、映像を活用して考察する。	全国各地で、市民主体の多様な国際交流が実践されているが、自分に身近な市民主体の国際文化交流の経験や事例を考えておくこと。			60		
第10回	日本における多彩な国際文化交流活動の展開2（国際フェスティバルなど） 国際文化交流活動の一環として、全国各地で多彩な国際芸術フェスティバルが開催されているが、その意義と効果について具体的な事例を通じて考察する。	全国各地で、多様な国際フェスティバルが開催されているが、自分に身近な国際フェスティバルの事例を調べておくこと。			60		
第11回	文化の定義とその概念の広がり（英国の事例から） 英国では、文化の概念が広がっており、地域再生、医療・福祉、ダイバーシティに関する社会的課題の解決に大きな役割を果たしていると考えられている。その動向と社会的背景を考察する。	文化の概念について整理しておくこと。			60		
第12回	文化多様性と多文化共生 グローバル化が進行している現代社会において、国内において、多様な文化背景を持った人々が一つのコミュニティでともに生活する多文化共生という概念、海外においては文化多様性という概念が重要となっている。その歴史的背景と概念について考察する。	参考文献、新聞やテレビ、ネットなどを通じて、関連するテーマについて情報を収集し、各自考えを整理しておくこと。			60		
第13回	国際文化交流における文化資本と社会资本 現在、経済的資本だけでなく、金銭以外の知識や教育、芸術などの文化資本、人的ネットワークを重視する社会资本といった概念が生まれてきていることから、国際文化交流の概念との関連を考察する。	参考文献、新聞やテレビ、ネットなどを通じて、関連するテーマについて情報を収集し、各自考えを整理しておくこと。			60		

第14回	国際文化交流の未来 第1回から第13回までの講義の中で提示した国内外における多彩な国際文化交流の事例を振り返るとともに、これからの国際文化交流の在り方について各自の意見を整理する。	これまでの講義を振り返り、これから国際文化交流の在り方と課題について各自の考えを整理しておくこと。	60
〔授業の方法〕			
1. 授業は講義形式で行うが、多様な事例紹介のため映像を使用する。状況に応じて、質疑応答あるいは討論を歓迎する。国際文化交流は実践的な意味合いが強いので、自由に考えを発表する意欲を歓迎する。 2. 授業毎に、質問、意見、コメントを書いたレスポンス・ペーパーの提出を奨励し、次回フィードバックを行う。 3. 授業の進捗状況により、内容を一部変更することもありうる。			
〔成績評価の方法〕			
期末レポート(50%)、平常点(授業への参加状況やレスポンス・ペーパーの提出状況)(45%)、授業中の質問、発表等、積極的関与があれば適宜加点(5%)する。			
〔成績評価の基準〕			
成蹊大学の成績評価基準(学則第39条)に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39. 次の点に着目し、その達成度により評価する。 1. 国際文化交流に関する基礎的な知識を習得している。 2. 国際文化交流に関する最新の動向や理論を習得している。 3. 文化の特質について基礎的な概念を習得している。 4. 国際人として行動する上で必要となる文化多様性に関する基礎知識			
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕			
世界史及び日本史の基礎的知識、世界の文化、国際情勢に関する広範で偏らない知識を要する。			
〔テキスト〕			
購入の必要はない。各講義の前に、各テーマに関するテキストを配布する。また、他に必要な文献資料等はその都度配布する。参考書籍に関しては、授業の進度にあわせてその都度紹介する。			
〔参考書〕			
1. 『文化と外交 - パブリック・ディプロマシーの時代』渡辺靖著、中央公論新社、ISBN978-4-12-102133-5 2. 『<文化>を捉え直す：カルチュラル・セキュリティの発想』渡辺靖著、岩波書店、ISBN 978-4-00-431573-5 3. 『国際文化交流を実践する』国際交流基金編、白水社、ISBN 978-4-560-09797-7			
〔質問・相談方法等(オフィス・アワー)〕			
原則、授業終了後に教室で受け付ける。また、随時、電子メールでも受け付ける。			
〔特記事項〕			

科目名		異文化理解トピックス（イスラーム世界）											
教員名		堀内 正樹											
科目No.	120821060	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 前期						
〔テーマ・概要〕													
イスラームは「宗教」であると理解されがちだが、すでに千数百年間、アフリカからユーラシアにわたって、多民族・多文化が共生する広大な社会空間の秩序維持ルールとして機能してきた。本授業では、「社会システム」としてのイスラームのあり方を理解してもらう。そのためにまずは西欧中心主義的な従来の世界史像を大胆に放棄し、本来の世界史の流れとその特徴を理解する。そのうえで、歴史の主潮流を形作ってきたイスラーム世界の特徴と西欧近代世界の特徴を対比的に捉える。その認識を足場にして、非境界的・脱国家的な本来の人間社会のあり方を、イスラームをモデルを探ってゆく。													
〔到達目標〕													
DP2（教養の修得）を実現するため、次の3点を到達目標とする。													
1. イスラームを過大評価も過小評価もしないバランスのとれた理解に到達する。 2. 欧米の報道等によって形作られるイスラームへの偏見を自覚できるようになる。 3. 非境界的なイスラーム世界のあり方を理解し、説明できる。													
〔授業の計画と準備学修〕													
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）			準備学修の目安（分）						
第1回	ガイダンス：授業の内容、進め方、予習・復習の仕方などを説明する。 導入：信仰としてのイスラームと国際法としてのイスラーム ・西欧発の「宗教」という概念の特殊性を認識し、それを相対化する。 ・イスラームの基本的世界観を把握する。			[予習]自分がもっているイスラームについての情報を整理しておく。			60						
第2回	イスラームの基礎知識(1) ・五柱六信について学修する。 ・イスラームの基本的な行事を理解する。			[予習・復習]キーワードについて説明できるようにする。			90						
第3回	イスラームの基礎知識(2) ・イスラーム法学派の区別と役割について学修する。			[予習・復習]キーワードについて説明できるようにする。			90						
第4回	イスラームの基礎知識(3) ・コーランとハディースの成り立ちと性格について理解する。			[予習・復習]キーワードについて説明できるようにする。			90						
第5回	中東のキリスト教とユダヤ教 ・イスラーム世界が多宗教からなっていることを学修する。			[予習・復習]キーワードについて説明できるようにする。			90						
第6回	歴史認識の組み替え ・西欧近代中心主義的な歴史観の偏りと限界を理解する。 ・「世界史」という概念の成立とその目的を学修する。 ・イスラーム世界の世界史上の位置を理解する。			[予習・復習]キーワードについて説明できるようにする。			90						
第7回	・総合討論（中間）			[予習・復習]初回からの授業を振り返り、疑問点等を整理しておく。			120						
第8回	非境界型市場システムとしてのイスラーム世界(1) ・「バザール型社会システム」の成立条件としくみを学修する。			[予習・復習]キーワードについて説明できるようにする。			90						
第9回	非境界型市場システムとしてのイスラーム世界(2) ・市場（=社会）秩序維持に果たすイスラーム法の機能を学修する。			[予習・復習]キーワードについて説明できるようにする。			90						
第10回	非境界型市場システムとしてのイスラーム世界(3) ・社会的ネットワークの要としてのサウジアラビアとモロッコの位置を理解する。			[予習・復習]キーワードについて説明できるようにする。			90						
第11回	西欧発の境界型社会システム ・19世紀に出現した西欧発の特殊な認識のしくみを学修する。 ・そのしくみが特殊な社会システムを作り上げたプロセスを理解する。			[予習・復習]キーワードについて説明できるようにする。			90						
第12回	非境界的コミュニケーション・システム ・イスラーム世界本来の非境界的なコミュニケーションのあり方を実例を通じて学修する。			[予習・復習]キーワードについて説明できるようにする。			90						
第13回	到達度確認テスト ・これまでの学修内容について、理解度を確認するためのテスト			[予習]到達度確認テストに備え、これまでの学修内容を確認する。			120						
第14回	到達度確認テストに関する質疑応答 現代の課題 ・20世紀後半以降にイスラーム世界に生じた政治体制のジレンマを学修する。 ・開発経済の挫折等によって生じた経済システムのジレンマを学修する。 ・イスラーム法と欧米法の矛盾・調整過程を学修する。			[予習・復習]この授業を振り返り、到達目標と自分の理解度とを点検し、疑問点などを整理しておく			120						
〔授業の方法〕													
本授業は講義科目である。必要なPDFファイルなどをCoursePowerの「授業資料」にアップするので、毎回事前にダウンロードして、目を通しておくこと。受講生数が多い場合、本授業は一方向的な講義になるかもしれない、掲示板などのフィードバック手段を活用して、積極的に質問・反論・感想・要望・コメントなどを寄せてほしい。受講生とのインテラクションを通じて、講義内容を柔軟に変更してゆくことも考えている。													

なお到達度確認テストでは、授業全体の学修内容についての理解度を確認する。

〔成績評価の方法〕

平常点で成績評価をおこなう。発言や質問・コメントなど授業への参加状況（50%）、到達度確認テスト（50%）などによる総合評価。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。

次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ・イスラームの基礎知識を明確に説明できる。
- ・「世界史」という考え方を理解し、説明できる。
- ・境界型社会システムと非境界型社会システムの違いを明確に把握し、説明できる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

特になし

〔テキスト〕

特になし

〔参考書〕

- (1) 三木亘『悪としての世界史』（文春学藝ライブラリー）2016年、文藝春秋。
- (2) 家島彦一『イスラム世界の成立と国際商業-国際商業ネットワークの変動を中心に』1991年、岩波書店。
- (3) ベネディクト・アンダーソン『想像の共同体-ナショナリズムの起源と流行』（白石隆・白石さや訳）1987年、リプロポート。
- (4) エドワード・W・サイード『オリエンタリズム』（今沢紀子訳）1986年、平凡社。
- (5) 水野信男・西尾哲夫・堀内正樹（編）『アラブの音文化—グローバル・コミュニケーションへのいざない』2

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

授業終了後に教室で受け付ける。

〔特記事項〕

成蹊教養カリキュラム

22/2/25 17 時 20 分

※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名		裁判と社会					
教員名		藤田 大智					
科目No.	120830110	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 後期
〔テーマ・概要〕							
日本の裁判制度や裁判外の紛争解決方法の特徴、役割の議論を通じて、裁判の社会における機能と課題に関する基礎知識を修得し、裁判をめぐる社会の課題を考察する力を養います。 裁判所制度、法律家の役割、裁判（民事・家事・行政・刑事・憲法裁判）の仕組みとそれとの特徴、また裁判員裁判を始めとする司法制度改革、裁判外紛争処理制度など、裁判をめぐる社会構造と課題について具体的な事例を用いて講義します。							
〔到達目標〕							
日本社会における裁判制度等の仕組み、運用方法や機能、そこに携わる法曹をはじめとするアカーナの役割について基礎的知識を構築する。 法秩序の維持・形成における裁判をはじめとする各制度の意義や機能を理解し、基礎知識を活かして、社会における裁判制度等の課題を考察する能力を養う。 裁判制度に関する基礎知識を修得し、広い視野で思考・判断を行うことができる(DP2)。 裁判制度に関する社会の課題を発見、分析し、これに対する解決方法をはじめとする考察内容を表現できる(DP4)							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）			準備学修の目安（分）		
第1回	ガイダンス（講義の進め方、受講方法、テキストの利用方法、予習・復習の仕方、評価方法についての説明） 裁判制度の概要	予習 シラバスを読み、講義の進め方をイメージする。 疑問点があればメモを作成するなどして整理し、講義中に確認・質問できるようにする。 講義中、シラバスを手元で確認できるようにしておいてください。			予習 60分		
第2回	裁判所制度（最高裁判所、高等裁判所、地方裁判所、家庭裁判所、簡易裁判所の機能・役割）	テキスト①第2章 (pp. 61-96)			予習 90分		
第3回	法律家の役割（法曹三者、準法律家、研究者、法曹養成）	テキスト①第3章 (pp. 97-152)			予習 100分		
第4回	民事裁判（1）民事訴訟手続きの概要（紛争発生、訴えの提起、民事保全）	テキスト①第4章の1「民事裁判」(pp. 154-166)			予習 60分		
第5回	民事裁判（2）民事訴訟手続きの概要（口頭弁論、証拠調べ、判決、上訴）	テキスト①第4章の1「民事裁判」(pp. 166-186)			予習 90分		
第6回	民事裁判（3）民事執行 小テストに向けた講義の復習	関連資料を別途配付します。			予習 90分		
第7回	第1回小テスト（第1-6回講義内容の定着確認） 刑事裁判（1）刑事訴訟手続きの概要（犯罪発生、捜査手続、公訴提起、検察審査会制度）	テキスト①第4章の4「刑事裁判」(pp. 211-238)			予習 60分+小テストに向けた復習		
第8回	刑事裁判（2）刑事訴訟手続きの概要（公判、判決、裁判員制度、刑の執行、再審）	テキスト①第4章の4「刑事裁判」(pp. 239-247) と第5章の2「国民の司法参加」(pp. 272-288) のうち特に裁判員制度の項目			予習 90分		
第9回	刑事裁判（3）少年事件、強制性交等罪や司法取引などの近年の刑事法改正と社会の課題	関連資料を別途配付します。			予習 90分		
第10回	憲法裁判（違憲審査制、違憲判決と社会への影響）	テキスト①第4章の5「憲法裁判」(pp. 248-260) +関連資料を別途配付します。			予習 90分		
第11回	第2回小テスト（第7-10回講義内容定着確認） 家事裁判と行政裁判	テキスト①第4章の2「家事裁判」と3「行政裁判」(pp. 186-210)			予習 60分+小テストに向けた復習		
第12回	裁判外紛争解決手続・救済制度（裁判所実施のADR、裁判所以外の機関実施のADR、法務省人権擁護局の取り組み）	関連資料を別途配付します。			予習 90分		
第13回	司法制度改革の概要	テキスト①第5章の4「司法制度の改革」(pp. 296-311)			予習 60分		
第14回	国際化・グローバル化社会における日本の裁判制度の課題	テキスト①第5章の3「国際化と裁判」(pp. 288-296) +関連資料を別途配付します。			予習 90分		
〔授業の方法〕							
(1) 講義では、関連資料を配付し、同資料も利用しながら講義を進めます。 予習：計画記載のテキスト指定箇所や配布する資料を通して新たな知識や疑問点を整理して講義に参加してください。 復習：講義において強調する箇所（テクニカルターム、概念、制度の意義など）について、復習してください。 講義では、特に小テスト、期末テストにおいて出題可能性の高い事項を強調して説明します。							
(2) 基礎知識の定着をはかるため、20-30分程度の小テストを2回実施します（第7回講義、第11回講義）。							
(3) 基礎・応用力をはかるため、期末テストを実施します。 小テストの実施は、講義の対面実施を前提としています。オンライン講義に変更した場合、代替措置を別途指示します。 いざれかの講義回で、弁護士等、法律実務家を招聘し、裁判制度の実態をお話いただく機会を設けることを計画しています。詳細については、講義中にアナウ							

ンスします。

〔成績評価の方法〕

平常点 20%

小テスト 30% (第1回小テスト 15%、第2回小テスト 15%)

期末テスト 50%

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠します。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

特にありません。

広く、法律科目に関連しますので、日本国憲法を含む国内法をはじめとした法律科目を履修していると、講義内容の理解がより高まると思います。

〔テキスト〕

テキスト①は、購入してください。

テキスト①：市川正人、酒巻匡、山本和彦『現代の裁判 第7版』(有斐閣、2017年)、1870円、ISBN 4641220956

法令の条文に言及して講義しますので、六法（ポケット六法、ディリーフ法、判例六法など）を持参するか、パソコンやタブレットをはじめとする端末により条文を確認できる状態で受講することをお勧めします（例えば、インターネット上の「e-Gov 法令検索」の利用が一例として挙げられます）。

〔参考書〕

特にありません。発展的学習に必要な文献について、講義中に紹介することがありますが、購入が必要なものはありません。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知します。授業終了後に教室で受け付けます。メールでも随時、質問などを受け付けます。

〔特記事項〕

成蹊教養カリキュラム

22/2/25 17 時 20 分

※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名		地域福祉論											
教員名		濵谷 智子											
科目No.	120830310	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 前期						
〔テーマ・概要〕													
地域福祉は、どこで、誰と、どのように暮らしていくとするのかに深く関わる領域である。今の日本の社会福祉は、経済構造や社会状況の変化に合わせてさまざまな改革が試みられているが、その中で、生活の基盤である地域は重視され、在宅福祉サービス、ボランティア活動の推進など、住民を主体にした福祉のあり方が模索されている。この授業では、地域福祉の理念とその歴史について学び、自分と関わりのある地域で、住民が連携してお互いを支え合う仕組みがどのように作られているのかを考える。													
〔到達目標〕													
DP2（教養の習得）、DP4（表現力、発信力）、DP5（多様な人々との協働）を実現するため、以下の2点を到達目標とする。 ①地域福祉が重視されるようになった経緯や地域福祉の考え方、その実践の仕組みを理解する。 ②自分と関わりのある地域で、具体的にどのような試みがなされているのかを知る。													
〔授業の計画と準備学修〕													
回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）			準備学修の目安（分）								
第1回	地域福祉とは？	プリントの復習			60								
第2回	地域福祉の歴史と理念①	プリントの復習			60								
第3回	地域福祉の歴史と理念②	プリントの復習			60								
第4回	地域の特性を知るということ	自分と関わりのある地域について調べる。			60								
第5回	社会福祉協議会の仕事	自分と関わりのある地域について調べる。			60								
第6回	地域福祉計画とは？	自分と関わりのある地域の福祉計画を見る。			60								
第7回	ボランタリズムとボランティア	授業の内容に即して自分の意見をまとめる。			60								
第8回	ヤングケアラーと若者ケアラー	授業の内容に即して自分の意見をまとめる			60								
第9回	地域福祉とソーシャルサポートネットワーク	授業の内容に即して自分の意見をまとめる			60								
第10回	地域における子どもの居場所	授業の内容に即して自分の意見をまとめる			60								
第11回	民生委員・児童委員・保護司の仕事	到達度確認テストに向け、情報を収集する。			60								
第12回	地域につながりを作る	到達度確認テストの論述構成を考える。			60								
第13回	到達度確認テスト	これまでの学習内容を復習し、到達度確認テストに備える。			120								
第14回	到達度確認テストの解説、子どもの貧困対策	到達度確認テストの結果を受けて、この授業を振り返り、さらなる理解に努める。			60								
〔授業の方法〕													
プリントを配布し、必要に応じてインターネットや映像等を使いながら、講義を行う。													
〔成績評価の方法〕													
到達度確認テスト（50%）と、平常点（授業中の課題など）（50%）で、総合的に評価する。													
〔成績評価の基準〕													

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
関連科目として、「社会福祉概論」「社会福祉事業史」「高齢者福祉論」がある。

〔テキスト〕
授業で配布するプリント

〔参考書〕
上野谷加代子・松端克文・永田 祐編, 2019, 『新版 よくわかる地域福祉』ミネルヴァ書房
購入の必要なし。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

科目名		人権とジェンダー					
教員名		本山 央子					
科目No.	120830410	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 後期
〔テーマ・概要〕							
<p>実学として「使える」ジェンダー論を身につけることを目指します。「ジェンダー」という語句を正しく理解し、日本の状況を知ることから出発し、社会に出て働く上で必要な実践的なコミュニケーション・スキルを身につけ、世界のジェンダー問題に関して関心を持ち、複眼的な視点で社会を見ることができるようになってください。</p> <p>授業はいわば「ライブ」なので、学生の要望に応じて臨機応変に進めます。シラバスは絶対ではありません（評価方法については厳密に運用します）。このテーマを取り上げてほしい、などの要望があれば知らせてください。</p> <p>原則として毎回、授業後にネットを通じてコメントを提出していただきます。コメントは平常点の重要な基準となります。学生にも努力と積極性が必要です。「座っていいればいい」授業ではありません。この点理解の上受講のこと。</p> <p>受講生の数に合わせて授業を最適化するため、授業スタイルを変更することができます。あらかじめご了承ください。</p>							
〔到達目標〕							
DP2 - 1 【教養の修得】（広い視野での思考・判断）およびDP4-1【表現力、発信力】の養成を目指し、以下の3つを到達目標とします。							
<ul style="list-style-type: none"> ・ ジェンダー学に関する基礎的な知識を修得し、広い視野で思考・判断を行うことができるようになる。 ・ 言葉にならないもやもやに名前があること、社会がジェンダーの視点を通して見ると違って見えることを実感し、新たな視座を踏まえて考えられるようになる。 ・ ジェンダーや人権を分析概念として使い、社会をよりよくするために自分に何ができるかを考え、判断し、行動できるようになる。 							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）			準備学修の目安（分）		
第1回	イントロダクション—人権についてと、ジェンダーに関するアンケート	レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験に備えること。 参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む習慣をつけることを推奨します。			60分から120分		
第2回	ジェンダーの定義1：歴史的展開	レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験に備えること。 参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む習慣をつけることを推奨します。			60分から120分		
第3回	ジェンダーの定義2：女性の分断	レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験に備えること。 参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む習慣をつけることを推奨します。			60分から120分		
第4回	性別二元論の再考：Intersexualityと社会的性別	レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験に備えること。 参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む習慣をつけることを推奨します。			60分から120分		
第5回	デートDVを考える1	レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験に備えること。 参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む習慣をつけることを推奨します。			60分から120分		
第6回	デートDVを考える2 ゲストをお迎えして	レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験に備えること。 参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む習慣をつけることを推奨します。			60分から120分		
第7回	ケアと感情労働	レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験に備えること。 参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む習慣をつけることを推奨します。			60分から120分		
第8回	「男らしさ」の陥穰	レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験に備えること。 参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む習慣をつけることを推奨します。			60分から120分		
第9回	同性愛を考える 当事者および支援者のゲスト講義	レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験に備えること。 参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む習慣をつけることを推奨します。			60分から120分		
第10回	日本の司法制度におけるジェンダー	レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験に備えること。 参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む習慣をつけることを推奨します。			60分から120分		
第11回	性暴力と性産業	レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験に備えること。 参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む習慣をつけることを推奨します。			60分から120分		
第12回	表象におけるジェンダー	レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験に備えること。 参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む習慣をつけることを推奨します。			60分から120分		
第13回	到達度確認テスト	レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験に備えること。 参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む習慣をつけることを推奨します。			60分から120分		

第14回	ジェンダー・オリエンタリズム 講評及び全体のまとめ	講評を聞き、半期授業を受けて得たものについて考えること。	60分から120分
〔授業の方法〕 講義形式で進める。			
〔成績評価の方法〕 講義後に毎回提出するコメントペーパーなどの提出物や授業への参加状況 40%、到達度確認テスト 60%			
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.			
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特にありません。可能であれば、ジェンダー関連の科目を並行して履修することが望ましいです。			
〔テキスト〕 特になし			
〔参考書〕 授業内で適宜指示します。自分の興味関心に応じて、提示された参考文献を積極的に読む姿勢を持ってください。			
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。			
〔特記事項〕			

成蹊教養カリキュラム

22/2/25 17 時 20 分

※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	こころの健康と臨床／<1>						
教員名	林 潤一郎						
科目No.	120830510	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 後期

[テーマ・概要]

近年、こころの健康問題は社会的大きな話題となっている。ストレスをかかえやすい現代社会においては、こころの健康とその問題についての正しい知識と対策を知っておくことは、今後の学生生活や社会生活における自分自身を支える上で、また周囲の人と接する際に、有用なものとなるであろう。

本講義では、臨床心理学や精神医学で扱われる代表的なこころの健康問題を取り上げ、多様な理解の枠組みとその予防策・対応策を紹介する。特に、臨床心理学において発展を遂げている認知行動理論および認知行動療法を中心に、心の健康問題（主に精神障害）の予防や軽減および心の健康維持増進に有益だと思われる様々な研究成果や臨床的な見解を紹介する予定である。

なお、授業の進捗および学生の関心や担当教員の判断によって、内容を一部変更する場合がある。

【オンライン授業になった場合の変更点】

内容には変更はないが、「授業の方法」と「成績評価の方法」を一部、変更する予定である。変更の詳細は各項目を参照のこと。

【到達目標】

DP2（教養の習得）、DP3（課題の発見と解決）、DP5（多様な人々との協働）を実現するために、以下を達成目標とする。

(1) (自他)のこころの健康問題に対する正しい知識を得ること（で、誤解や誤った偏見を減らすこと）。

(2) こころの健康問題で困ることを減らすために必要な予防的知識を学ぶこと。

(3) こころの健康問題で困った際に、その症状を和らげたり、その問題から抜け出るために役立つような対処のレパートリーを学ぶこと。

【授業の計画と準備学修】

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第1回	イントロダクション ・授業の内容、進め方、予習・復習の仕方等を説明する。 ・こころの健康問題の概観を知る。	【復習】授業で紹介した内容を理解する。また、主要トピックやキーワードを振り返り、説明できるようにする。	【復習】60
第2回	こころの健康とその問題を理解するための様々な枠組み（1） ・こころの健康一不調の連続性、定義、諸基準等を知る。 ・こころの問題を理解するための代表的枠組みを知る。	【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】10 【復習】50
第3回	こころの健康とその問題を理解するための様々な枠組み（2） ・こころの問題を理解するための代表的枠組みを知る（続き）。 ・認知行動療法の概要を知り、体験を通して学ぶ。	【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】10 【復習】50
第4回	こころの健康とその問題を理解するための様々な枠組み（3） ・認知行動療法の概要を知り、体験を通して学ぶ（続き）。	【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】10 【復習】50
第5回	気分障害（1） ・気分障害を理解する。 ・「日常的に経験する（抑うつ気分）」と「うつ病」の異同を知る。	【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】10 【復習】50
第6回	気分障害（2） ・気分障害で困った際に役立つ対処（改善）法および予防法を学ぶ。	【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】10 【復習】50
第7回	気分障害（3） ・気分障害で困った際に役立つ対処（改善）法および予防法を学ぶ（続き）。	【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】10 【復習】50
第8回	睡眠障害 ・睡眠の基本性質を知る。 ・睡眠障害を理解する。 ・睡眠障害で困った際に役立つ対処（改善）法および予防法を学ぶ。	【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】10 【復習】50
第9回	不安障害（1） ・パニック障害を理解する。 ・パニック障害で困った際に役立つ対処（改善）法および予防法を学ぶ。	【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】10 【復習】50
第10回	不安障害（2） ・社会不安障害（社交不安障害）を理解する。 ・社会不安障害（社交不安障害）で困った際に役立つ対処（改善）法および予防法を学ぶ。	【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】10 【復習】50
第11回	不安障害（3） ・強迫性障害を理解する。 ・強迫性障害で困った際に役立つ対処（改善）法および予防法を学ぶ。	【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】10 【復習】50
第12回	パーソナリティ障害 ・パーソナリティ障害を理解する。 ・パーソナリティ障害で困った際に役立つ対処（改善）法および予防法を学ぶ。	【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】10 【復習】50
第13回	摂食障害 ・摂食障害を理解する。 ・摂食障害で困った際に役立つ対処（改善）法および予防法を学ぶ。	【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】10 【復習】50

第14回	統合失調症 ・統合失調症を理解する。 ・統合失調症で困った際に役立つ対処（改善）法および予防法を学ぶ。	【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】10 【復習】50			
	【授業の方法】 授業は講義中心に進める。授業において毎回、レスポンスシートの提出を求める。期末テストを実施する。普段からプリントを使った復習に力を入れ、学んだ内容の整理に努めること。また、上で示された準備学修の時間はあくまで目安であって、各自の理解度に応じて取り組むこと。また、出欠確認のために学生証を利用するので、必ず持参して授業に臨むこと。 なお、レスポンスシート、期末テストの狙いは以下のとおりである。 ・レスポンスシート：各授業に参加して、学んだこと、感じたこと、思ったこと、疑問点を言語化し、各自の整理をすすめる（なお、必要に応じて、レスポンスシートの内容に対するフィードバックを次の回の講義で実施予定である）。レスポンスシートは必ず当日の授業内容を踏まえたものを提出すること。 ・期末テスト：授業全体の学修内容についての理解度を確認する。 【オンライン授業になった場合の変更点】 ・「期末テスト」が実施できなくなるため、「期末テスト」を「学期末の最終課題（期末レポート）」に変更予定である。 ・各回の授業終了時に、レスポンスシート提出に加えて、理解度確認用の確認ミニテストを実施し、評価対象に追加する予定である。 ・出欠の確認方法を変更する。各回の最後に実施予定の「レスポンスシートへの提出」と「確認ミニテストへの回答」をもって出席扱いとする。					
【成績評価の方法】 授業への参加状況やレスポンスシートの提出状況などの平常点（40%）、期末テスト（60%）、により総合的に評価する。 【オンライン授業になった場合の変更点】 ・授業への参加状況（各回の確認ミニテストの成績とレスポンスシートの提出状況など）、および学期末課題（CoursePowerで提出する期末レポート）の提出状況を踏まえ、総合的に平常点として成績評価する。						
【成績評価の基準】 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。 次の点に着目し、その到達度により評価する。 (1) (自他の) こころの健康問題に対する正しい知識を得ること（で、誤解や誤った偏見を減らすこと）。 (2) こころの健康問題で困ることを減らすために必要な予防的知識を学ぶこと。 (3) こころの健康問題で困った際に、その症状を和らげたり、その問題から抜け出るために役立つような対処のレパートリーを学ぶこと。 【必要な予備知識／先修科目／関連科目】 関連科目：心理学の基礎／自己理解の心理学／脳科学と心						
【テキスト】 特になし。なお、各回のレジュメはCourse Powerにアップロードされるので、各自でダウンロードをした上で、それを持参して授業に臨むこと。						
【参考書】 特になし。ただし、必要に応じて、授業の中で紹介する。						
【質問・相談方法等（オフィス・アワー）】 ポータルサイトで周知する。						
【特記事項】						

成蹊教養カリキュラム

22/2/25 17 時 20 分

※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	こころの健康と臨床／<2>						
教員名	北原 祐理						
科目No.	120830610	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 前期

[テーマ・概要]

昨今、こころの健康問題は多様化し、その対応や予防が社会的課題となっている。こころの健康問題（精神疾患を含む）に関する基礎的な知識と対応を知ることは、今後の学生生活や社会生活において、自分自身を支え、周囲の人と関わるうえで有用なものとなろう。本講義では、臨床心理学や精神医学が扱うこころの健康問題を取り上げ、その状態や背景について生物-心理-社会的な側面から理解できるようになることをめざす。また、担当教員の教育領域・医学領域での実務経験を踏まえ、認知行動療法を中心とした問題へのアプローチや、生活のマネジメントに活きる知見を織り交ぜて講義する。本講義の終わりには、自らの、そして、他者のこころの状態に关心をもち、行動する姿勢を身につけることが期待される。

*授業の進捗及び学生の関心や担当教員の判断によって、内容を一部変更する場合がある。

[到達目標]

DP2（教養の修得）、DP3（課題の発見と解決）、DP5（多様な人々との協働）を実現するため、以下を到達目標とする。

- (1) こころの健康問題に関する正しい知識を得ること（で、誤解や偏見を減らすこと）
- (2) こころの健康問題を取り上げながら、その状態や対処のレパートリーを説明できること
- (3) 自分や他者の「こころの健康」のあり方と、それに向けて実行できる行動について考えること

[授業の計画と準備学修]

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第1回	オリエンテーション - 本コースの趣旨を理解する。 - 現代の代表的なこころの健康問題を概観する。	【予習】シラバスに目を通しておく。 【復習】授業の全体像や進め方、評価基準等について理解する。	【復習】60
第2回	こころの問題を理解するための基本的枠組み（1） - こころの健康一不調の連続性、定義、諸基準等を知る。 - こころの問題を理解するための代表的枠組みを学ぶ。	【予習】参考資料・スライド等があれば、目を通しておく。 【復習】主要トピックを振り返り、理解を深める・説明できるようにする。	【予習】10 【復習】50
第3回	こころの問題を理解するための基本的枠組み（2） - こころの問題を理解するための代表的枠組みを学ぶ（続き）。	【予習】参考資料・スライド等があれば、目を通しておく。 【復習】主要トピックを振り返り、理解を深める・説明できるようにする。	【予習】10 【復習】50
第4回	こころの問題を理解するための基本的枠組み（3） - 認知行動療法の考え方と方法論を体験を通して学ぶ。	【予習】参考資料・スライド等があれば、目を通しておく。 【復習】主要トピックを振り返り、理解を深める・説明できるようにする。	【予習】10 【復習】50
第5回	抑うつ障害の理解と対処 - うつ病の特徴を理解する。 - 抑うつ状態とうつ病の違いを知り、予防法・対処法を学ぶ。	【予習】参考資料・スライド等があれば、目を通しておく。 【復習】主要トピックを振り返り、理解を深める・説明できるようにする。	【予習】10 【復習】50
第6回	双極性障害の理解と対処 - 躍動状態の特徴を理解する。 - 双極性障害への対応を学ぶ。	【予習】参考資料・スライド等があれば、目を通しておく。 【復習】主要トピックを振り返り、理解を深める・説明できるようにする。	【予習】10 【復習】50
第7回	不安障害の理解と対処（1） - 社交不安症の特徴を理解する。 - 不安に対するアプローチを学ぶ。	【予習】参考資料・スライド等があれば、目を通しておく。 【復習】主要トピックを振り返り、理解を深める・説明できるようにする。	【予習】10 【復習】50
第8回	不安障害の理解と対処（2） - パニック症の特徴を理解する。 - 不安に対するアプローチを実践する。	【予習】参考資料・スライド等があれば、目を通しておく。 【復習】主要トピックを振り返り、理解を深める・説明できるようにする。	【予習】10 【復習】50
第9回	強迫性障害の理解と対処 - 強迫性障害の特徴を理解する。 - 強迫症状に対するアプローチの実践例を知る。	【予習】参考資料・スライド等があれば、目を通しておく。 【復習】主要トピックを振り返り、理解を深める・説明できるようにする。	【予習】10 【復習】50
第10回	心的外傷後ストレス障害（PTSD）の理解と対処 - PTSDの特徴を理解する。 - 日本における災害後 PTSD の例を知る。	【予習】参考資料・スライド等があれば、目を通しておく。 【復習】主要トピックを振り返り、理解を深める・説明できるようにする。	【予習】10 【復習】50
第11回	ストレスと心身症 - 心身が関連し合って生じる問題について理解する。 - 食行動や睡眠とこころの健康問題の関連を知る。	【予習】参考資料・スライド等があれば、目を通しておく。 【復習】主要トピックを振り返り、理解を深める・説明できるようにする。	【予習】10 【復習】50
第12回	ストレスマネジメント - 「ストレス」の特徴を理解する。 - ストレスマネジメントのための具体的な方法を学ぶ。	【予習】参考資料・スライド等があれば、目を通しておく。 【復習】主要トピックを振り返り、理解を深める・説明できるようにする。	【予習】10 【復習】50
第13回	発達に関する障害の理解と対処 - 発達障害の概念と種類を知る。 - 「障害とは何か」について考える。	【予習】参考資料・スライド等があれば、目を通しておく。 【復習】主要トピックを振り返り、理解を深める・説明できるようにする。	【予習】10 【復習】50
第14回	こころの健康とライフサイクル - 各発達段階における課題と見られやすいこころの健康問題を知る。 - 本コースのまとめ：自分と他者のこころの健康について考える。	【予習】授業内容全体を復習し、質問があれば、用意しておく。 【復習】本コースで学んだことを振り返り、こころの健康についての考えを深める。	【予習】30 【復習】30

[授業の方法]

授業は小規模な個人ワーク・グループディスカッションを含む講義を中心に進める。受講者は毎回の授業後にコメントシートを提出し、これが平常点に含まれる。必要に応じて、各講義の冒頭でコメントシートへのフィードバックを行う予定である。加えて、期末レポートの提出を求める。復習に力を入れ、学んだ内容の整理に努めること。

各課題の目的は以下の通りである：

- コメントシート：各授業を通して、感じたこと、考えたこと、疑問などを言語化・整理する。
- 期末レポート：本コースから関心を持ったテーマを取り上げ、客観的な理解と自分の意見を伝達する。

<p>〔成績評価の方法〕</p> <ul style="list-style-type: none">● 参加状況・コメントシートの提出等による平常点（60%） ※ 平常点の範囲内で小テストを課す予定である。● 期末レポート（40%） ※ 授業形態の変更（オンライン授業への変更）が生じた場合、評価方法も応じて変更する場合がある。
<p>〔成績評価の基準〕</p> <p>成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39. 次の点に着目し、到達度によって評価する。</p> <p>(1) こころの健康問題に関する正しい知識を得て、伝達できること (2) こころの健康問題とその予防法や対応方法を関連づけて説明できること (3) 自分や他者のこころの健康を保つための姿勢や行動を考えること</p>
<p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕</p> <p>関連科目：心理学の基礎／自己理解の心理学／脳科学と心</p>
<p>〔テキスト〕</p> <p>※ 講義のスライドや資料の配布は Course Power を通して行う。 ※ 購入の必要なし ・『臨床心理学（New Liberal Arts Selection）』（丹野義彦他, 2015）有斐閣</p>
<p>〔参考書〕</p> <p>・『大学生のストレスマネジメント－自助の力と援助の力』（齋藤憲司他, 2020）有斐閣 その他、講義の中で適宜紹介する。</p>
<p>〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕</p> <p>授業終了後に教室で受け付けます。 ※ 2022年度前期がオンライン授業となった場合、質問・相談方法は Seikei Portal の掲示板上で、ならびに初回時に周知します。</p>
<p>〔特記事項〕</p> <p></p>

成蹊教養カリキュラム

22/2/25 17 時 20 分

※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名		高齢者福祉論											
教員名		姫野 宏輔											
科目No.	120830710	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 前期						
〔テーマ・概要〕													
<p>本科目は、現代社会における「老い」と「福祉」について、どのような社会のあり方を目指すことが望ましいのか、高齢化の進んだ地域の実例から考えていく授業です。先んじて結論を述べてしまうと、「どんな地域もこうすればみんな幸せになる」といった魔法の万能薬のような社会デザインは存在しません。ひとが老いていくとき、そのひとが暮らす場所では何が問題となるのか、周囲のひととはどのような対策をとろうとしているのか、それはなぜなのか、政府はどのような対策をとろうとしているのか、といったことを地道に調べて、できるだけ多くのひとが幸せを感じることができるよう試行錯誤を繰り返す他はありません。</p> <p>そのためこの授業では、「教えられたことを覚える」ことよりも、学生の皆さん「自分で考えてみる」ことを重視します。授業はガイダンスを除いて2回を1セットにして、(前半)重要なキーワードを学ぶ→(後半)実際にその問題が発生している実例をもとにどうすれば良いか考えてみる、という形式を繰り返します。後半の実例を見る授業回では映像作品も使用します。</p> <p>今後さらに高齢化率が上昇していく社会を生きる皆さん、「老い」のもたらす社会問題に直面したときに参考になるよう、たくさんの事例を見ていきますので、望ましい社会福祉のあり方について、一緒に考えていきましょう。</p>													
〔到達目標〕													
<p>DP2(教養の習得)、DP4(表現力、発信力)、DP5(多様な人々との協働)を実現するため、次の2点を到達目標とする。</p> <p>(1) 老いがもたらす社会問題について、基本的な知識や類型を身に着けて理解することができる。</p> <p>(2) 自分の身の回りで起こっている老いと社会問題について、その問題点を発見し、解決に向けての行動案を自分で考えることができる。</p>													
〔授業の計画と準備学修〕													
回数	授業の計画・内容			準備学修(予習・復習等)			準備学修の目安(分)						
第1回	イントロダクション——「老い」とは何か			復習・授業中の配布資料を読み返し理解を深める。			30						
第2回	老いとディスアビリティ(1)			復習・授業中の配布資料を読み返し、ディスアビリティ概念について理解を深める。			60						
第3回	老いとディスアビリティ(2)			自分がディスアビリティにまつわる社会問題に直面したらどうするか、自分なりに考えてみる。			60						
第4回	老いと家族・血縁(1)			復習・授業中の配布資料を読み返し、家族・親族によって支えられてきた高齢者福祉の歴史について理解を深める。			60						
第5回	老いと家族・血縁(2)			自分の家族・親族が老いのもたらす社会問題に直面したらどうするか、自分なりに考えてみる。			60						
第6回	老いと人間関係(1)			復習・授業中の配布資料を読み返し、老いと社会的孤立の相関関係について理解を深める。			60						
第7回	老いと人間関係(2)			自分ならば、老いた後にどのような人間関係を結ぶことが望ましいと思うか、自分なりに考えてみる。			60						
第8回	老いと経済・年金(1)			復習・授業中の配布資料を読み返し、老いと経済活動の関係性について理解を深める。			60						
第9回	老いと経済・年金(2)			老いて経済活動に携わることが難しくなった人々に対して、自分ならばどのような社会政策が望ましいと思うか、自分なりに考えてみる。			60						
第10回	老いと世代間格差(1)			復習・授業中の配布資料を読み返し、少子化と労働力人口の減少について理解を深める。			60						
第11回	老いと世代間格差(2)			若年世代と高齢世代が対立しているという言説について、自分なりに社会の将来像を考えてみる。			60						
第12回	老いと自己決定(1)			復習・授業中の配布資料を読み返し、成年後見制度を例に自己決定の問題の要点を理解する。			60						
第13回	老いと自己決定(2)			「自己決定」を支援する福祉制度のありかたについて、自分なりに考えてみる。			60						
第14回	授業の総括			少子高齢化が進展する社会において、望ましい社会デザインを自分なりに考えてみる。			30						
〔授業の方法〕													
<p>授業は講義形式で行います。ガイダンスを除いて授業は2回を1セットにして、(前半)重要なキーワードを学ぶ→(後半)実際にその問題が発生している実例をもとにどうすれば良いか考えてみる、という形式を繰り返します。1セット終了ごとに「自分ならこの社会問題に対してどう取り組むか」を考えたコメントカードを提出してもらいます。絶対的に「正しい」解決策はありません。自由な発想で、自分の言葉を使って、自分ならどうするかを考えられているかどうかを確認します。</p>													

〔成績評価の方法〕 2回の授業ごとに課される毎回のコメント（CoursePower から提出）を平常点として 50%、第 14 回授業時に課す課題レポート（これも CoursePower から提出）を到達度の確認として 50% の配分で総合的に評価する。
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39. 若いがもたらす社会問題について、自分自身の言葉で問題の要点を説明し、対策を考えることができているかを評価の基準とし、その達成度によって評価する。
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特になし。
〔テキスト〕 特になし。 毎回の授業の中で参考資料を配布します。
〔参考書〕 特になし。 毎回の授業の中で参考資料を配布します。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 対面授業の場合は、授業終了後に教室で受け付けます。オンライン授業を実施する場合は、ポータルサイトおよび CoursePower を通じて講師の連絡先を周知します。
〔特記事項〕

科目名		福祉社会に生きる												
教員名		姫野 宏輔												
科目No.	120830810	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 後期							
〔テーマ・概要〕														
<p>本科目は、現代社会におけるさまざまな社会福祉政策について、武川正吾『福祉社会——包摂の社会政策』(有斐閣)をテキストに用いて学んでいきます。少子高齢化の進展は、社会のメンバーの中に、ケアや支援を必要とする人の増加をもたらしますが、社会福祉政策の対象は高齢者に限りません。どのような人たちに支援が必要なのか、なぜ必要なのか、「そもそも」論に立ち戻って考えることをこの授業では重視します。そこで各回の授業計画に掲載しているような「問い合わせ」を設定し、これらの問い合わせに対して、社会学（特に福祉社会学）的な観点から考える視点・思考方法を紹介します。受講者には福祉社会を「自分とは縁遠いもの」として考えるのではなく、網の目のように設計された現在の福祉社会の中に自分を位置づけ、今後どのような社会像を描けばよいか、自分自身で考えてもらうことを重視します。</p>														
〔到達目標〕														
<p>DP2（教養の習得）、DP4（表現力、発信力）、DP5（多様な人々との協働）を実現するため、次の2点を到達目標とする。</p> <p>(1) 現代の福祉社会の設計とその思想的な背景について、基本的な知識を身に着けて理解することができる。</p> <p>(2) 現代の福祉社会の抱える問題について理解し、自分の言葉でそれを説明し、将来の方向性について考えることができる。</p>														
〔授業の計画と準備学修〕														
回数	授業の計画・内容		準備学修（予習・復習等）			準備学修の目安（分）								
第1回	イントロダクション——「福祉」とは何か		授業中の配布資料を読み返し理解を深める。			30								
第2回	排除と包摂（1）——社会の中のマイノリティは誰か		授業中の配布資料を読み返し、排除と包摂の概念について理解を深める。			60								
第3回	排除と包摂（2）——ディスアビリティを作り出しているのは何か		授業中の配布資料を読み返し、ディスアビリティの概念について理解を深める。			60								
第4回	「必要」と「需要」——支援を必要とする人は誰か		授業中の配布資料を読み返し、福祉制度における必要と需要を把握することについて理解を深める。			60								
第5回	資源の再分配——どうやって「公平な社会」を作るのか		授業中の配布資料を読み返し、福祉社会における資源の再分配と公共哲学の理論について理解を深める。			60								
第6回	専門主義と官僚制——福祉は専門家に任せるべきなのか		授業中の配布資料を読み返し、福祉制度の設計とその思想的な背景について理解を深める。			60								
第7回	到達度の確認 ・第2回～第5回の授業の内容にもとづいて中間レポートを作成する。		第2回～第5回の授業を復習しておき、自分の言葉で要点を説明できるようにする。			60								
第8回	福祉国家の分類——どのような福祉社会がありうるか		授業中の配布資料を読み返し、福祉国家の類型とその代表的な例について理解を深める。			60								
第9回	福祉国家の国家間比較（1）——アメリカの福祉社会のデザインとは		授業中の配布資料を読み返し、アメリカ合衆国のウェルフェア・キャピタルズムについて理解を深める。			60								
第10回	福祉国家の国家間比較（2）——ドイツの福祉社会のデザインとは		授業中の配布資料を読み返し、ドイツの社会保険政策と相互扶助について理解を深める。			60								
第11回	福祉国家の国家間比較（3）——スウェーデンの福祉社会のデザインとは		授業中の配布資料を読み返し、スウェーデンの社会政策と現代の問題点について理解を深める。			60								
第12回	多様化する福祉の担い手（1）——グローバル化は社会をどう変えるか		授業中の配布資料を読み返し、グローバル化が社会にもたらす変化について理解を深める。			60								
第13回	多様化する福祉の担い手（2）——ジェンダー主流化は社会をどう変えるか		授業中の配布資料を読み返し、ジェンダー主流化が社会にもたらす変化について理解を深める。			60								
第14回	授業の総括 ・授業の内容にもとづいて最終課題レポートを作成する。		これまでの授業を復習しておき、自分の言葉で要点を説明できるようにする。			60								
〔授業の方法〕														
<p>本授業は講義形式で実施します。ガイダンスを除く講義回（第2回～第6回、第8回～第13回）では毎回の授業終了時に、CoursePowerを用いてその授業に関するコメントを提出してもらいます。また、第7回・第14回では、それまでの授業の内容についての理解度を確認する中間レポート・課題レポートをこれもCoursePowerから提出してもらいます。授業内容を丸暗記するのではなく、授業中に扱ったテーマを自分の身近な例に引き寄せて、自分なりに要点を説明できているかという点を重視します。</p>														
〔成績評価の方法〕														
<p>毎回の授業時に課されるコメント提出を平常点として50%、授業第7回の中間レポートと授業第14回の課題レポートの評価の合計を課題得点50%の配分で、総合的に評価する。これらの課題はすべてCoursePowerから提出する。</p>														

<p>〔成績評価の基準〕</p> <p>成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 福祉社会の設計とその思想的な背景について、自分自身の言葉で要点を説明することができているかを評価の基準とし、その達成度によって評価する。</p>
<p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕</p> <p>特になし。</p>
<p>〔テキスト〕</p> <p>『福祉社会——包摂の社会政策（新版）』武川正吾、2011、有斐閣アルマ（ISBN・10: 464112406X）※購入の必要なし</p>
<p>〔参考書〕</p> <p>特になし。 毎回の授業の中で参考資料を配布します。</p>
<p>〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕</p> <p>対面授業の場合には、授業終了後に教室で受け付けます。オンライン授業の場合は、ポータルサイト・CoursePowerを通じて講師の連絡先を周知します。</p>
<p>〔特記事項〕</p> <p></p>

科目名		共生社会トピックス（日本女性史）												
教員名		矢越 葉子												
科目No.	120831110	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 後期							
〔テーマ・概要〕														
【テーマ】様々な史料から読み解く女性のあり方 【概要】歴史学を学ぶためには様々な形態の史料を扱う必要がありますが、読み解く方法もそれぞれです。本科目では日本の古代を中心とした前近代の史料とその扱い方を通じて、女性のあり方を考えていきます。														
〔到達目標〕 次の2点を到達目標とします。 ①日本史を学ぶ上で不可欠な史料に関する基礎的な知識を得て、その性格や扱い方を正しく理解できる。 ②各時代の女性のあり方は、社会の構造に根ざしたものであることを理解できる。														
〔授業の計画と準備学修〕														
回数	授業の計画・内容		準備学修（予習・復習等）			準備学修の目安（分）								
第1回	ガイダンス—歴史学と史料		【予習】シラバスを熟読する。 【復習】高校日本史教科書を用いて、奈良・平安時代の部分を復習する。			60								
第2回	編纂史料にみる古代の女性 1. 六国史		【予習】事前に配布されたプリントを予習する。 【復習】参考文献などを用いて復習する。			60								
第3回	編纂史料にみる古代の女性 2. 律令		【予習】事前に配布されたプリントを予習する。 【復習】参考文献などを用いて復習する。			60								
第4回	文学作品にみる古代の女性 1. 万葉集		【予習】事前に配布されたプリントを予習する。 【復習】参考文献などを用いて復習する。			60								
第5回	一次史料にみる古代の女性 1. 戸籍		【予習】事前に配布されたプリントを予習する。 【復習】参考文献などを用いて復習する。			60								
第6回	一次史料にみる古代の女性 2. 木簡・墨書き器		【予習】事前に配布されたプリントを予習する。 【復習】参考文献などを用いて復習する。			60								
第7回	一次史料にみる古代の女性 3. 経典		【予習】事前に配布されたプリントを予習する。 【復習】参考文献などを用いて復習する。			60								
第8回	一次史料にみる古代の女性 4. 文書		【予習】事前に配布されたプリントを予習する。 【復習】参考文献などを用いて復習する。			60								
第9回	一次史料にみる古代の女性 5. 古記録		【予習】事前に配布されたプリントを予習する。 【復習】参考文献などを用いて復習する。			60								
第10回	文学作品にみる古代の女性 2. 王朝文学		【予習】事前に配布されたプリントを予習する。 【復習】参考文献などを用いて復習する。			60								
第11回	中世以降の変化 1. 家		【予習】事前に配布されたプリントを予習する。 【復習】参考文献などを用いて復習する。			60								
第12回	中世以降の変化 2. 宗教		【予習】事前に配布されたプリントを予習する。 【復習】参考文献などを用いて復習する。			60								
第13回	中世以降の変化 3. 史料の多様化		【予習】事前に配布されたプリントを予習する。 【復習】参考文献などを用いて復習する。			60								
第14回	到達度確認テスト		【予習】これまでの授業内容を振り返り、到達度確認テストに備える。 【復習】授業全体の復習をする。			60								
〔授業の方法〕 配布プリントをもとに、講義内容を詳述します。到達度確認テストを行うほか、授業ごとにリアクションペーパーの提出を求めます。														
〔成績評価の方法〕 到達度確認テスト 60%、リアクションペーパー 40%で評価します。														
〔成績評価の基準〕														

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
日本史

〔テキスト〕
随時配布します。

〔参考書〕
大口勇次郎・成田龍一・服藤早苗編『新 体系日本史9 ジェンダー史』山川出版社、2014年
国立歴史民俗博物館編『企画展示 性差の日本史』2020年
上記2点に加え、必要に応じて授業中に指示します。必ずしも購入する必要はありません。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

科目名	共生社会トピックス（アートと社会）					
教員名	横原 彩					
科目No.	120831120	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期
〔テーマ・概要〕						
<p>「アートプロジェクト」という言葉を耳にしたことはありますか？</p> <p>「アートプロジェクト」とは、おもに 1990 年代以降、日本各地で展開されている共創的芸術活動のことです。「アートプロジェクト」は現代美術にダンス、音楽、演劇など、さまざまな芸術ジャンルで織りなされています。大きな特徴としては、アーティストたちが、美術館や公共ホールなどの施設から飛び出して、野外やまちなか、廃校、廃屋、古民家などで展覧会や演奏会をおこなっていること、さまざまな属性の人びとが関わるコラボレーションと、それを誇発するコミュニケーションが生じていること、作品を展示や上演するだけでなく、多彩な社会的事象と関わりながら展開されていることです。特に近年では、拠点づくりやコミュニティの課題を解決するための社会実験的な活動、芸術以外の社会的包摂や教育、医療などの分野まで、その影響が波及しています。</p> <p>本授業では、実際におこなわれている多様な「アートプロジェクト」の実践を紹介し、「芸術と社会の関係性」について思いを巡らせながら、考察を重ねていきます。</p>						
〔到達目標〕						
<p>アートプロジェクトの実践事例を学び、以下の視座を獲得することを目指します。</p> <p>①「芸術」との関わり方は、「制作する」「鑑賞する」だけではないことを知る。</p> <p>②「芸術」と「社会」の間にある関係性をふりかえり、「芸術」は芸術家やアーティスト、愛好家など限られた人々だけのものなのではなく、自分自身もその主体であるという意識を持つ。</p> <p>③「芸術」を通して社会の課題を解決するという観点について、自分自身の視座を見出す。</p> <p>これらの目標を達成することによって、DP1、DP2、DP3 および DP4 を実現します。</p>						
〔授業の計画と準備学修〕						
回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）			準備学修の目安（分）	
第 1 回	オリエンテーション 【内容】 授業の全体像、進め方、予習・復習の仕方等を説明する。 発表のお手本をおこなう。	【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。			60	
第 2 回	自分にとって「芸術」とはなにかを見つめなおしてみよう（1） 【内容】 履修者の「自分自身と芸術との出会い」について知る。	【予習】発表者はプレゼンテーションの準備をすること。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。			60	
第 3 回	自分にとって「芸術」とはなにかを見つめなおしてみよう（2） 【内容】 履修者の「自分自身と芸術との出会い」について知る。	【予習】発表者はプレゼンテーションの準備をすること。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。			60	
第 4 回	アートプロジェクトとは? 【内容】 アートプロジェクトの現在：大型の地域型芸術祭と都市型芸術祭、そしてさやかな地位型アートプロジェクト	【予習】参考図書や資料などを概観し、自身の興味関心がある視座を明確にしておくこと。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。			60	
第 5 回	美術とアートプロジェクト 【内容】 地域の歴史をリサーチして作品を制作するとは？ 無縁社会のなかで「アートで縁を結ぶ」とは？	【予習】参考図書や資料などを概観し、自身の興味関心がある視座を明確にしておくこと。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。			60	
第 6 回	音楽とアートプロジェクト 【内容】 音楽の専門知識や専門技術を必要とせず、誰もが参加できる音楽祭とは？	【予習】参考図書や資料などを概観し、自身の興味関心がある視座を明確にしておくこと。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。			60	
第 7 回	映画とアートプロジェクト 【内容】 アートプロジェクトで映画祭をつくる？ 映画を制作することでうまれるコミュニケーションとは？	【予習】参考図書や資料などを概観し、自身の興味関心がある視座を明確にしておくこと。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。			60	
第 8 回	演劇とアートプロジェクト 【内容】 その”場”的意味を再構築する？ 演劇のもつ異化効果とは？	【予習】参考図書や資料などを概観し、自身の興味関心がある視座を明確にしておくこと。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。			60	
第 9 回	アートプロジェクト体験 【内容】 実際にアートプロジェクトに参加し、そこに参加する人々とコミュニケーションをとる。 ※課題レポートの提出を求める。	【予習】参考図書や資料などを概観し、自身の興味関心がある視座を明確にしておくこと。 【復習】現場で経験した事象を、自身の言葉で言語化しておく。			120	
第 10 回	社会の課題と向き合うアートプロジェクト（1） 【内容】 地域活性化、観光客誘致と経済波及効果、空き家問題、無縁社会、地域資源の再発見	【予習】参考図書や資料などを概観し、自身の興味関心がある視座を明確にしておくこと。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。			60	
第 11 回	社会の課題と向き合うアートプロジェクト（2） 【内容】 医療現場、高齢化社会	【予習】参考図書や資料などを概観し、自身の興味関心がある視座を明確にしておくこと。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。			60	
第 12 回	社会の課題と向き合うアートプロジェクト（3） 【内容】 社会的包摂、多文化共生	【予習】参考図書や資料などを概観し、自身の興味関心がある視座を明確にしておくこと。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。			60	
第 13 回	社会の課題と向き合うアートプロジェクト（4） 【内容】 震災、レジリエンス	【予習】参考図書や資料などを概観し、自身の興味関心がある視座を明確にしておくこと。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。			60	

第14回	まとめ 【内容】 期末レポートのポイントを整理しつつ、授業の内容を振り返る。	【予習】期末レポートの資料を収集しておくこと。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
	〔授業の方法〕 授業は主に講義形式でおこなうが、トピックに応じてグループワークや質疑応答を行う双方向授業を取り入れることから、十分な予習と復習が求められる。また、課題レポートの執筆を通して調査研究の実践を経験し、期末レポートの執筆によって、知識の定着と自身の興味関心の拠り所を言語化する技術を習得する。 ※社会情勢や授業の進捗によって、内容を一部変更する場合がある。		
〔成績評価の方法〕 平常点（授業への参加状況や宿題レポートの提出状況）：50% 個人の発表・パフォーマンス：10% 課題レポート：20% 期末レポート：20%			
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39. 次の点に着目し、その達成度により評価する。 ①「芸術」と「社会」の関係性について、自分自身で課題を見出すことができるか。 ②自らが見出した課題と視座について、考察し、言語化することができるか。			
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特になし			
〔テキスト〕 特になし			
〔参考書〕 『アートプロジェクト 芸術と共に創する社会』、熊倉純子監修、水曜社、本体3,200円+税、9784880653334			
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。			
〔特記事項〕 アクティブラーニング			